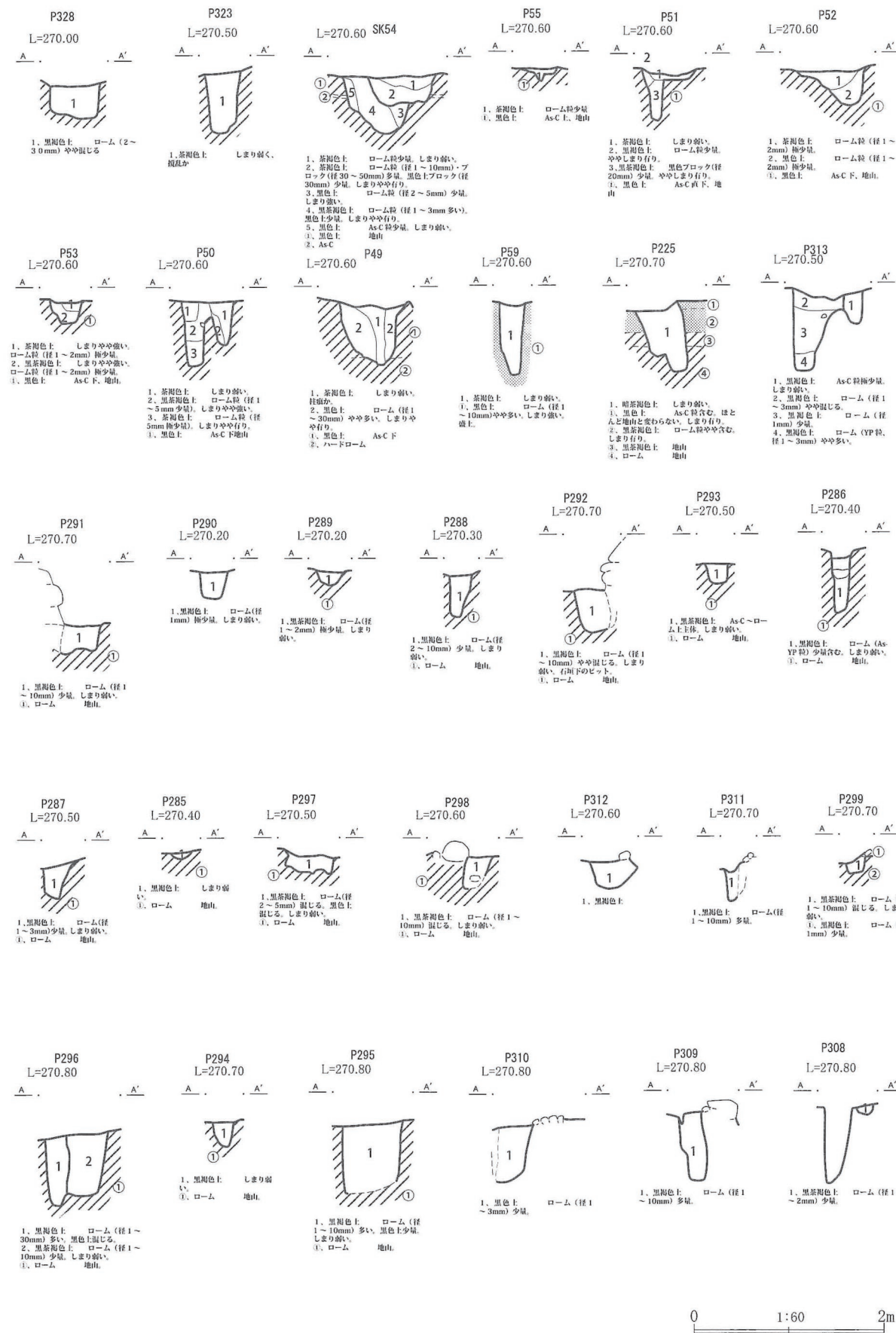
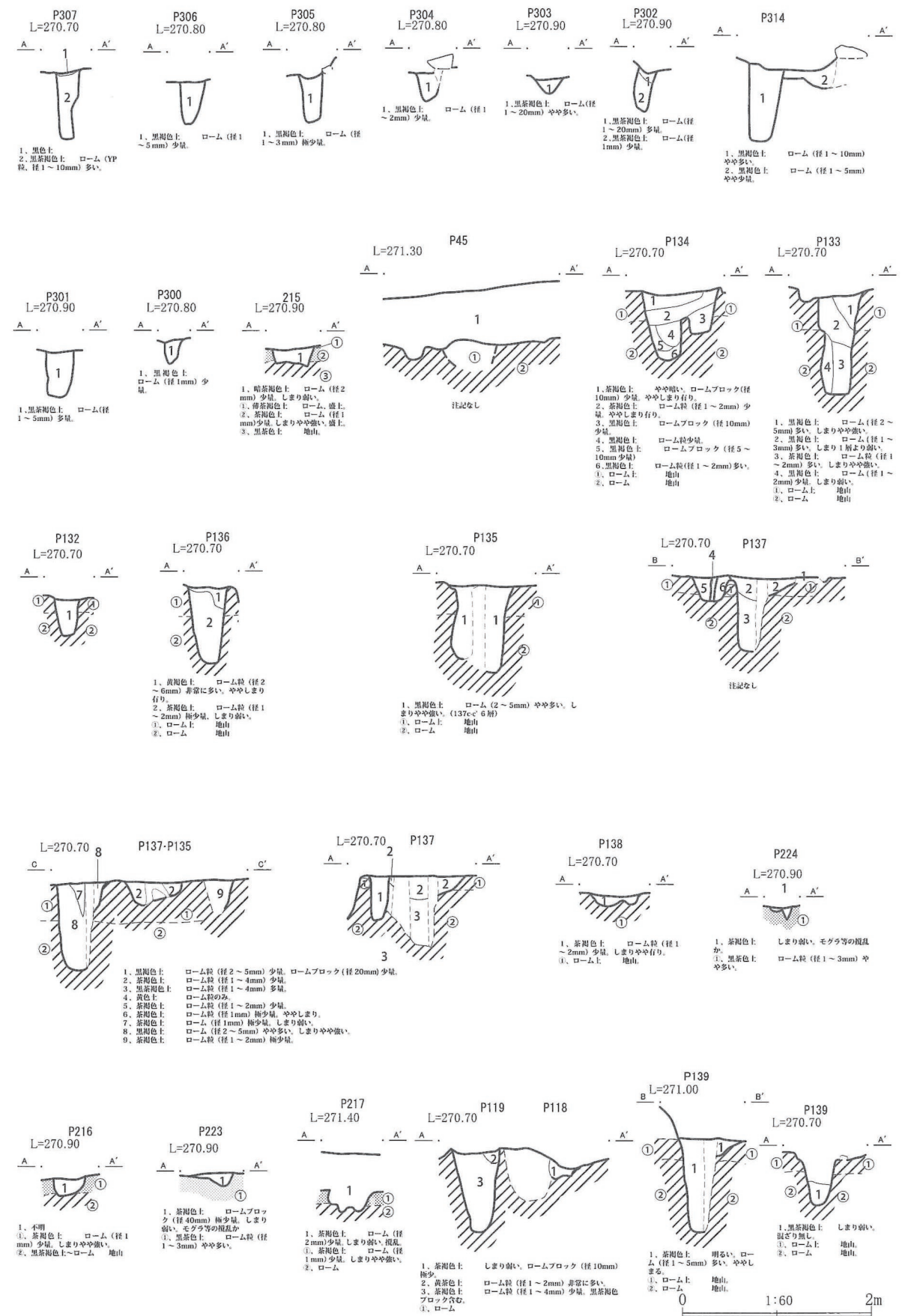
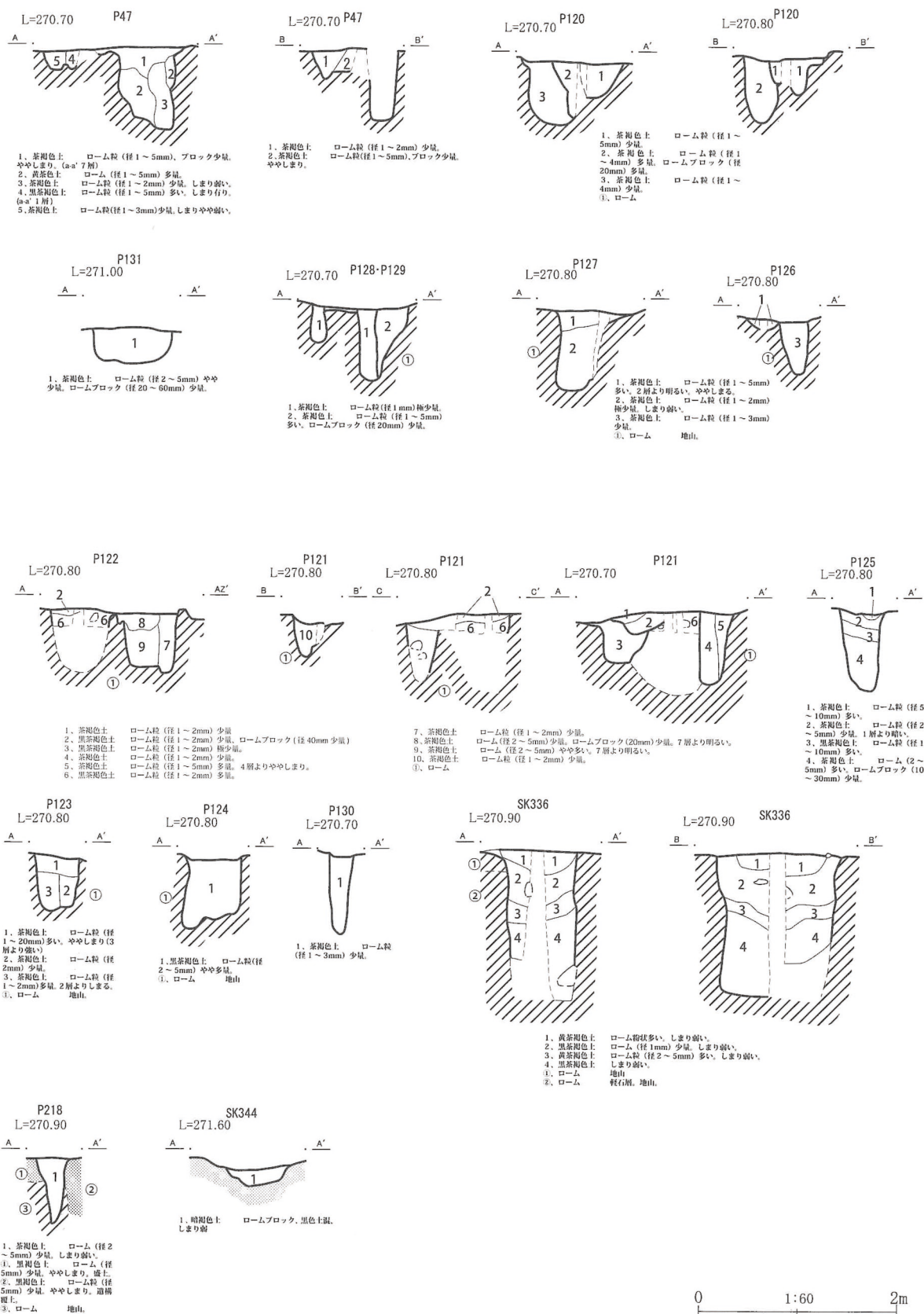




第32図 三の丸地区 A3~A5・B3~B5 グリット (ピットセクション図②)

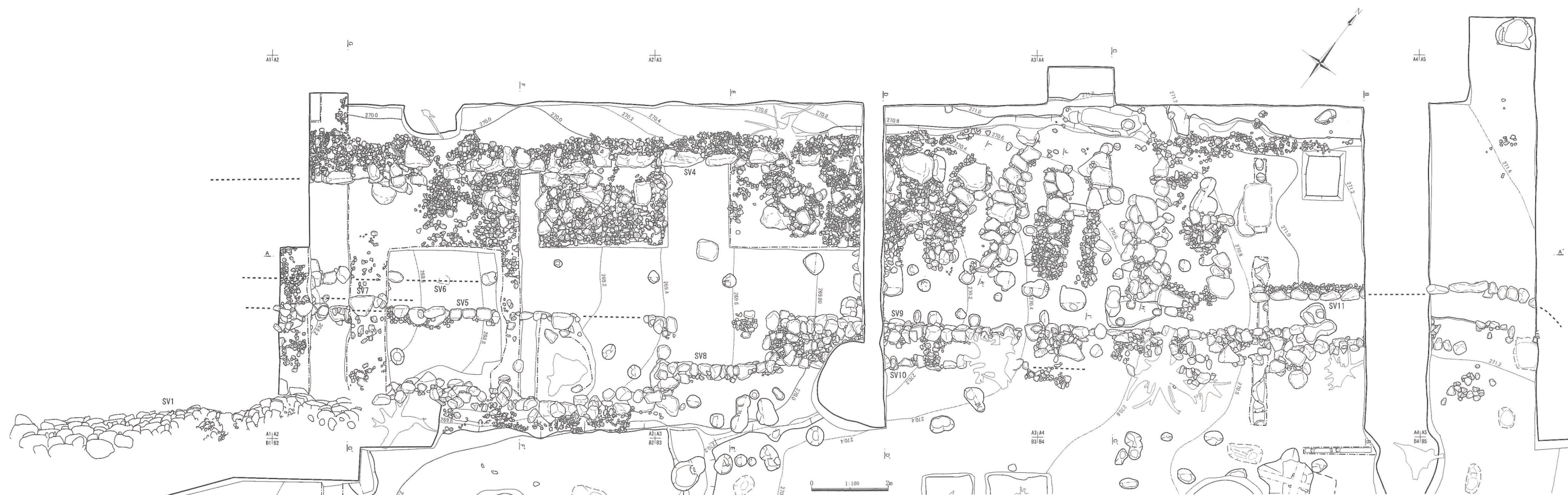
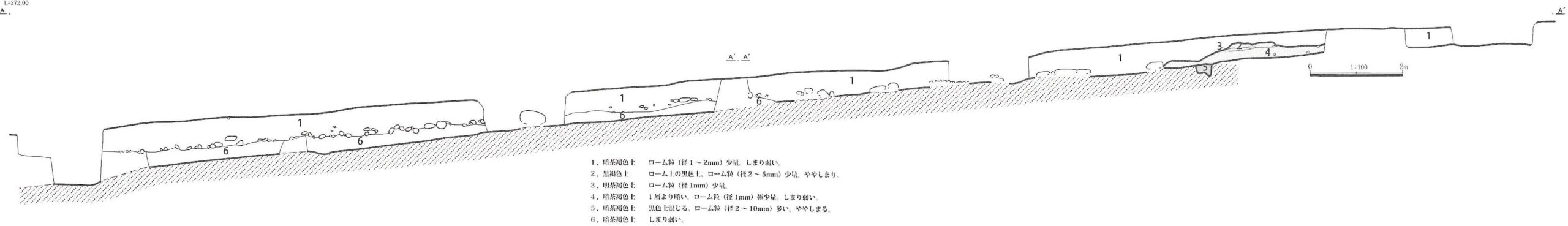


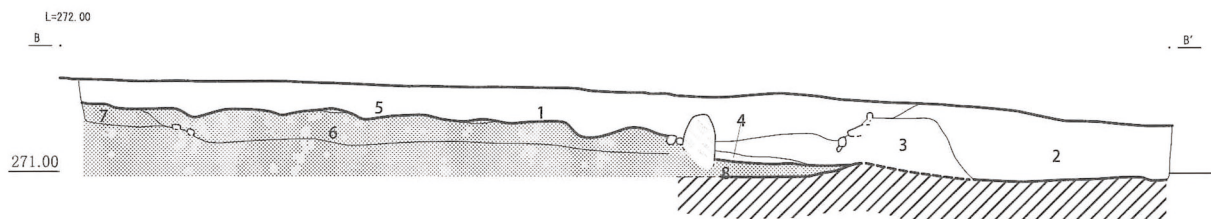
第33図 三の丸地区 A3~A5・B3~B5 グリット (ピットセクション図③)



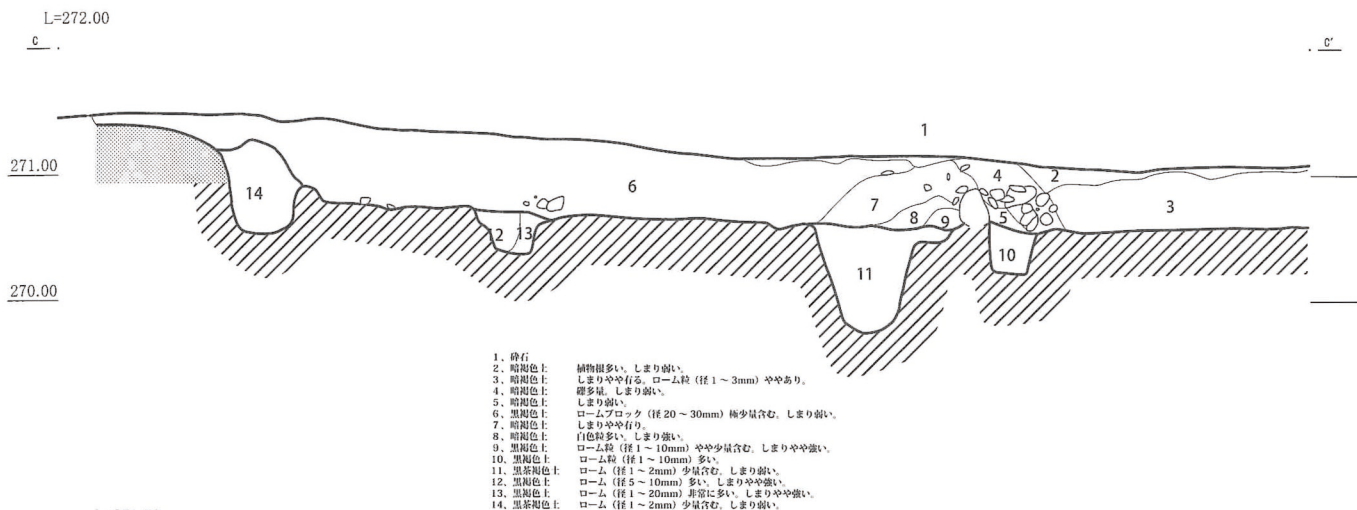
第34図 三の丸地区 A3~A5・B3~B5 グリット (ピットセクション図④)

L=272.00
A

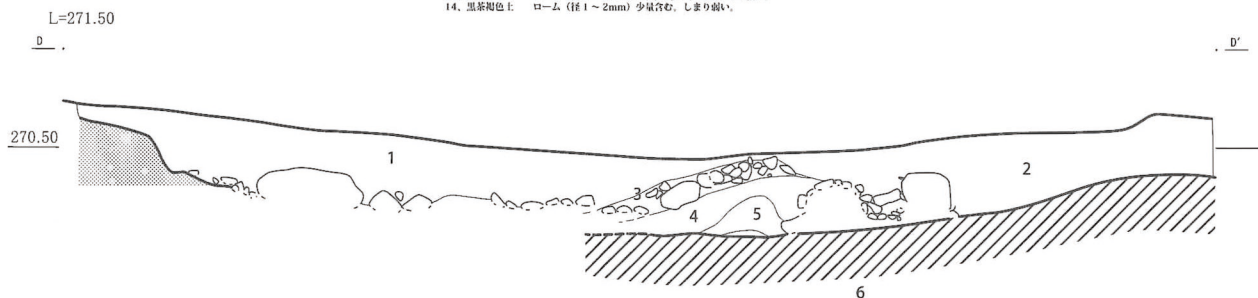




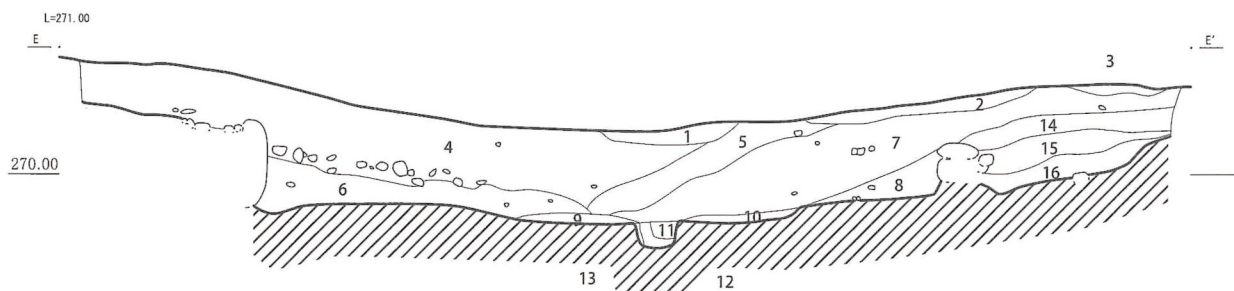
- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 1. 黒褐色土 | ロームブロック (径 20 ~ 30mm) 極少量含む。しまり強い。 |
| 2. 黒褐色土 | ローム (径 1 ~ 20mm) やや強い。 |
| 3. 黒褐色土 | ローム (径 1 ~ 2mm) 極少量混じる。 |
| 4. 黒色土 | As-B, As-C 少量混じる。 |
| 5. 黒色土 | |
| 6. 黒褐色土 | 黒色土ブロック極少量混じる。ローム (径 1 ~ 5mm) 極少量混じる。 |
| 7. 黒色土 | ローム (径 1 ~ 5mm) やや強い。 |
| 8. 黒茶褐色土 | ローム (径 1 ~ 10mm) やや多量に混じる。 |



- | | |
|-----------|------------------------------------|
| 1. 砕石 | |
| 2. 暗褐色土 | 植物根多い。しまり強い。 |
| 3. 暗褐色土 | しまりやや有る。ローム粒 (径 1 ~ 3mm) ややあり。 |
| 4. 暗褐色土 | 礫多量。しまり強い。 |
| 5. 暗褐色土 | しまり強い。 |
| 6. 黒褐色土 | ロームブロック (径 20 ~ 30mm) 極少量含む。しまり強い。 |
| 7. 暗褐色土 | しまりやや有る。 |
| 8. 暗褐色土 | 白色砂多い。しまり強い。 |
| 9. 黒褐色土 | ローム粒 (径 1 ~ 10mm) やや少量含む。しまりやや強い。 |
| 10. 黒褐色土 | ローム粒 (径 1 ~ 10mm) 多い。 |
| 11. 黒茶褐色土 | ローム (径 1 ~ 2mm) 少量含む。しまり強い。 |
| 12. 黒褐色土 | ローム (径 5 ~ 10mm) 多い。しまりやや強い。 |
| 13. 黒褐色土 | ローム (径 1 ~ 20mm) 非常に多い。しまりやや強い。 |
| 14. 黒茶褐色土 | ローム (径 1 ~ 2mm) 少量含む。しまり強い。 |



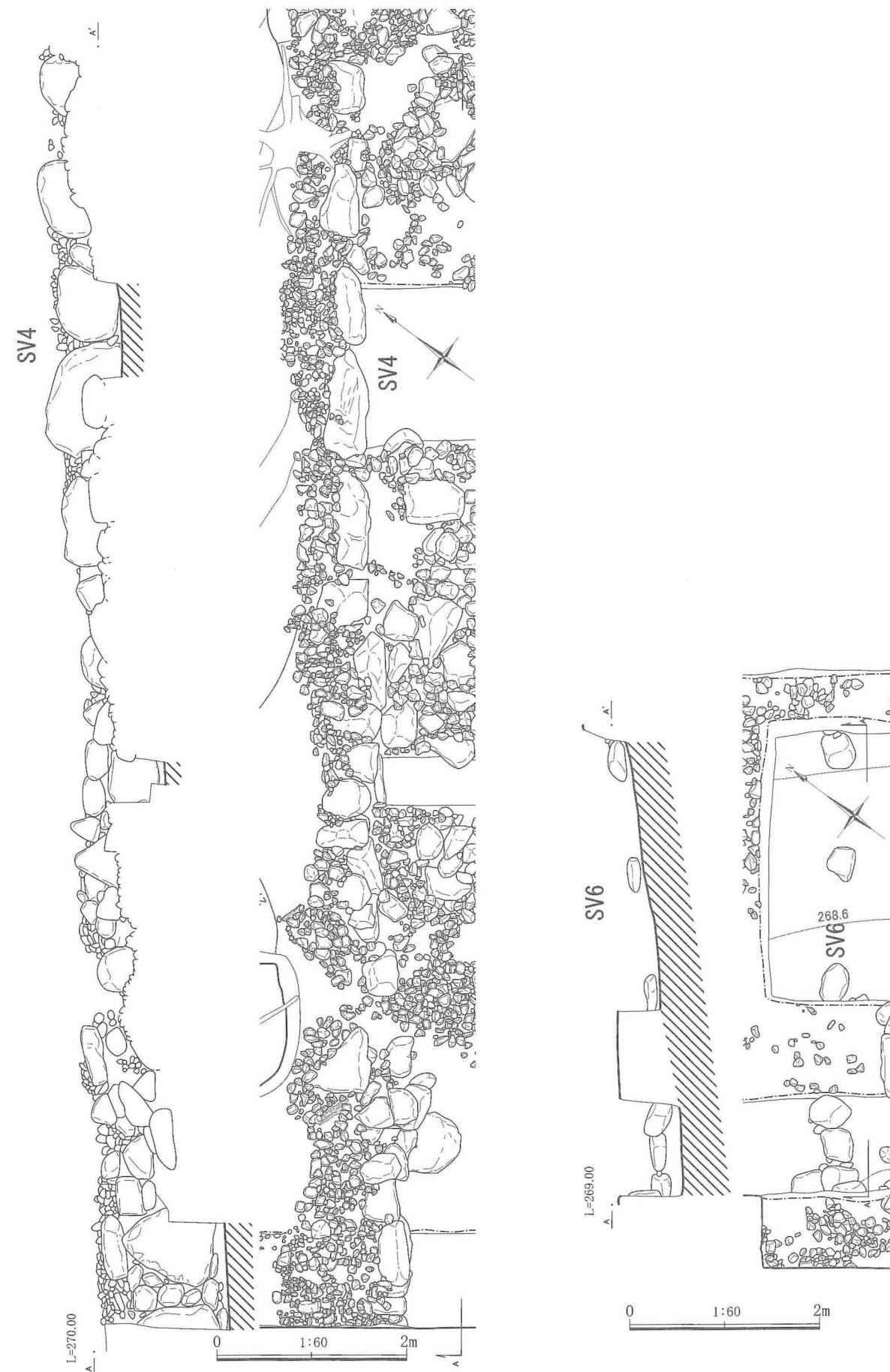
- | | |
|---------|--|
| 1. 黒褐色土 | 礫多量に混じる。ロームブロック (径 20 ~ 30mm) 極少量含む。しまり強い。 |
| 2. 黒褐色土 | ローム (径 1 ~ 2mm) 極少量混じる。 |
| 3. 黒褐色土 | 石(河川砂)多量。土は 2, 4 層とはほとんど変わらぬ。 |
| 4. 黒褐色土 | ローム (1 ~ 2mm) 極少量含む。ややしまり有る。 |
| 5. 黒褐色土 | ローム, As-B, As-C (径 1 ~ 3mm) 少量含む。しまり強い。 |
| 6. 灰褐色土 | しまり強い。 |

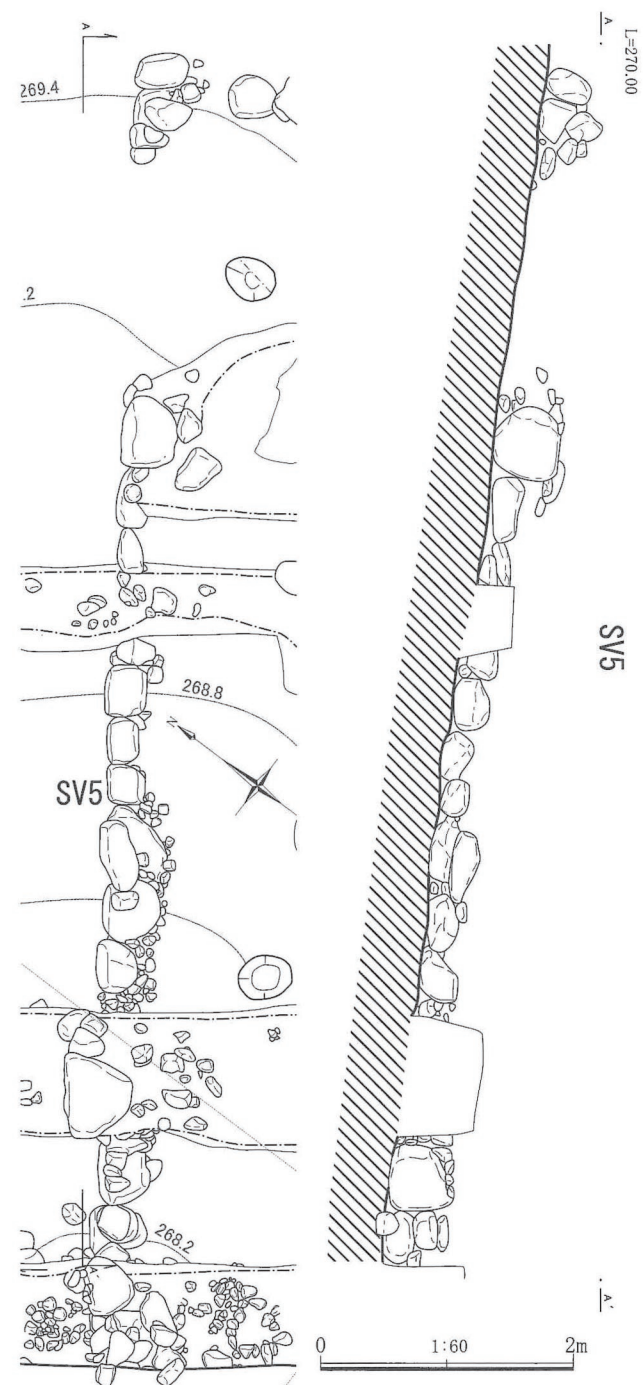
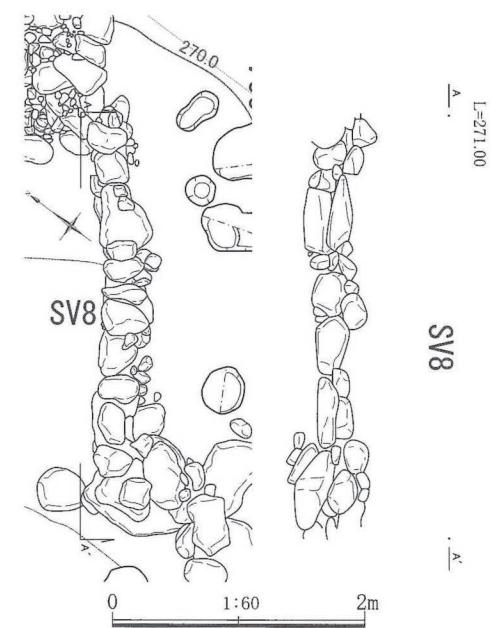


- | | | | |
|---------|--|-----------|---|
| 1. 暗褐色土 | 礫混じり | 9. 黒暗褐色土 | しまり強い。 |
| 2. 黒色土 | (表土) | 10. 暗褐色土 | しまり強い。 |
| 3. 黒色土 | (表土) | 11. 黄暗褐色土 | 小礫 (径 1mm ~ 20mm) 非常に多く含む。ローム粒子含む。しまり強い。 |
| 4. 黒褐色土 | 礫多量に混じる。ロームブロック (径 20 ~ 30mm) 極少量含む。しまり強い。 | 12. 暗褐色土 | ローム粒子混じる。しまり強い。 |
| 5. 暗褐色土 | 4 層より明るい。しまり強い。 | 13. 暗褐色土 | 12 層よりしまり強い。 |
| 6. 黒褐色土 | (4 層より明るい)。しまり強い。 | 14. 暗茶褐色土 | 白色砂粒。ローム粒 (径 1 ~ 2mm) 少量含む。しまり強い。 |
| 7. 暗褐色土 | しまりやや強い。 | 15. 暗茶褐色土 | 白色砂粒 (径 1 ~ 2mm 極少量含む)。ローム粒 (径 1 ~ 2mm) 少量含む。しまり普通。 |
| 8. 暗褐色土 | 7 層よりやや強い。7 層よりややしまり強い。小礫やや多い。 | 16. 黒茶褐色土 | ローム粒 (径 2 ~ 10mm) やや多い。しまり強い。 |

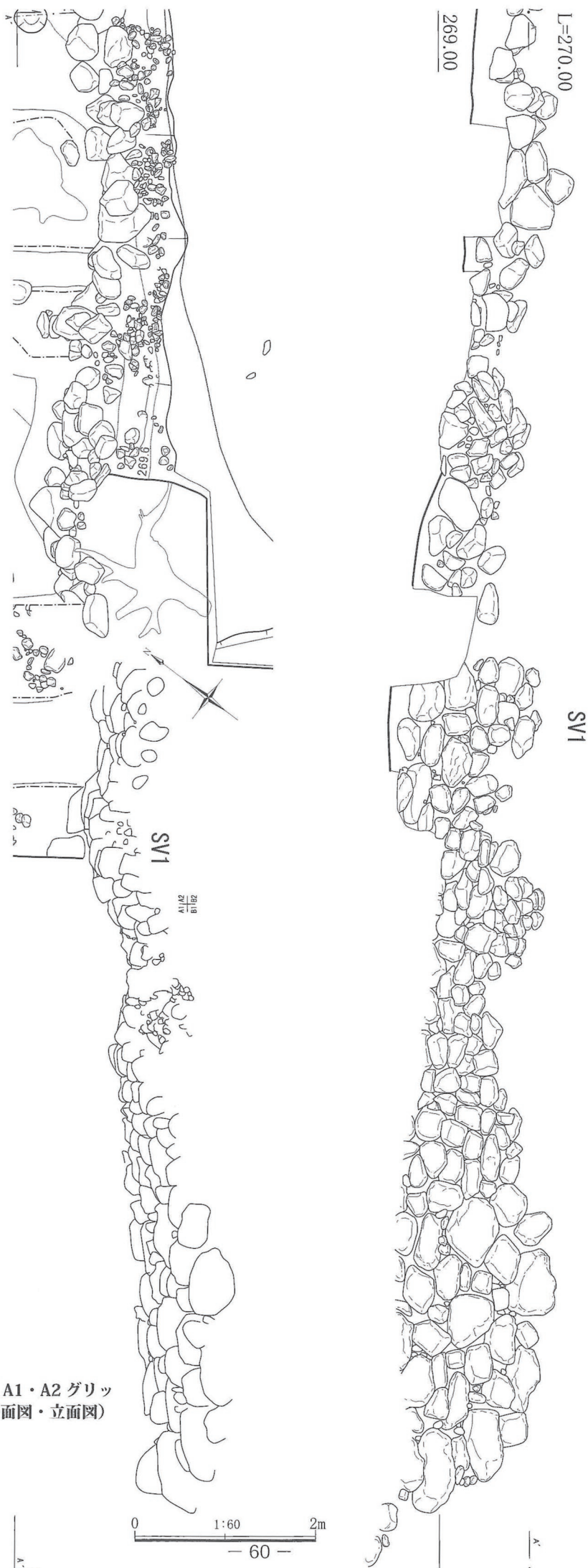
第 36 図 三の丸地区 A1 ~ A5 グリット (セクション図②)

0 1:60 2m

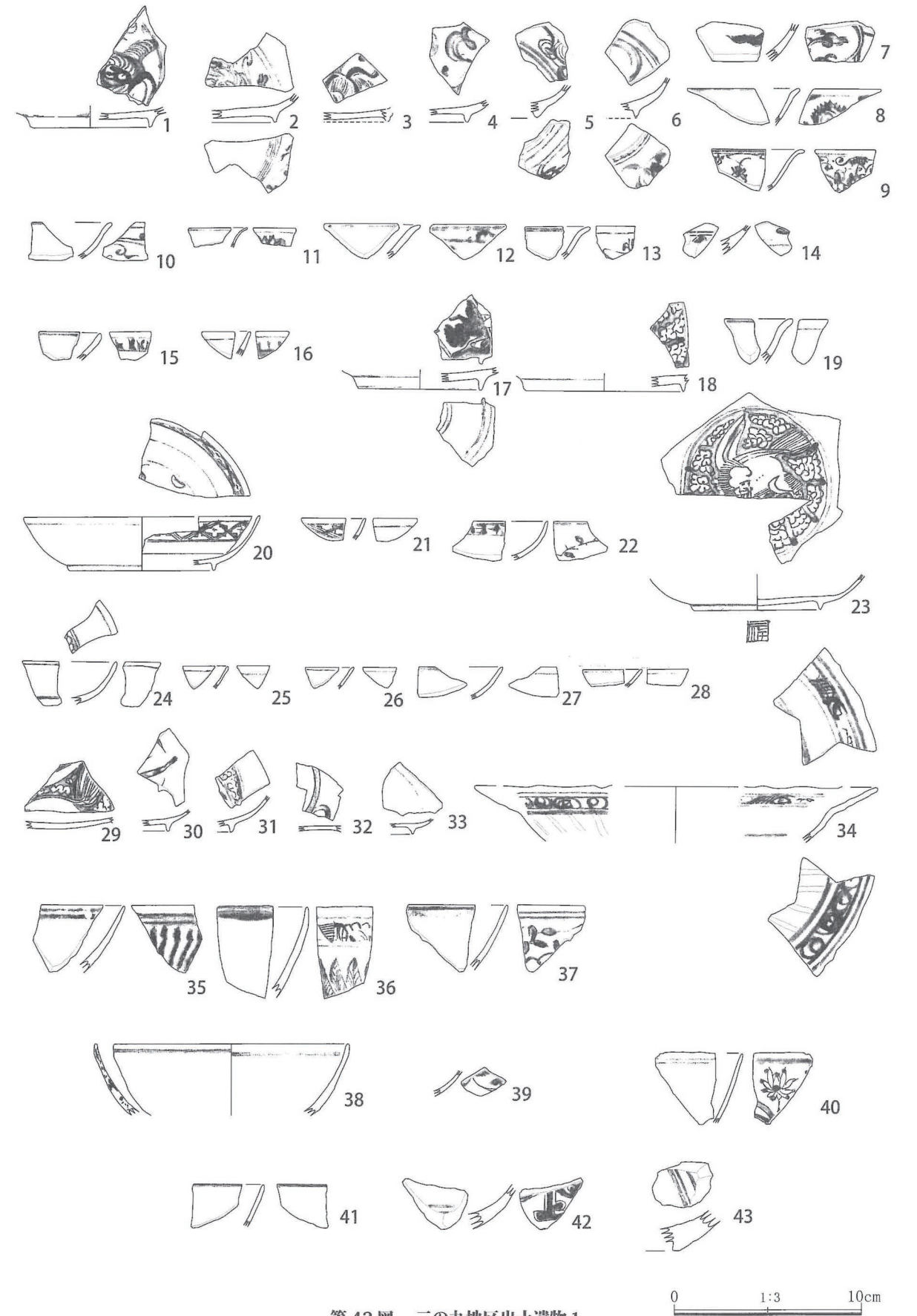
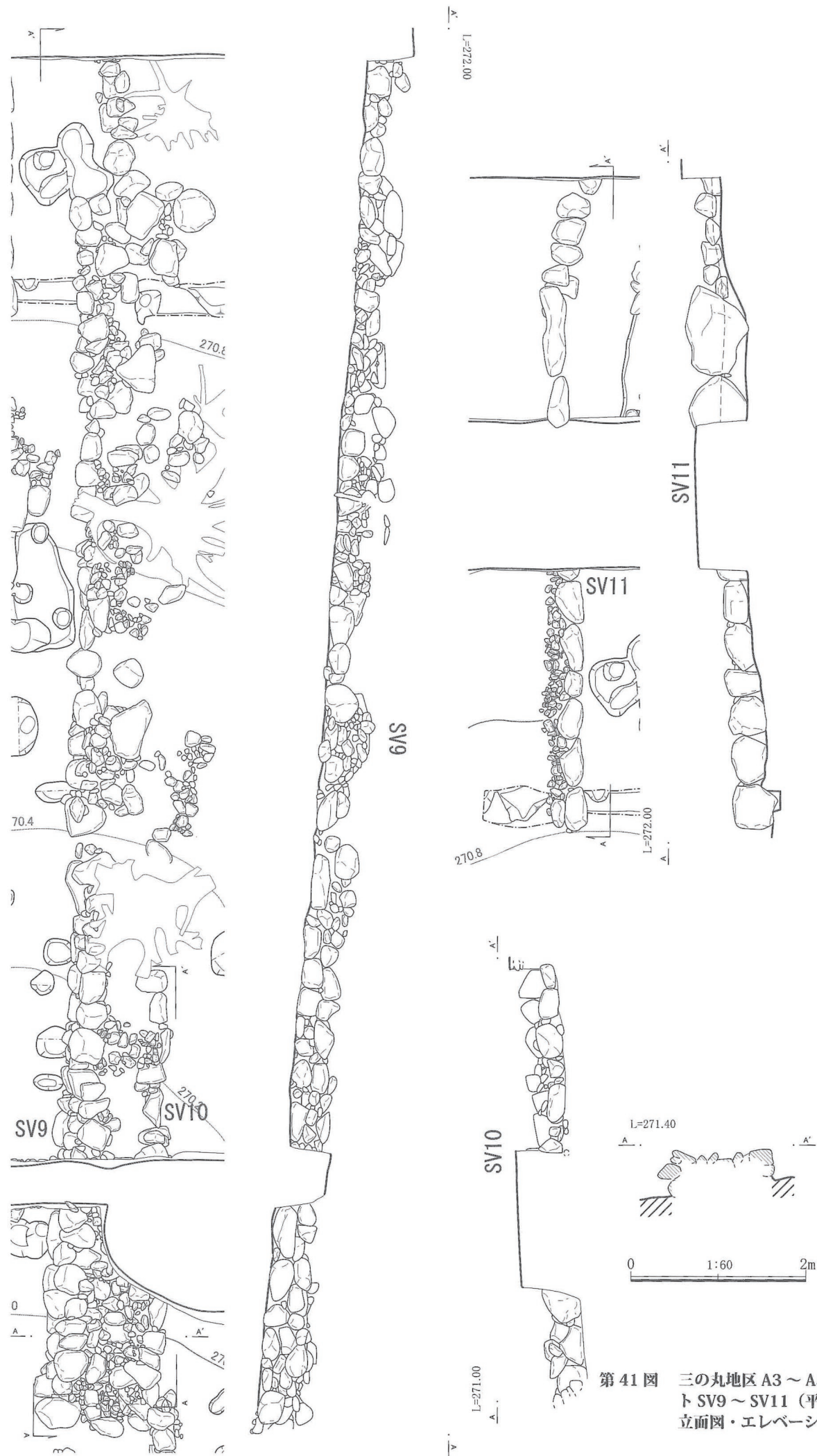


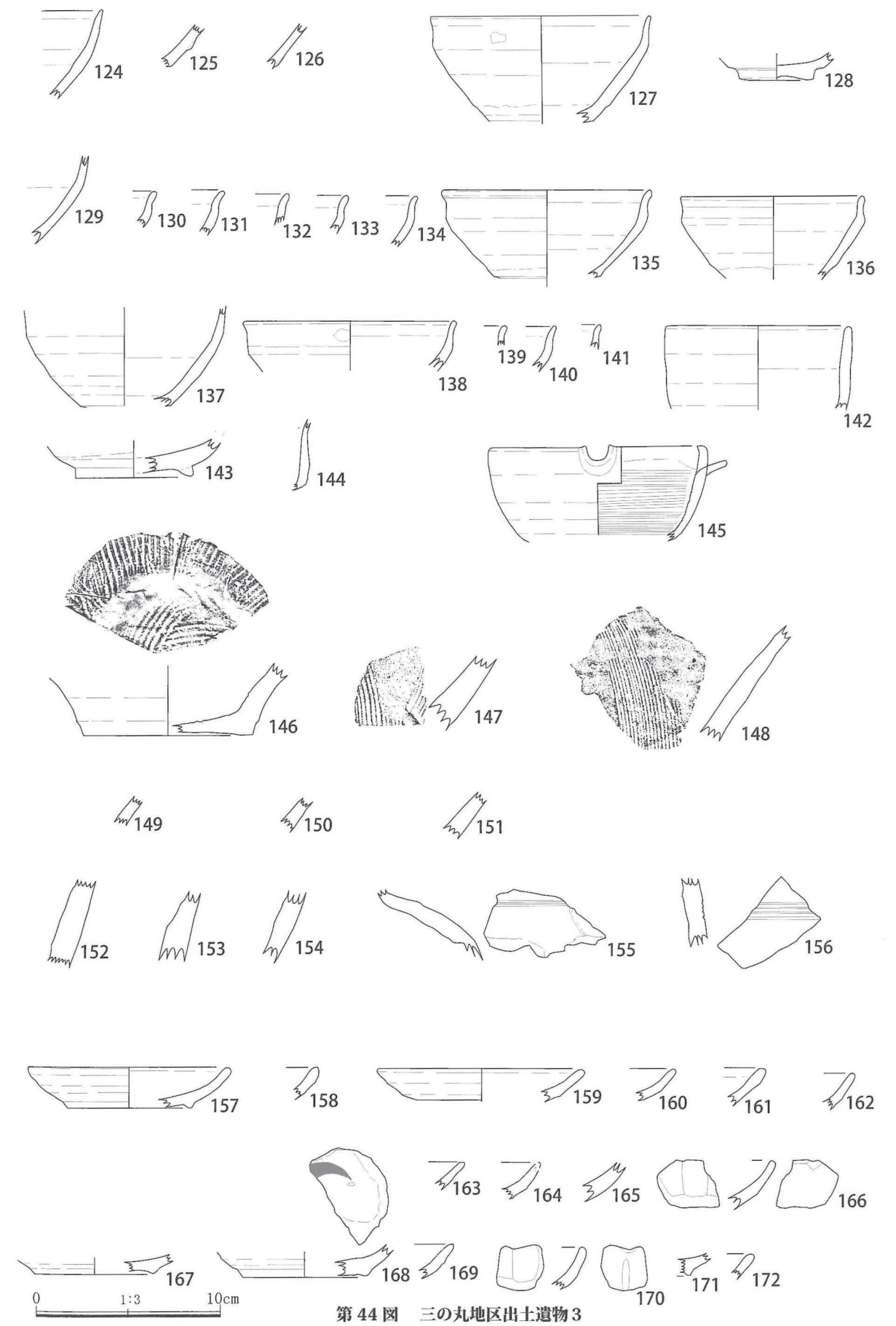
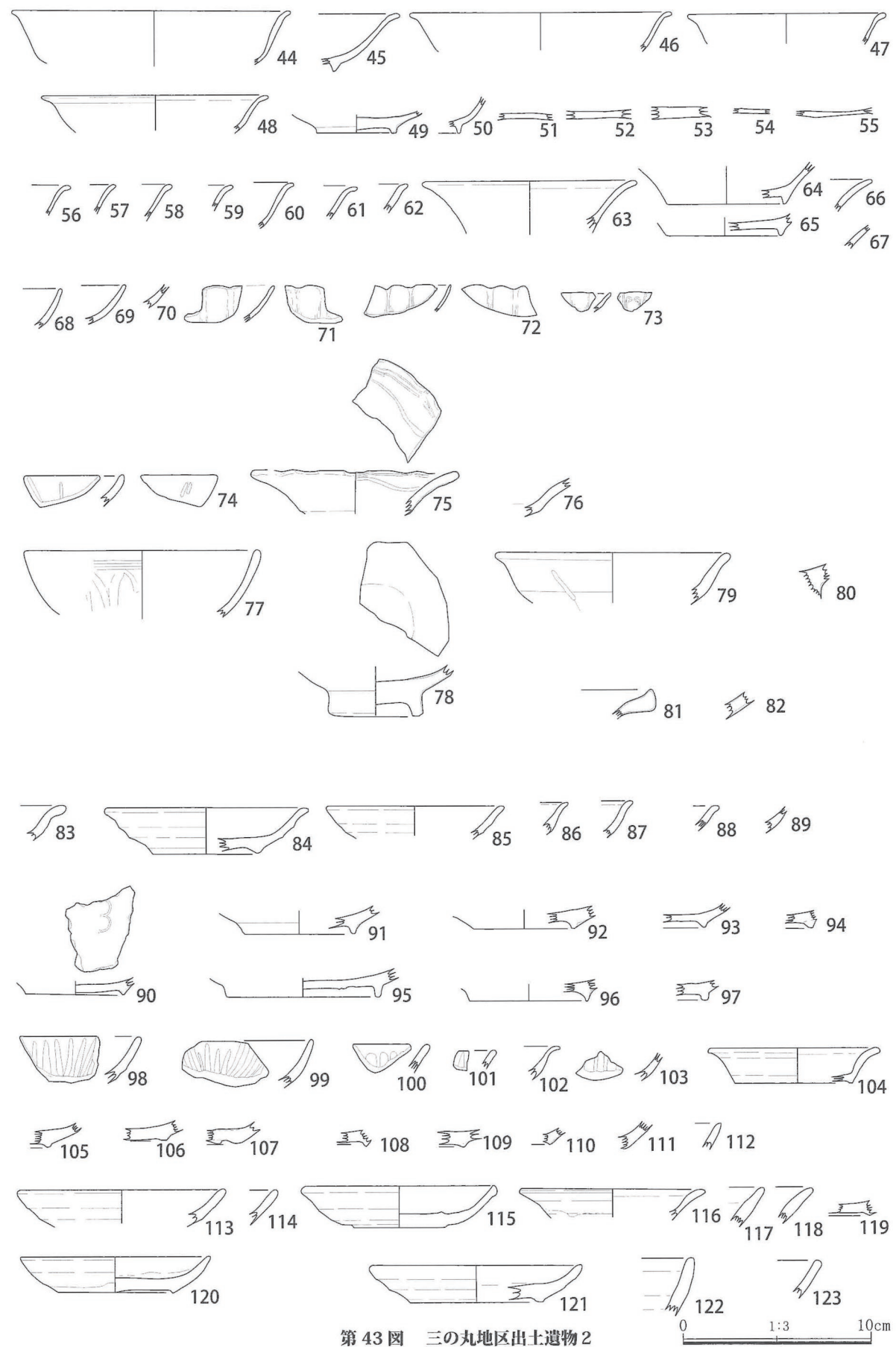


第 40 図 三の丸地区 A2・A3 グリット SV5・SV8 (平面図・立面図)



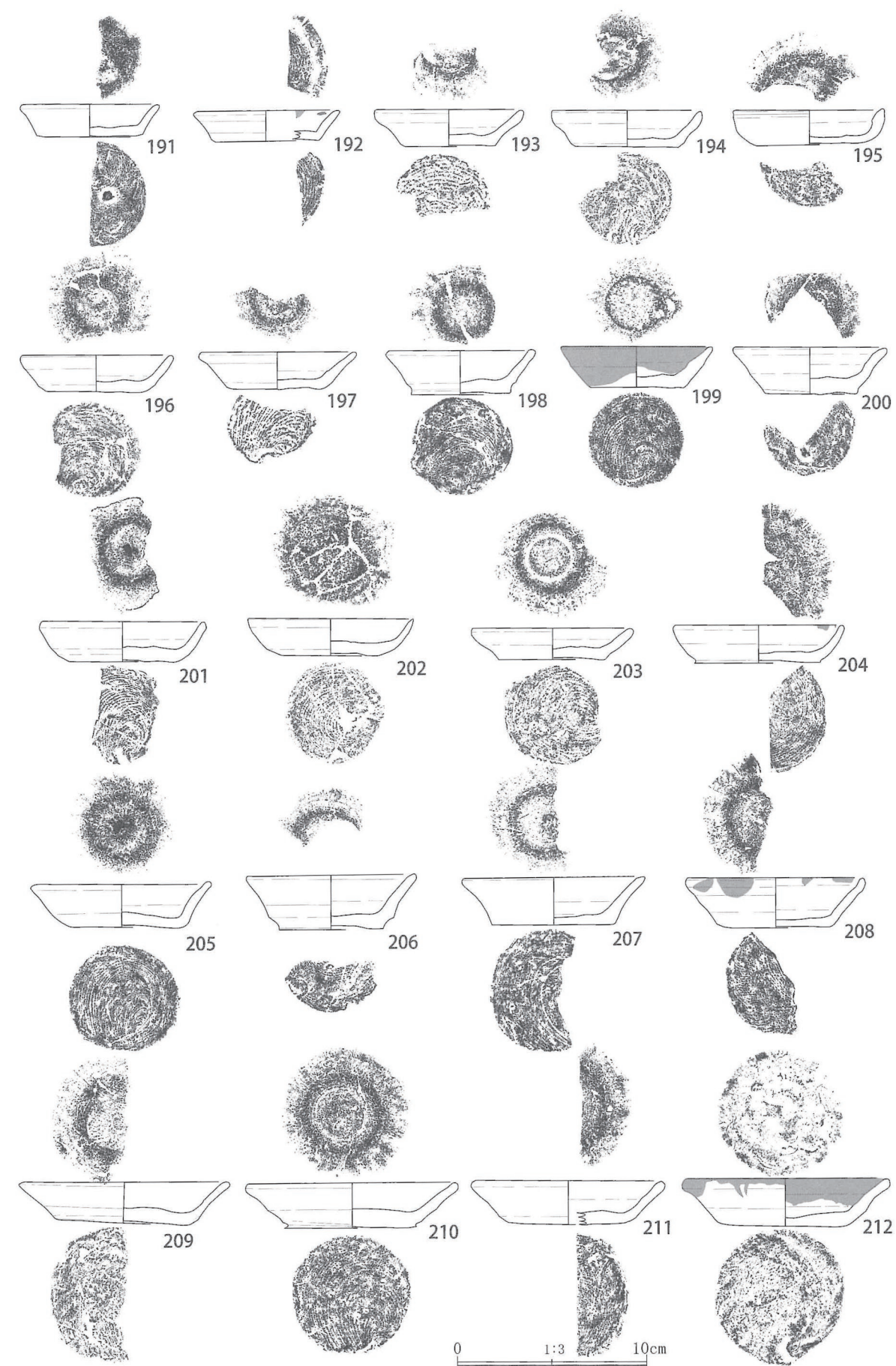
第 39 図 三の丸地区 A1・A2 グリット SV1 (平面図・立面図)



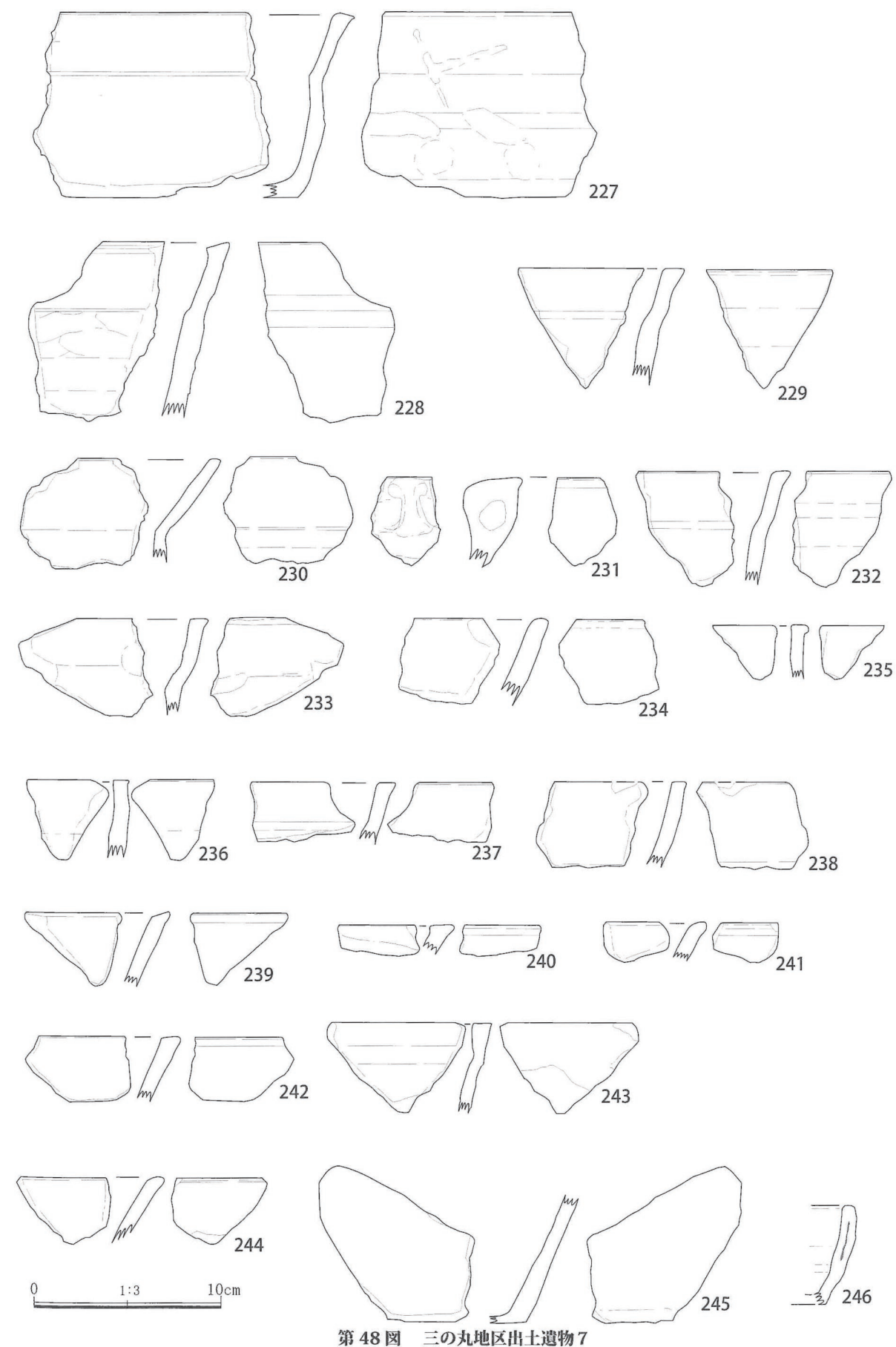
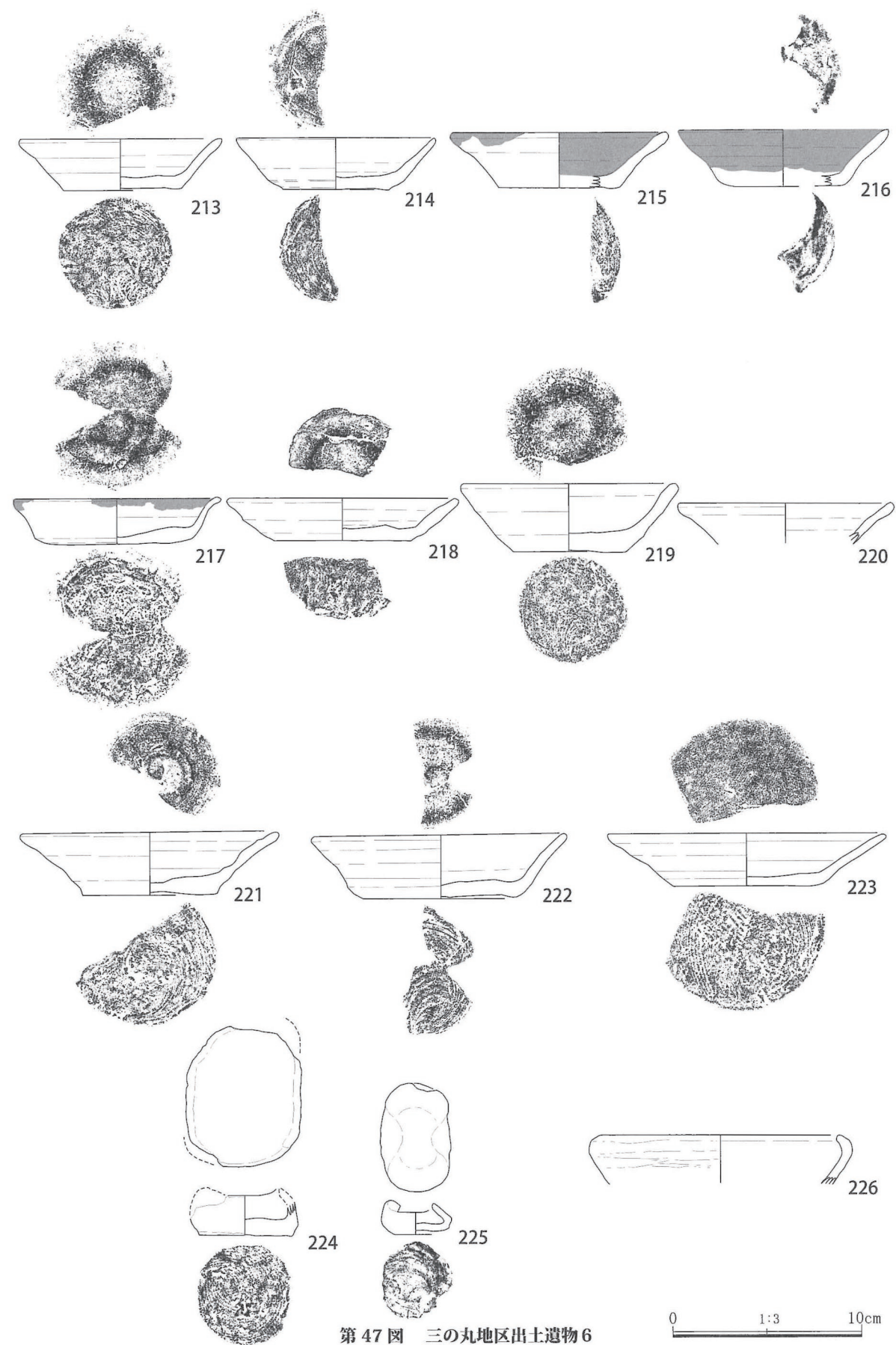


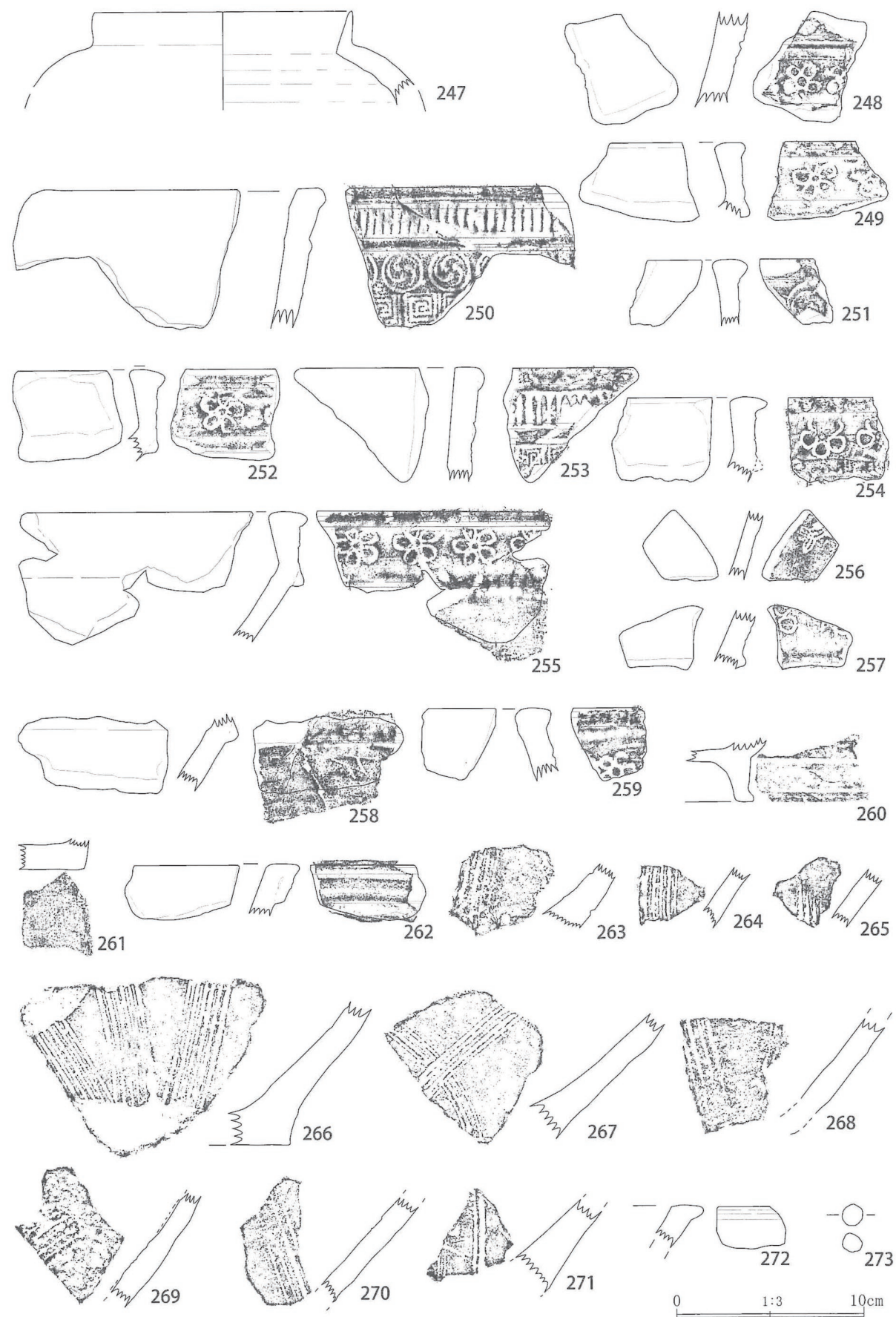


第 45 図 三の丸地区出土遺物 4

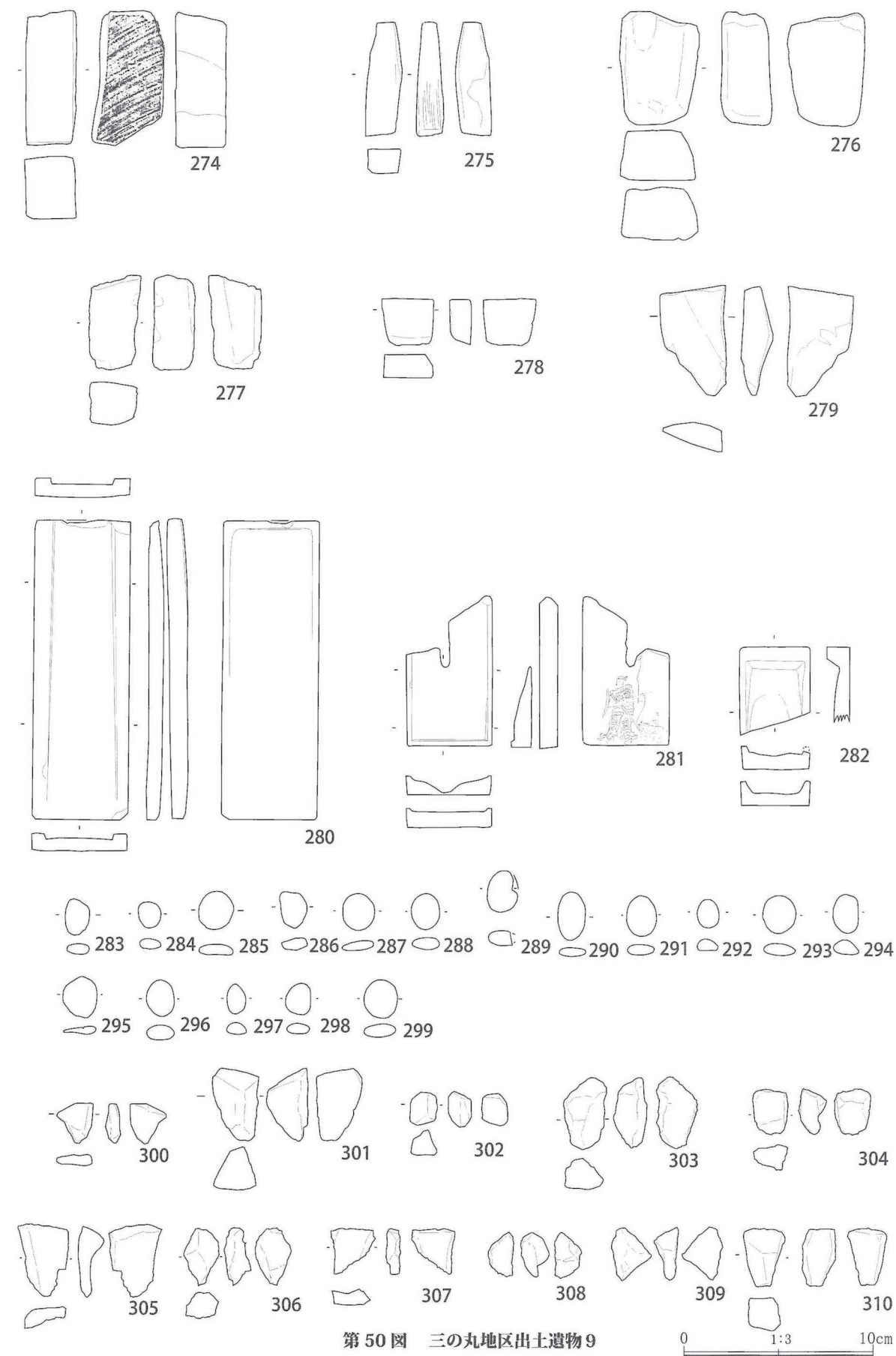


第 46 図 三の丸地区出土遺物 5

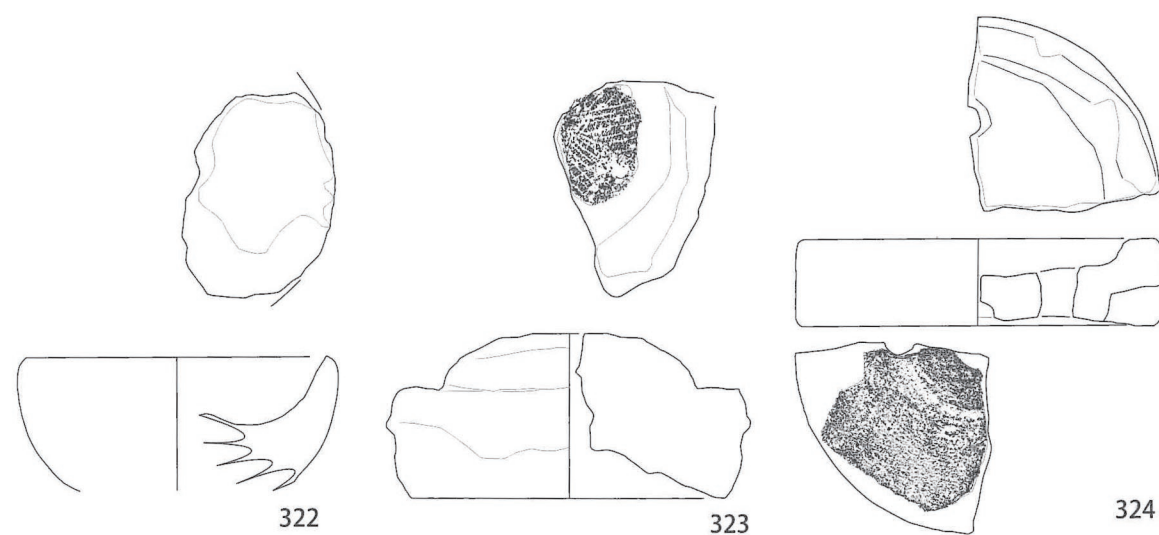
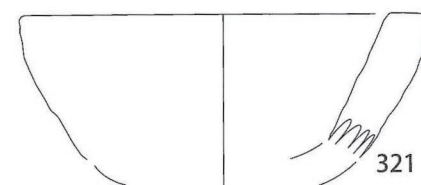
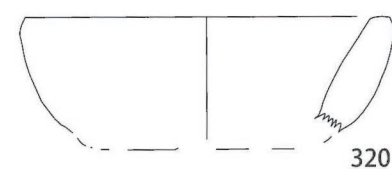
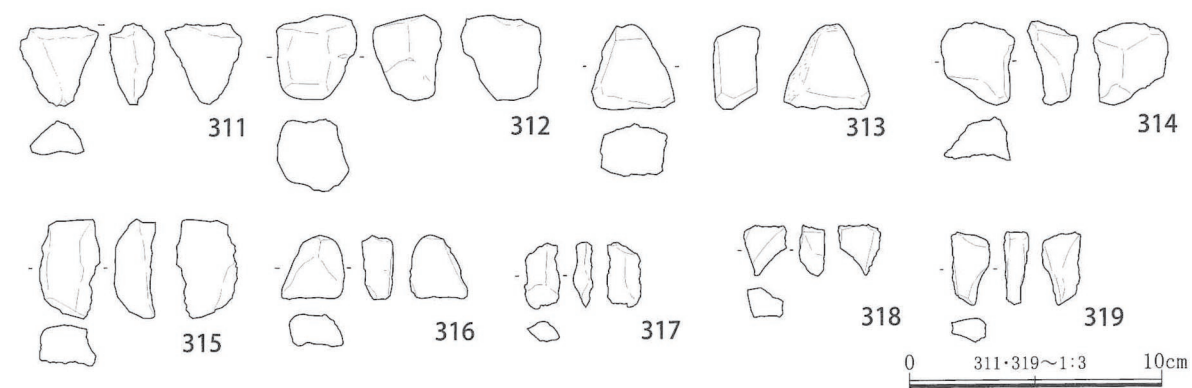




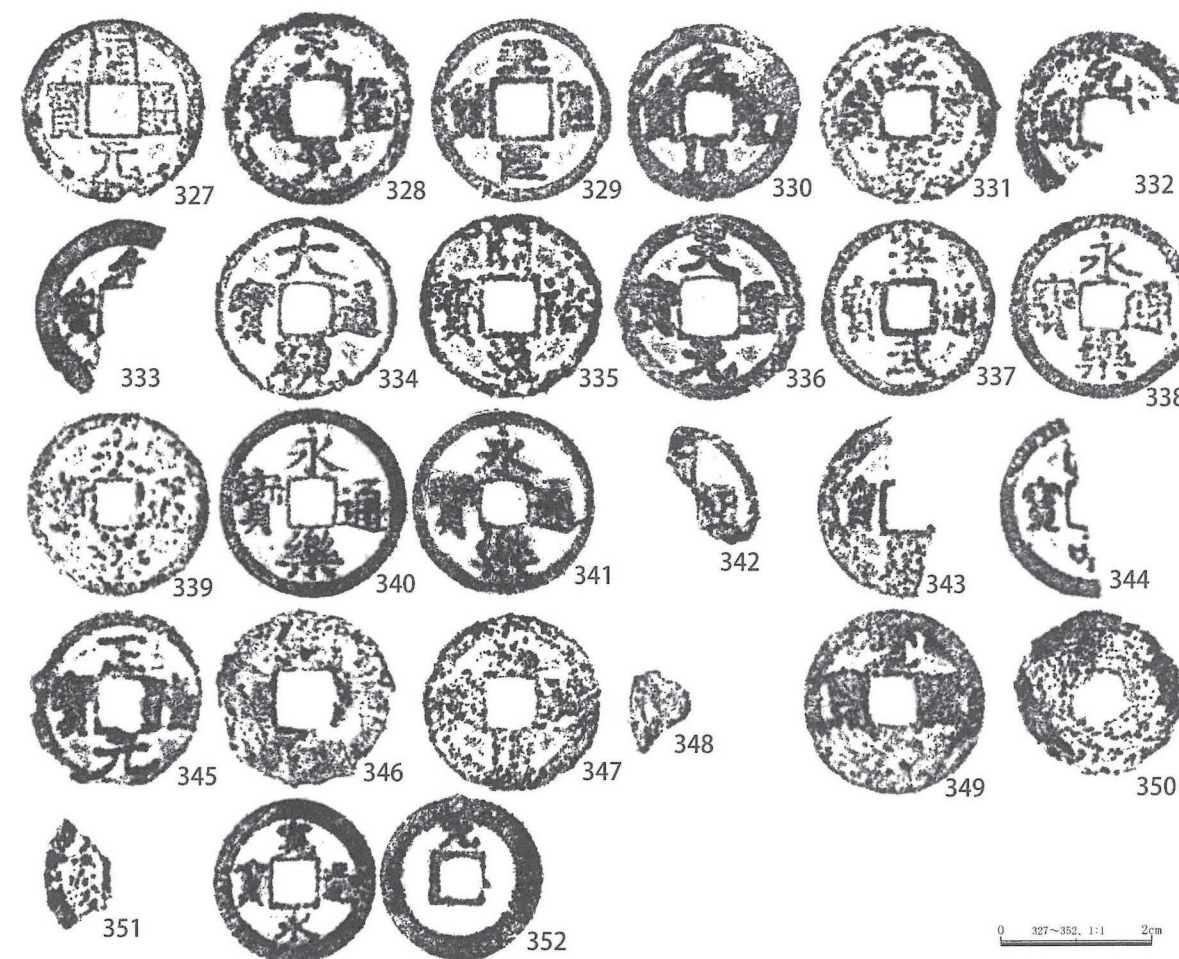
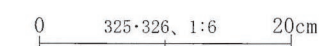
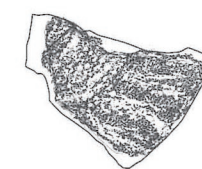
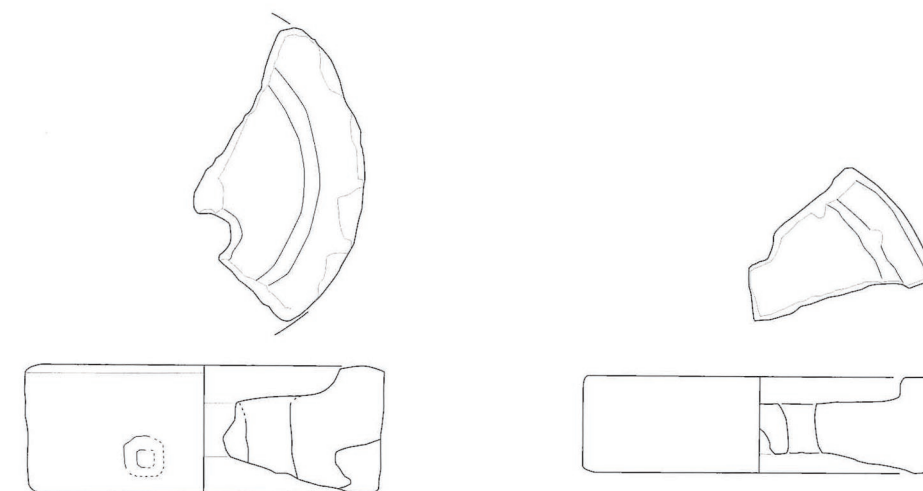
第 49 図 三の丸地区出土遺物 8



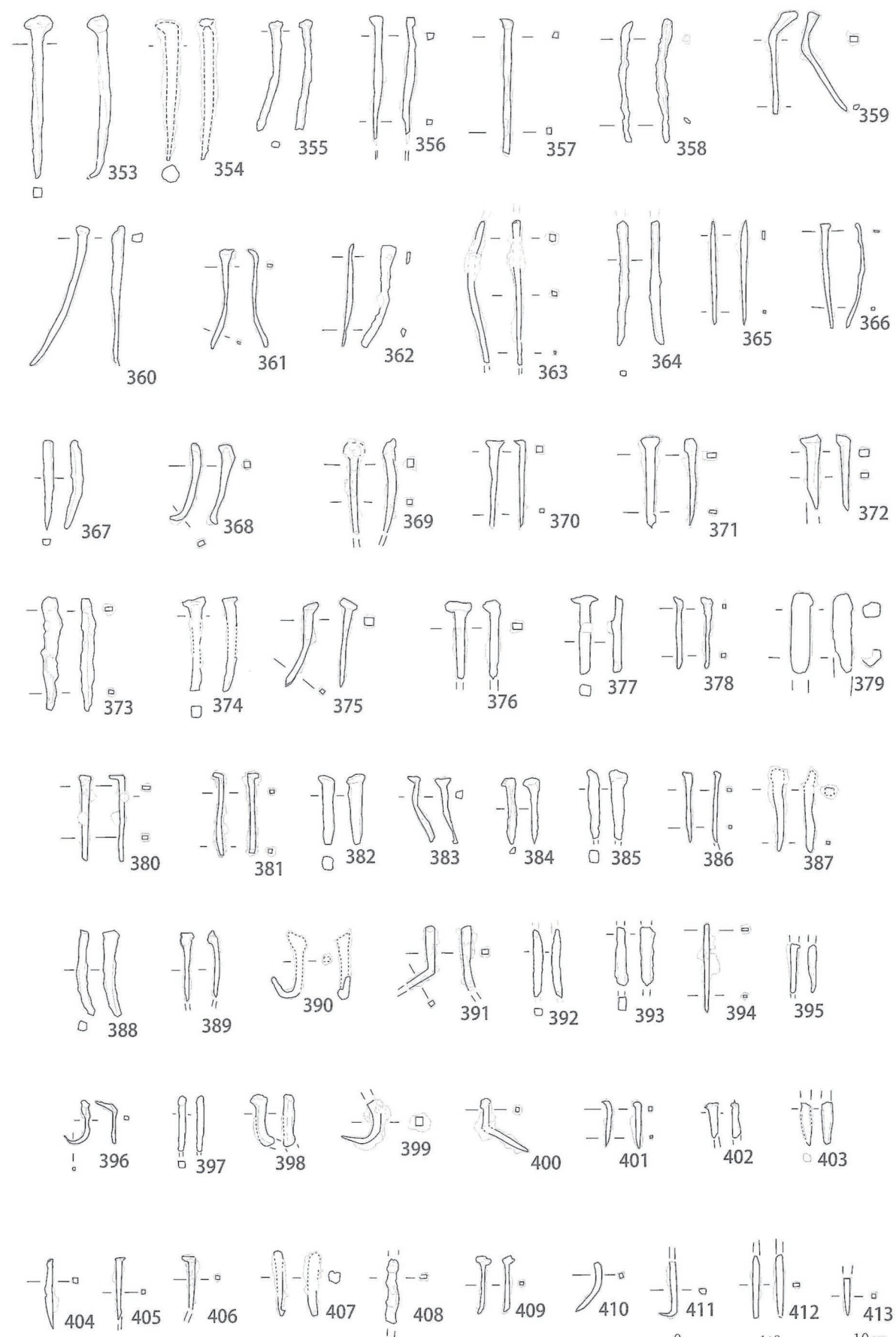
第 50 図 三の丸地区出土遺物 9



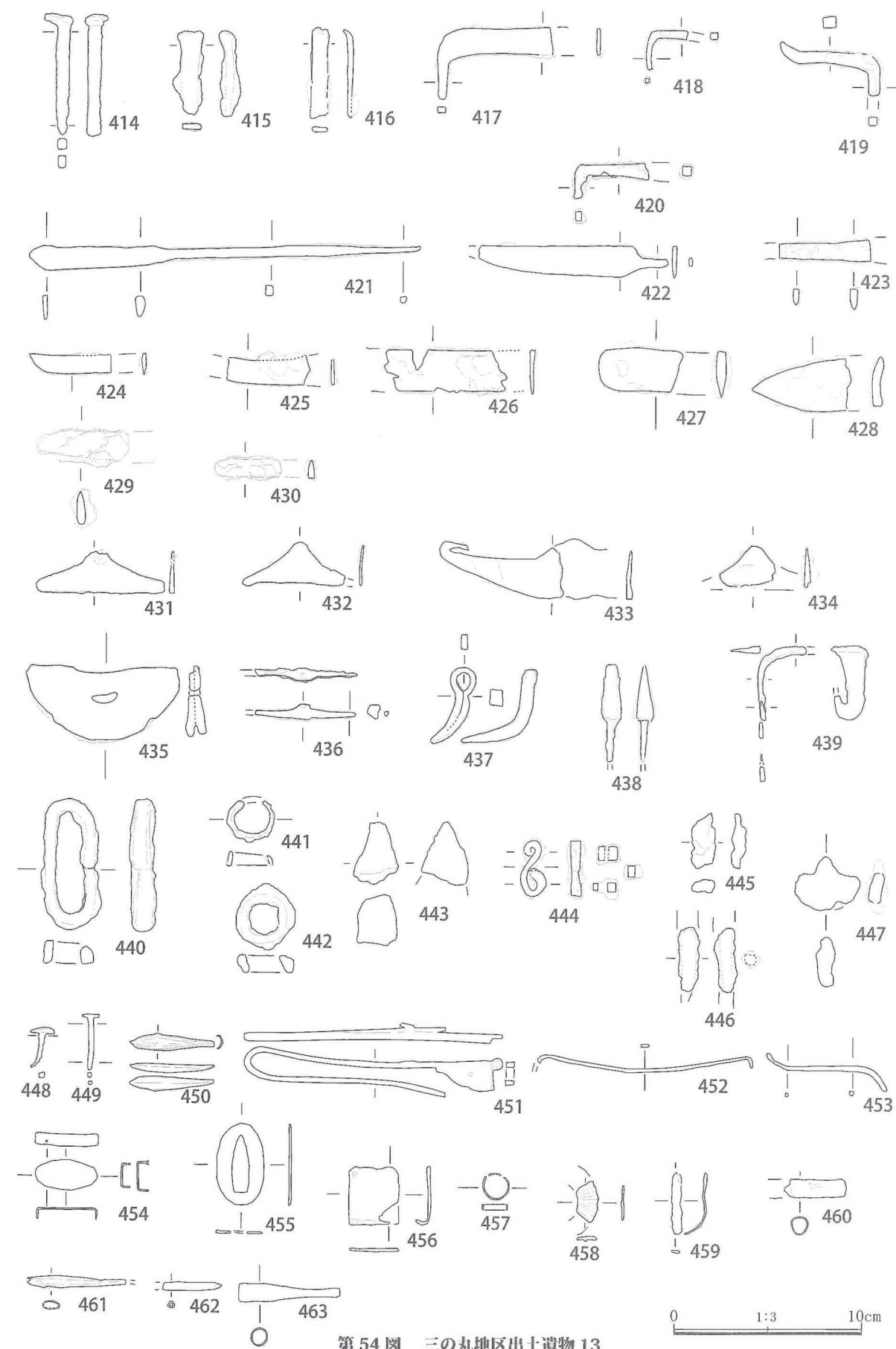
第 51 図 三の丸地区出土遺物 10



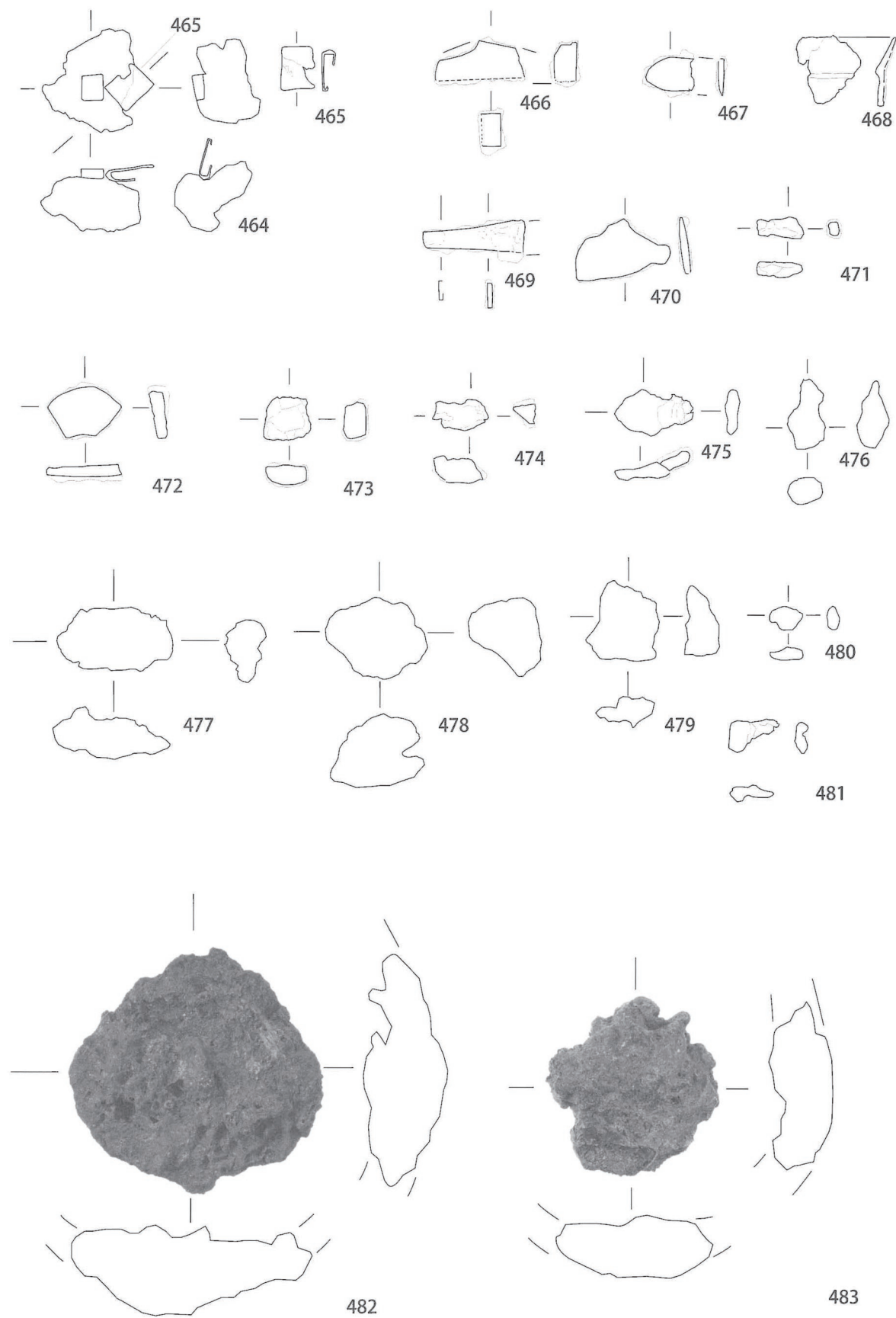
第 52 図 三の丸地区出土遺物 11



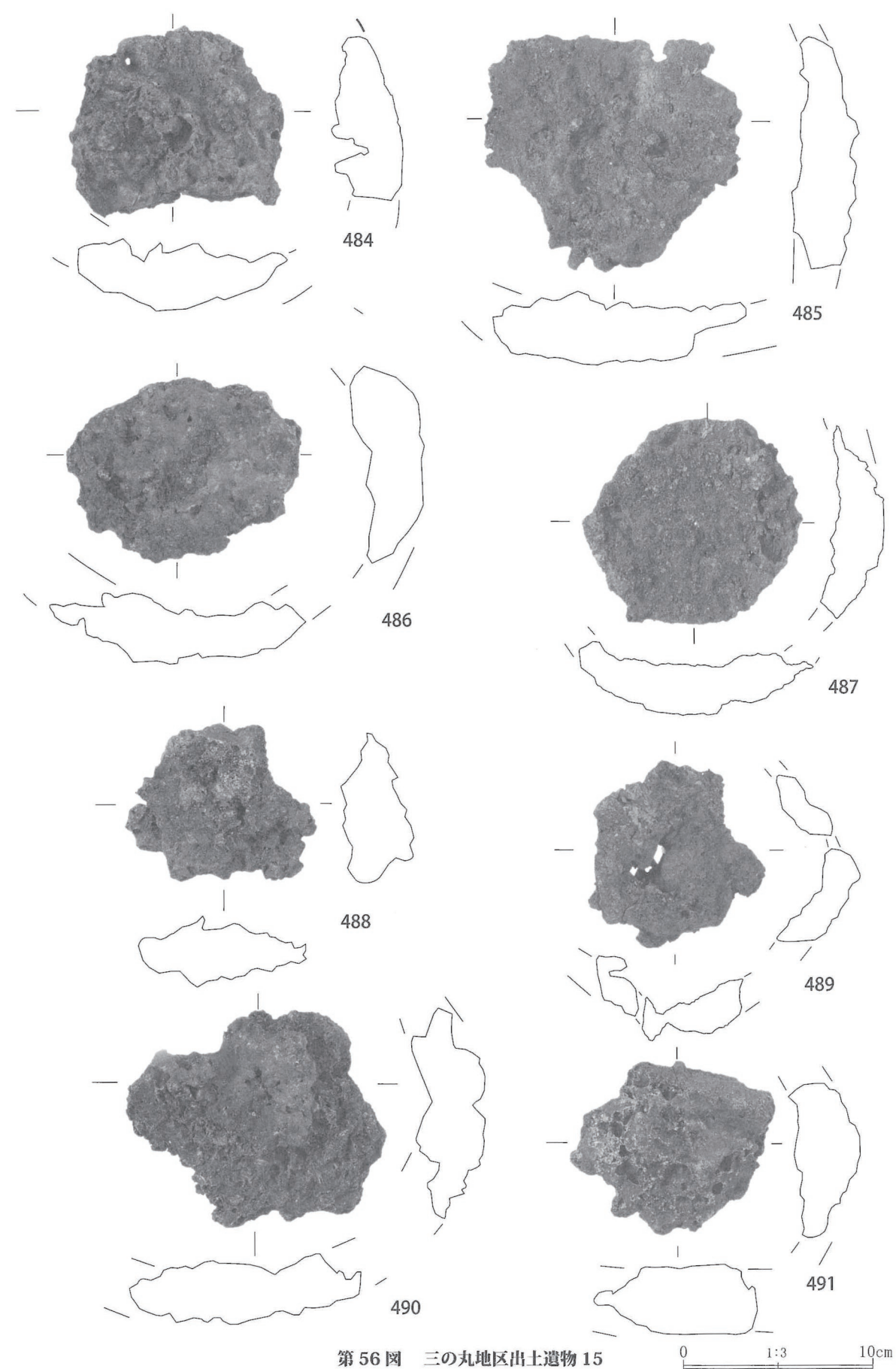
第 53 図 三の丸地区出土遺物 12



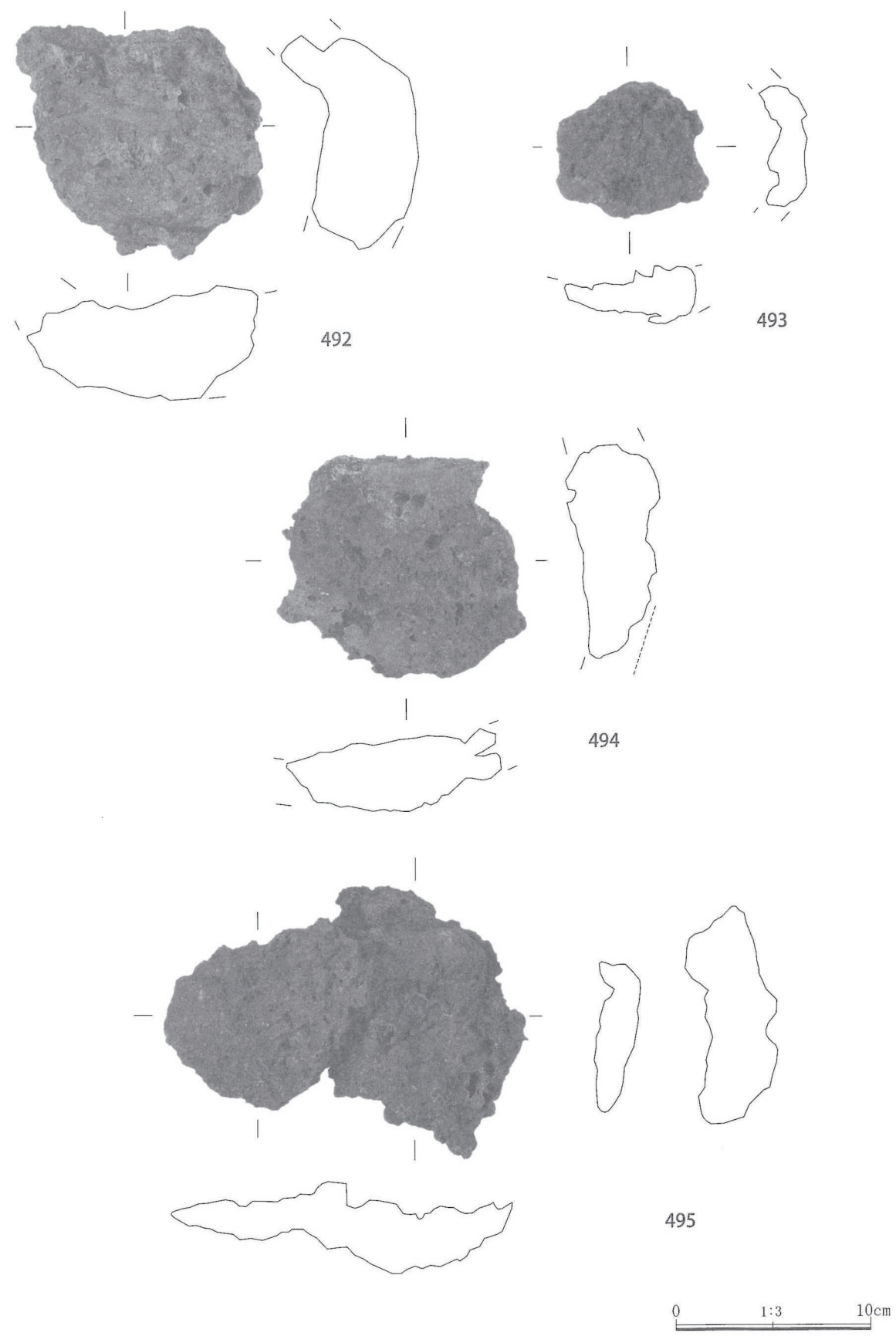
第 54 図 三の丸地区出土遺物 13



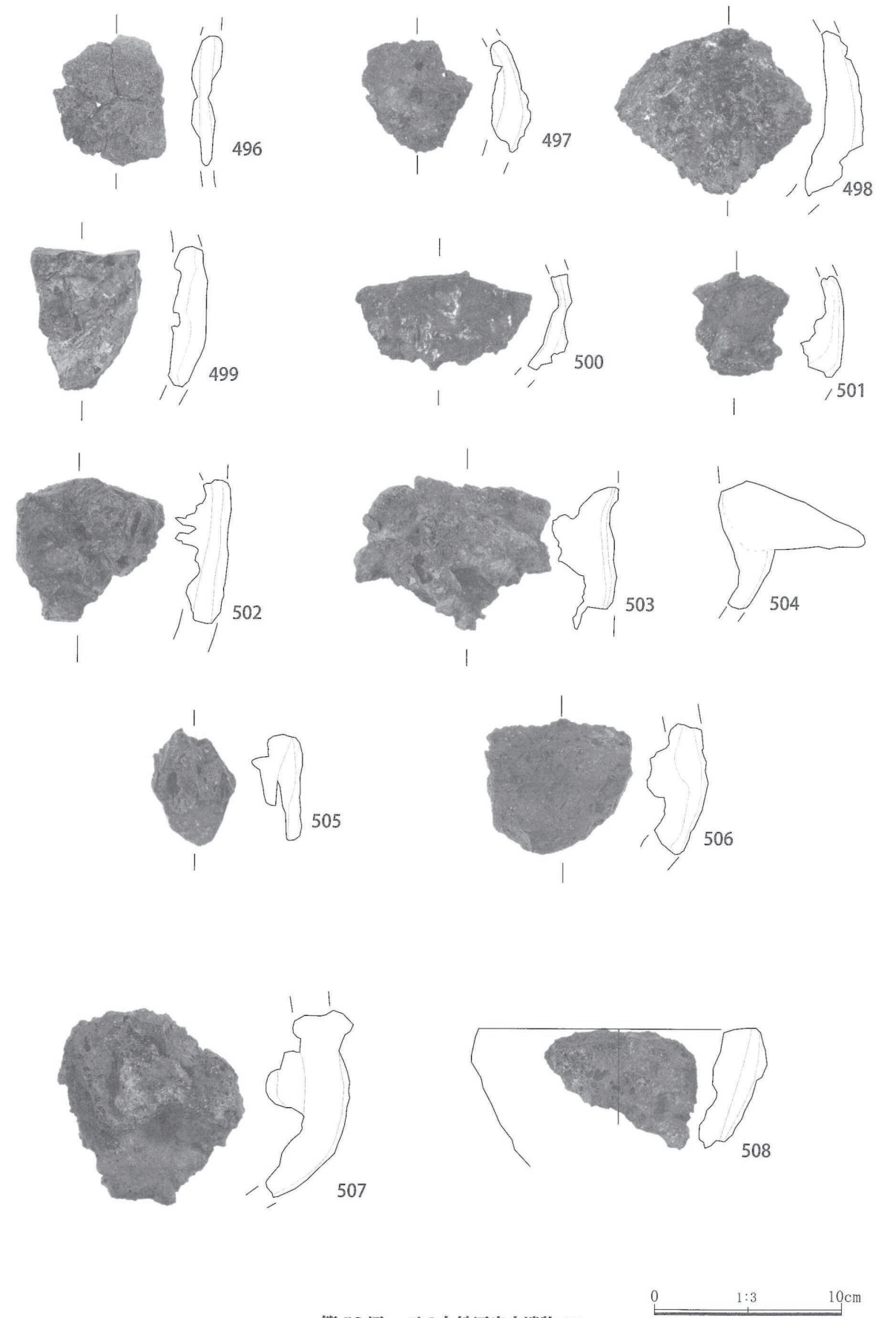
第 55 図 三の丸地区出土遺物 14



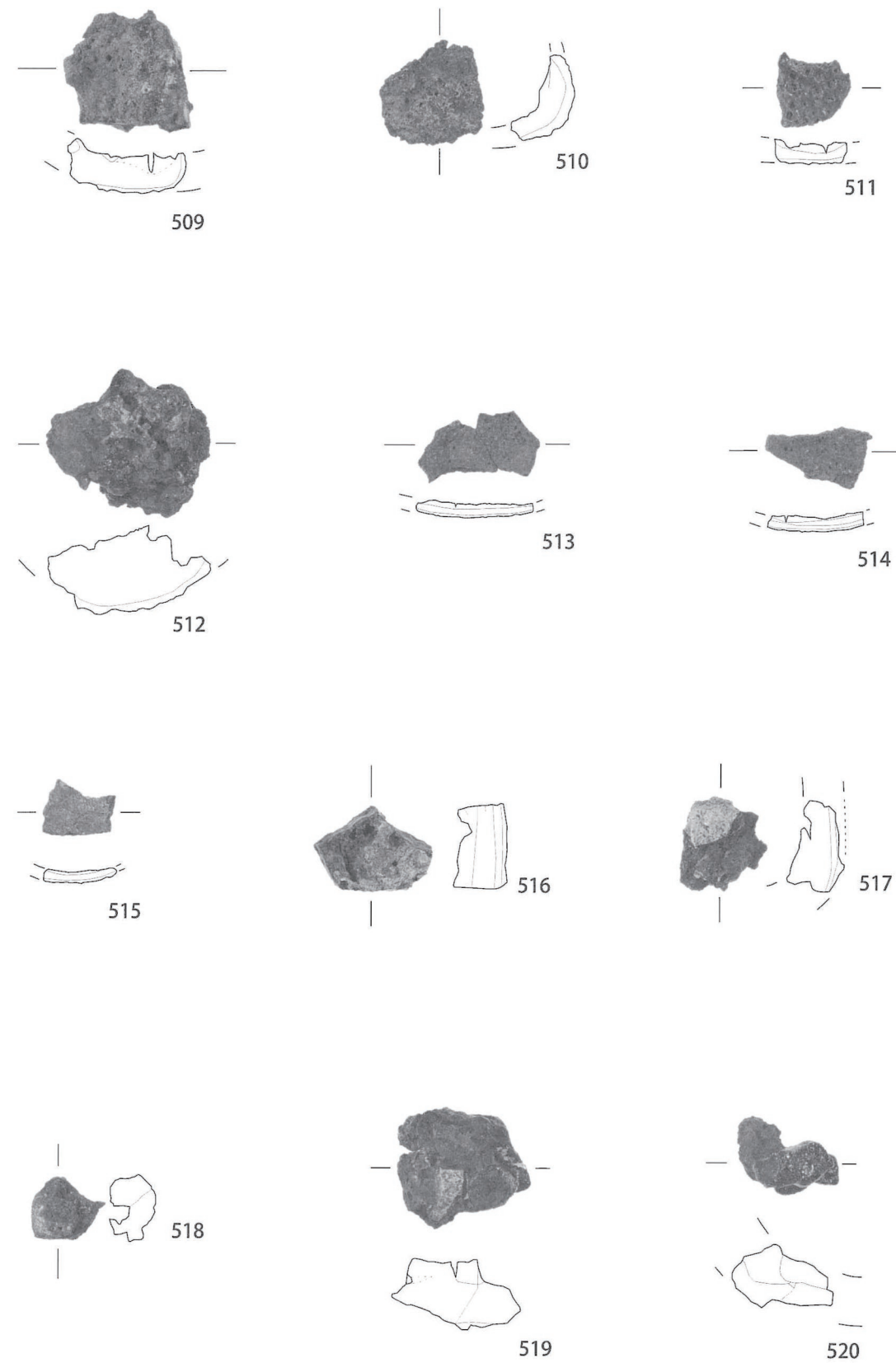
第 56 図 三の丸地区出土遺物 15



第 57 図 三の丸地区出土遺物 16

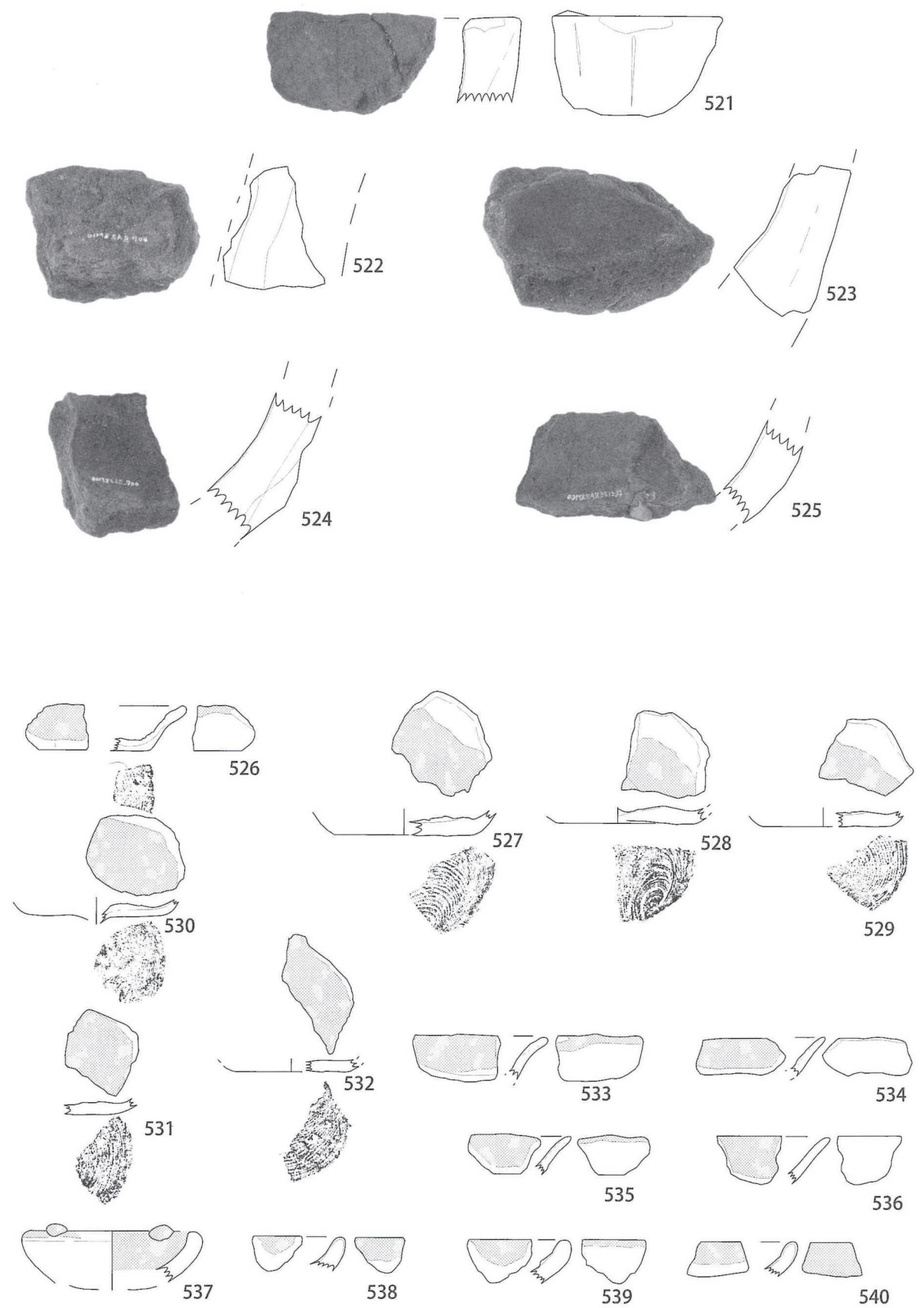


第 58 図 三の丸地区出土遺物 17



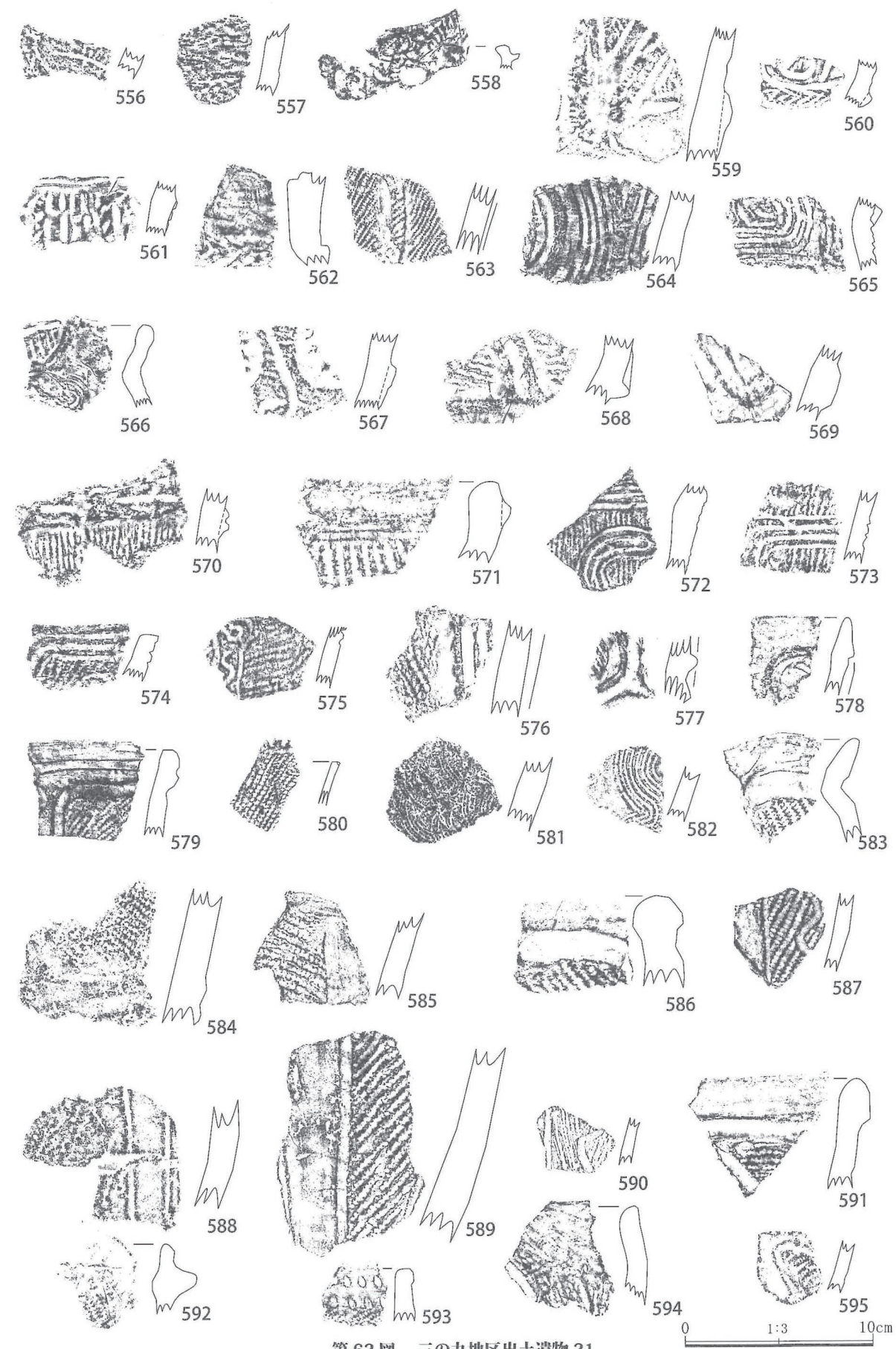
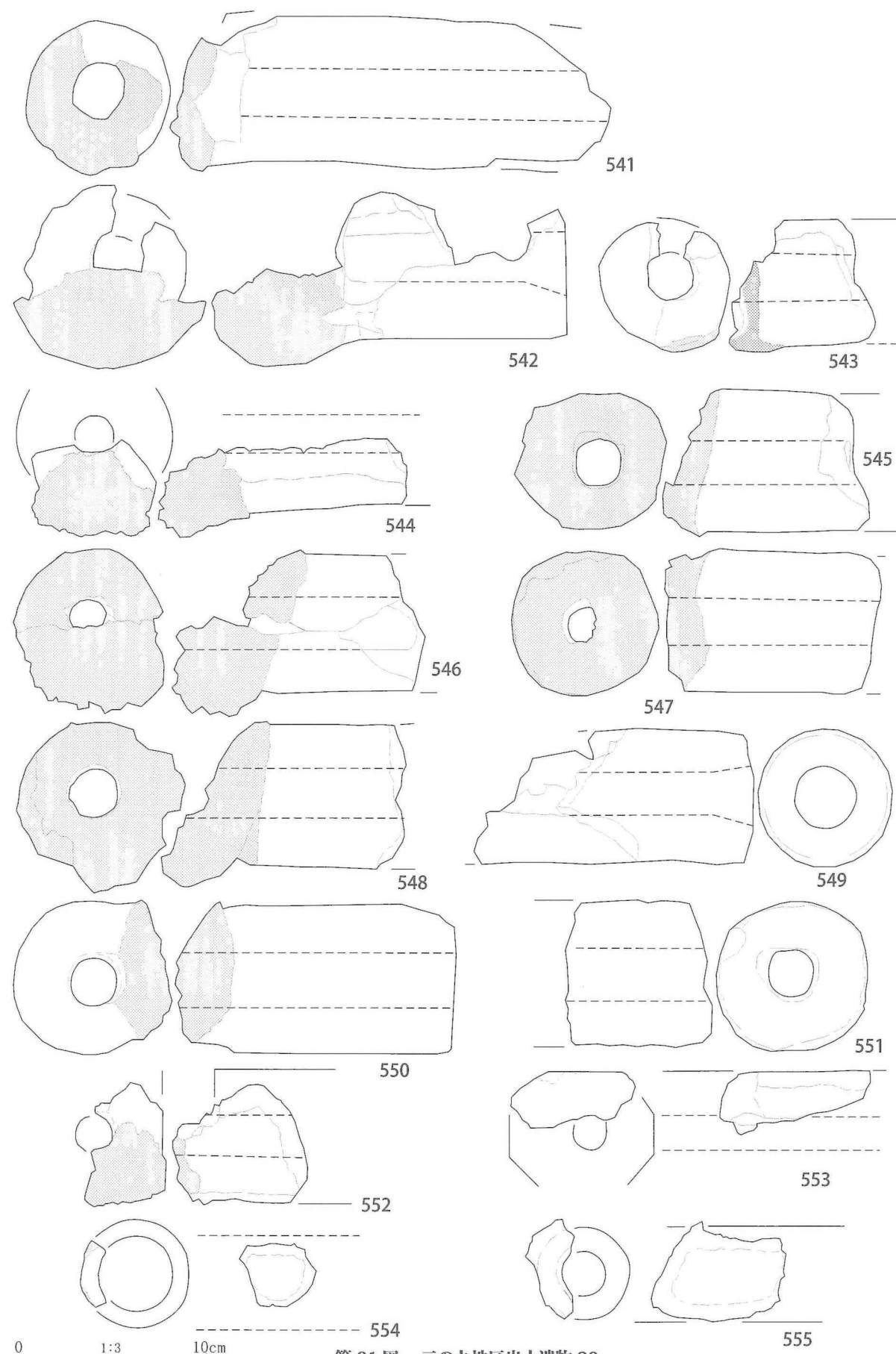
第 59 図 三の丸地区出土遺物 18

0 1:3 10cm



第 60 図 三の丸地区出土遺物 19

0 1:3 10cm





第63図 三の丸地区出土遺物 22

2 二の丸地区の調査（第64図～第93図、PL17～22、PL64～79、PL169～176）

（1）概要（第64～66図）

1Tでは、南西方向で盛土層が厚く、最大で70cmに及ぶ盛土が確認された。一方、2Tではトレンチ北西端約5m以外は盛土が認められ、南東方向に行くにしたがい、盛土が厚くなった。最大で80cmの盛土であった。ピットが掘り込まれる面は、盛土層直下の地山か盛土層最上面がほとんどである。一部の遺構（SX9）は盛土層中で検出されたが、盛土層自体が大きく切られているところも多く、その層を盛土全体の範囲で確認することはできなかった。地山面のピットは3回程度の切り合いがある場合もあり、築城後ある程度の期間は盛土がなく、その後比較的短期間において盛土が行われた可能性が考えられる。なお、SX8とした箇所は広範囲にわたって盛土層が切られている。この覆土は表土とほとんど変わらず、遺物についても廃城後のため、攪乱と判断した。城最終時の遺構は虎口周辺でよく残り、その遺構面が残っていないSX8については整備予定面との整合性の問題から、一部のサブトレンチで掘り下げる調査にとどめた。

西虎口から南虎口周辺では、SV2a・SV2b・SV3（SV5・SV1・SV4は後述）についてふれておく（第64・66図）。SV2aは、最大高1.1m、幅10.8mである。石垣の表面が不ぞろいな形で、横から見ると、凹凸が目立つ。極一部に斜めに落とすように積んでいる石が見受けられるのも特徴である。また、石の長軸方向を縦にする傾向が他の石垣に比べ強い。平面プランについては、きれいな直線になっていない。SV2aの裏は、SV1を完全に覆い隠すように幅約3mにわたって、径5cm程度から径50cm以上に及ぶような様々なサイズの石を大量に使い、隙間がないように充填している。このSV2a裏側の石のサイズから勘案すると、SV1に使われていた石の可能性もある。SV2aの石の積み方を見ると、非常に粗雑な石垣であり、裏側に多量に廃棄した石を抑えるために積まれたのではなかろうか。このSV2aの西側に継ぎ足す形で最大高0.85m、幅4.45mのSV2bが積まれ、さらに、最大高0.85m、幅約19mにわたるSV3が造られる。構築順序から見ると、SV2a→SV2b→SV3になるが、時期差ではない可能性もある。また、それぞれが同時に造られたのかは不明である。出土遺物はSV2bの裏から、寛永通宝（第90図188・189・191・194）とSV2aの裏から染付皿B1群（第84図6）が1点のみ出土している。寛永通宝については表土に極めて近い箇所であり、その評価を慎重に行いたい。構築年代については上記の遺物のみでは明確にしづらい。

このように、時期的な問題は課題のひとつとなるが、SV2・SV3は、対応するような石垣、排水溝、あるいは、建物などの遺構が全くない。このことや石の積み方などから考えると、破城処理や廃城後の土地利用の中で造られたものと保存整備委員会において指摘された。こうしたことをふまえ、SV2・SV3については、写真・図化終了後に、一部を除去し、また、裏込め石の大部分を取り除くことによって、城最終時と思われるSV1等の遺構の把握に努めた。

（2）検出された遺構

①二の丸西虎口（第76・77図）

前述したSV2bやSV3の一部が上層で確認されたが、城最終時と推測された下面の残りが比較的良好と予測されたため、SV2b・SV3の虎口部分については図化後に除去した。SV2b下層には、虎口両脇に積まれていた可能性のある石の崩落層が確認された。門礎石はS1・S2・S3・S4になり、それぞれの間隔は、芯々距離でS1・S3間3.23m、S2・S4間3.18m、S3・S4間2.84m、S1・S2間2.75mになる。S1からS3、S2からS4の脇の部分、すなわち、門側面には石垣がなく、土に直接すりつくような形である可能性もある一方で、前述の崩落層が確認されていることから、1・2段程度の石垣があった可能性も考慮できる。S1～S4間には石畳があるが、若干、礎石の軸とずれる。また、SX13とした1石分の最大高20cmの階段状になる部分についても、礎石の軸とずれ、石畳の軸と一致する。SD2がS4付近で切れることから、石畳、及びSX13については、SD2を切る形で構築された可能性が考えられる。なお、SX14についても、一石分の最大高38cmの階段状になる遺構であるが、サブトレンチ箇所では、SV4bの下層で確認されて

いる。SX13・SX14 共に、北東側のみ石が並び、南西側には石の並びが確認されなかったが、一応排水溝の可能性もあるだろう。SD1 はその位置から門前面の雨落ち溝の可能性がある。幅 35cm、深さ 10cm、長さ 4.05m 以上になる。北西側は SV4a 隅角の位置まで伸び、南東側は調査区外に伸びる。北東側と南西側の溝底面は 12cm ほどのレベル差があり南西側のほうが低い。このことから、大堀切方向へ水を流していたことになるが、続きが調査区外に伸びるため、詳細は不明である。SV5 は門南西側の土塁の盛土中に確認された石垣である。三の丸の SV13 の延長上にあたり、三の丸 SV13 同様に階段状に積まれており、土塁の雁木の石垣であろう。この石垣を覆う形で 17～29 層があり、さらに、その上層に 15・16・8・9 層がある。17～29 層はロームがブロック状に多量に含まれる点で 15・16・8・9 層と大きく異なり、また、SV1a・SV1b の裏側の土のため、SV5 廃絶後に 17～29 層の土で埋められ、SV1a・SV1b が構築されたことが判明する。SV5 の構築面は 29 層が見られる場所で、溝状になり石畳の面とつながっている。なお、石畳上には、砂質層の 9 層が薄く堆積し、その上にしまりの強い 8 層が堆積している。ただし、S1～S4 の礎石上には 8・9 層は堆積してなかった。

以上のことをまとめるとこの虎口では、大きく 2 時期の変遷が認められる。S1～S4 と石畳の軸がずれることと石畳上のしまりの強い 8 層の存在を考慮すると、I 期目に SV5、及び石畳、石畳と軸が同じ SX13、及び SV4b 下層の SX14 がある。さらに、S1～S4 上に 8・9 層が無かったことをふまえると、S1～S4 もこの時期からあった可能性を考慮できる。そして、II 期目は I 期の遺構を埋め SV1a・SV1b、及び対になっている SV4a・SV4b が構築され、また、石畳が 8 層で埋められて、S1～S4 は継続して使用される時期である。なお、I 期目は盛土層の上面の遺構のため、城後半期の遺構になる。

②SV4（第 78 図）

西虎口において、SV 1 に向き合う形で検出された石垣である。クランク箇所が 5 箇所あるが、二の丸・三の丸間の堀に平行し続いていく様子が確認できた。なお、1T 南西端では一連の石垣と推測される遺構が検出されたが、2T・3T の北西端では確認されなかったため、この石垣二の丸南西面のみで、北西面には続いていないと推測される。確認された幅は 12.4m、最大高で 68cm の石垣である。石垣に用いられている石は最大で長軸 60cm である。控えは短かく、裏込め石は密度が薄い。石垣・裏込め石に用いられる石材は輝石安山岩で、極少量ではあるが、角閃石安山岩が用いられる。いずれも自然石を用い、加工はされていない。

SV4 より曲輪内側には、SV4 側から崩されたと推測されるローム土主体の層が広範囲に確認された。このことから、SV4 は二の丸南西面にあった土塁の土留めの役割を果たす石垣と推測される。なお、幅 4m・奥行 1.5～1.6m にわたって、SV4 が曲輪内側に向かって突き出る箇所が確認された。この箇所の北東部分には石が確認されなかったが、深さ 5～10cm 程度の石抜き取り痕が確認され、本来は北東側にも石が積まれていたものと推測される。この突き出る箇所については、そのプランから土塁に上がるための雁木（階段）箇所の可能性が考えられる。

③SV1（SV1c～SV1d）（第 79・80 図）

SV2a 及び SV3 の裏側の大量の石のため、ほとんどが隠れていた石垣である。石を除去していくと、上端の石が姿を現して確認された。SV1c は上端幅 13.15m、下端幅 12.7m、最大高 1.4m である。中央部には三段の雁木（階段）が確認され、雁木最上段の石を基準に考えると、SV1 の本来の高さは 1.4m 以上であったと思われる。雁木両側部分は残りが悪く、特に、東側は最下段の石も残っていない場所があった。SV1c 西端部分の傾斜は 81 度あるが、雁木部分は各段とも垂直である。石垣に用いられる石は、最大で長軸 90cm と二の丸の石垣の中では、最も大きい。石の長軸を横方向にしているため、控えは短い傾向にある。裏込め石は雁木東側の残りが良くなかった箇所を除くと、かなり濃密で、幅 2m 以上の箇所もあった。石垣に使われる石材は輝石安山岩で、極少量ではあるが、角閃石安山岩が用いられ、全て自然石である。

この SV1 は西虎口から南虎口に連なる堀際の石塁状遺構の石垣であるが、石垣の上端や雁木最上段の石もやや浮いた状態で検出されていることから、石塁上の遺構面自体は残っておらず、

大堀切側については、流失もしくは、崩されていると考えられ、石塁上の施設は不明である。

④南虎口（第 81～83 図）

礎石の可能性がある平らで大きめな石が 6 石確認された。ただし、2 時期にわたる変遷が考えられた。I 期は S1・S2 の時期である。II 期は S3・S4 の時期である。S1 については、3 分の 1 程度 SV1 によって被覆されていることから、旧時期であることがわかる。また、S1・S2 共に、SV1 との位置的関係から SV1 があった時期には機能していないことが想定される。なお、S2 から北西方向には最大高 15cm の石列が SV1e まで伸びている。S5・S6 については I 期から、II 期にわたって使用された可能性が考えられるが、掘り方内の覆土は表土と同じ土であるため、原位置にあったかは慎重を期したい。

S3・S4 を結ぶラインの南西側には石垣は確認されなかった。もともと無かったのか、壊されたのかは不明である。また、S5・S6 の東側についても同様である。なお、SV3、及び裏側にある大量の石により、虎口西側部分は覆われていたが、調査でこれらの石は除去した。

⑤SX9・SD3（第 71 図）

E2・E3 グリットの 2T 部分で検出された石畳と石組の溝である。盛土層の上層で確認されている。SD3 の覆土は砂質土が堆積しており、水が流れていたことを示している。この砂質土上層には黄色土のしまりの強い土があり、盛土がなされている可能性が高いと考えられる。したがって、これらの遺構は黄色土を盛土と考えた場合、最上層の遺構ではなくなる。SX9 は南東端の残りが悪く、本来の石畳の幅は確認された 3.5m よりさらに広がるのであろう。これら SD3、及び SX9 はこの場所でのみ確認されたにとどまり、続きがどのようになっているかは不明である。

⑥SX10～SX13（第 69・70 図、第 73 図）

SX10 は D3 グリットの 1T で確認された遺構である。SX11～SX13 は E4 グリットの 3T で確認された遺構である。SX11～SX13 は盛土層の比較的下層から掘り込まれ、SX10 は盛土層の上層から掘り込まれている。一部分の調査のため、確実ではないが、全て円形を呈し、100cm 以上の深さを有することから、普通の土坑とは考えにくい。特に SX12・SX13 については、底面に石が敷き詰められ、特異な遺構であった。こうした遺構の類例が待たれる。

⑦SX6（第 69 図、第 74 図）

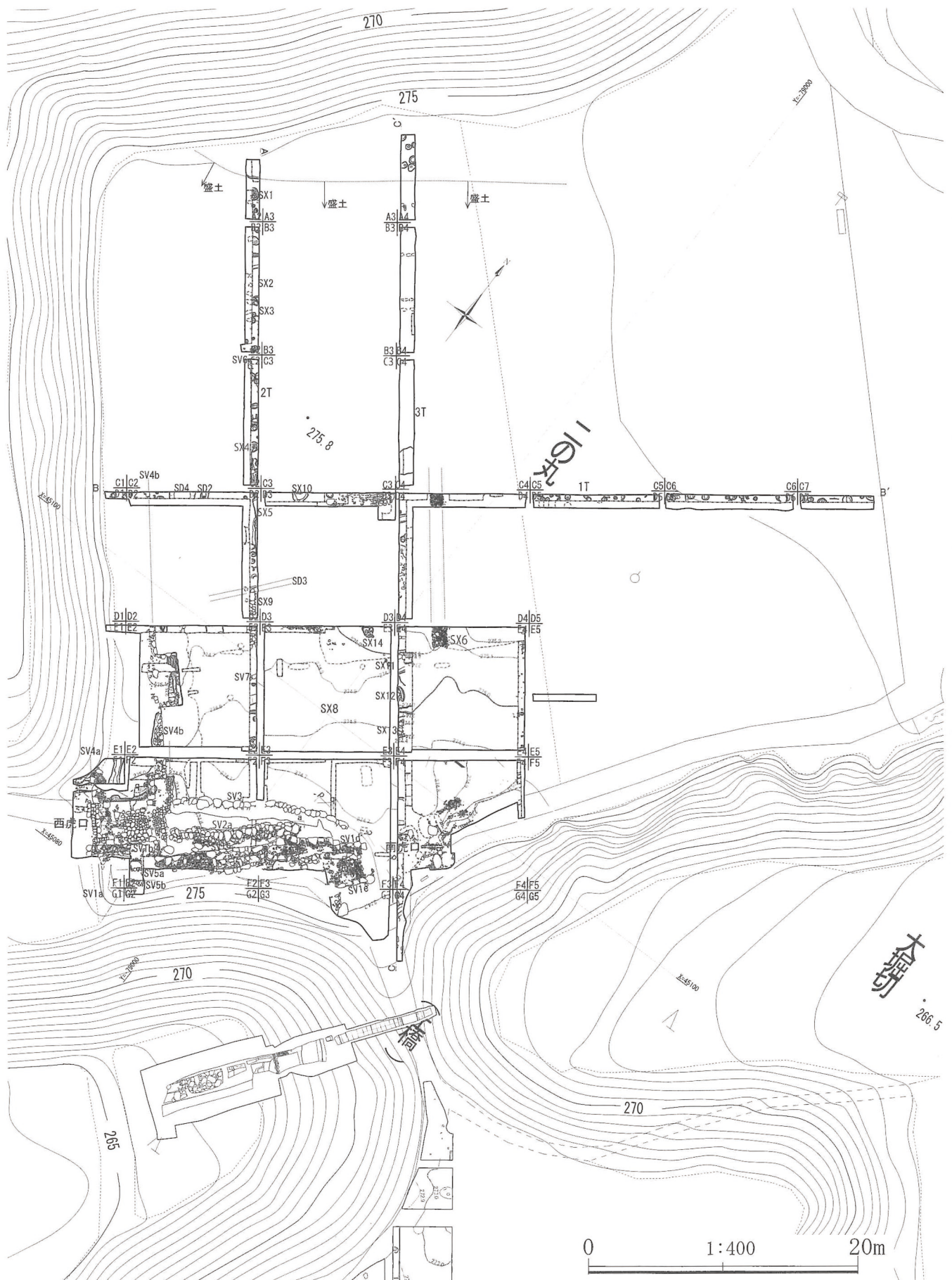
E4 グリット、及び D4 グリット 1T で確認された集石遺構である。E4 グリットで確認された延長ライン上に D4 グリット 1T で確認された遺構があるため、同一遺構であろう。盛土層最上面で確認された遺構である。径 1～10cm の小礫が敷き詰められていたが、フラットではなく、ある程度凹凸が認められた。塀などの基礎などになるのであろうか。

⑧P1・P3・P4（第 75 図）

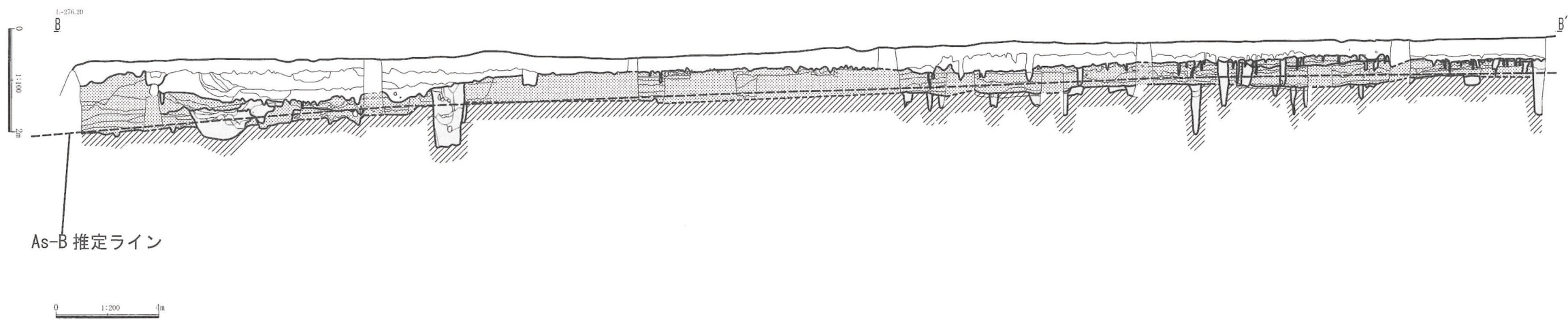
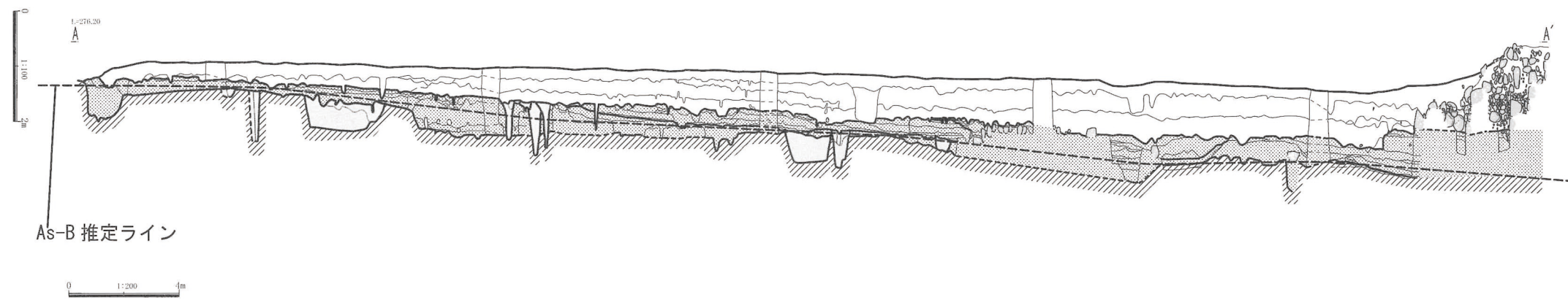
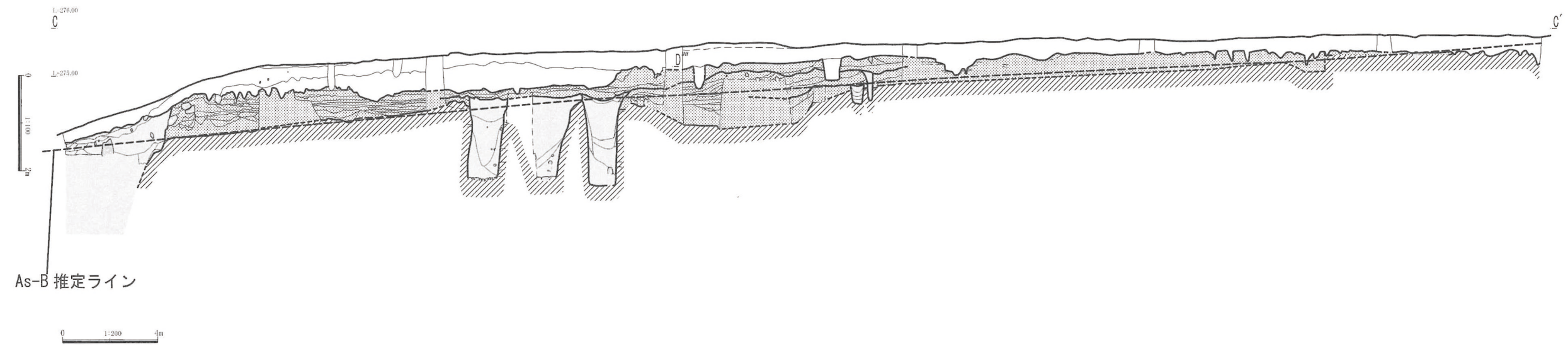
D7 グリットの 1T で確認されたピットである。ピットは、1T、2T で主に確認されている。大きく分けると盛土層直下の地山を掘り込むピットと、盛土層最上面から掘り込むピットで、大きく 2 時期に分けられよう。また、一部ではこれらの中間の層から掘り込まれる遺構もあったため、さらに細分は可能である。こうしたピットは幅狭なトレンチ調査のため、並ぶものがほとんど確認されなかったが、唯一、並んだのが、P1・P3・P4 である。180cm 間隔で並び、全て盛土層上面から掘りこまれていた。何らかの建物の一部であろう。

（3）出土遺物（第 84～93 図）

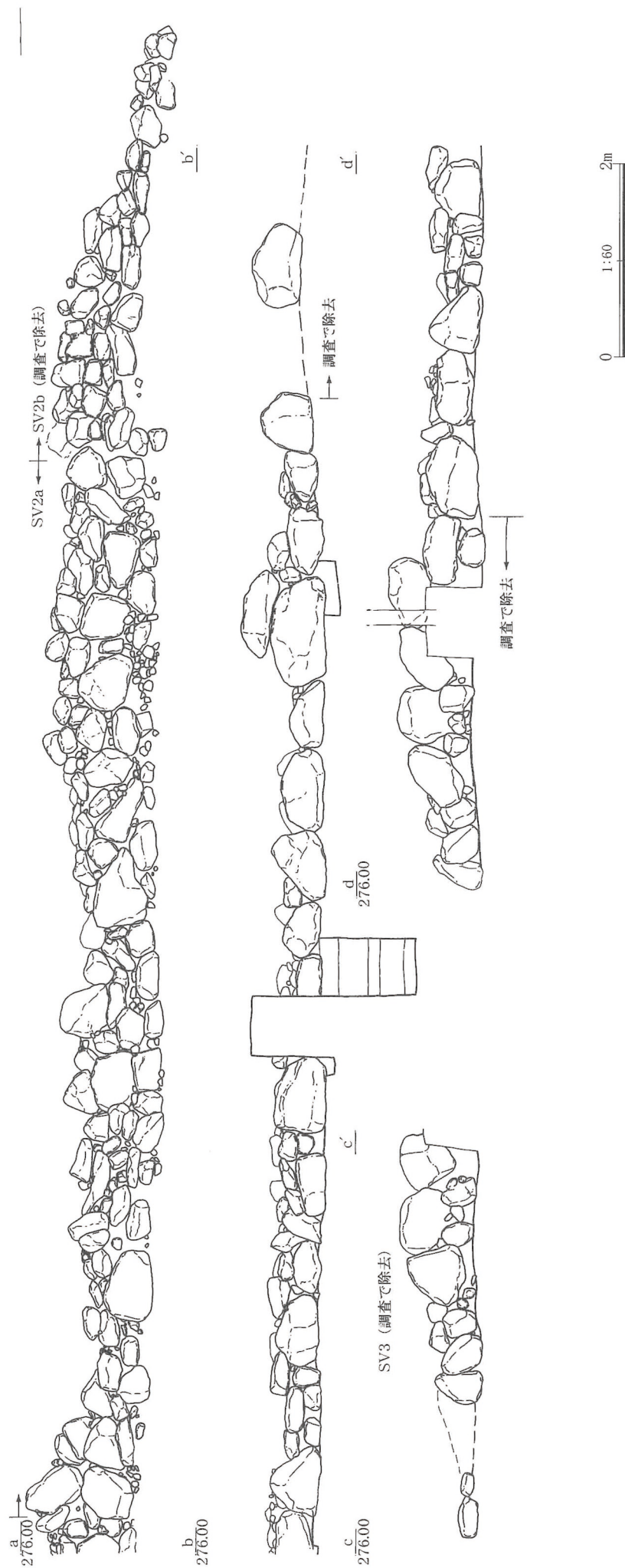
表土中からの出土が多く、各遺構の年代を特定できるような遺物の出方はほとんどない。盛土層中からは、計 13 点の陶磁器が出土しているが、大窯 2・3 期の丸皿（33・34）が出土しているのが最新陶磁器である。わずかに 13 点であることを踏まえると年代を特定するには極めて困難な状況である。なお、鍛冶・鋳造関係の遺物は 1T の D4 グリットの盛土層中からやや出土したが、天箱 1/2 に満たない量で、三の丸の出土量とは比較にならない少なさであった。



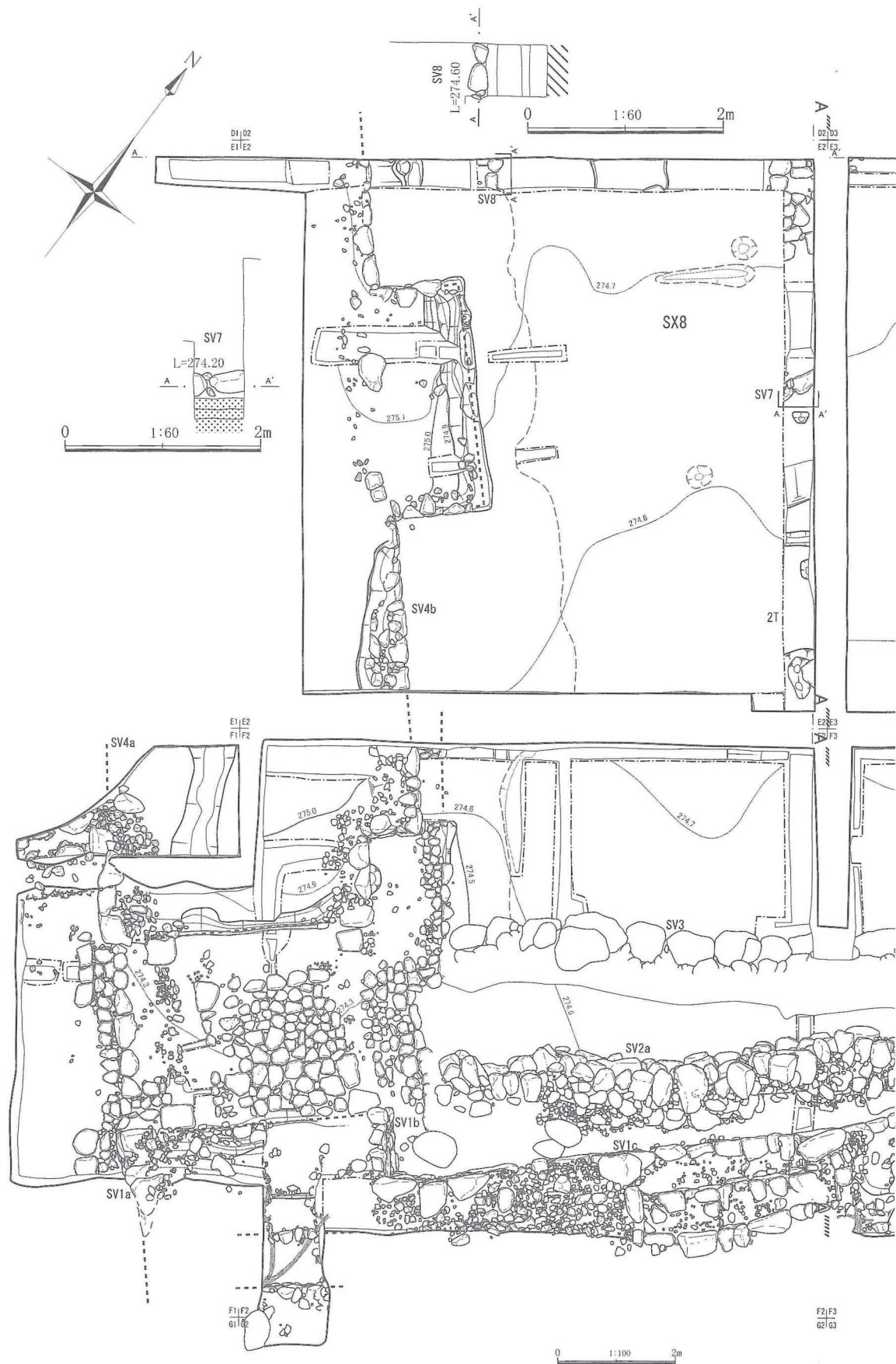
第 64 図 二の丸地区全体図



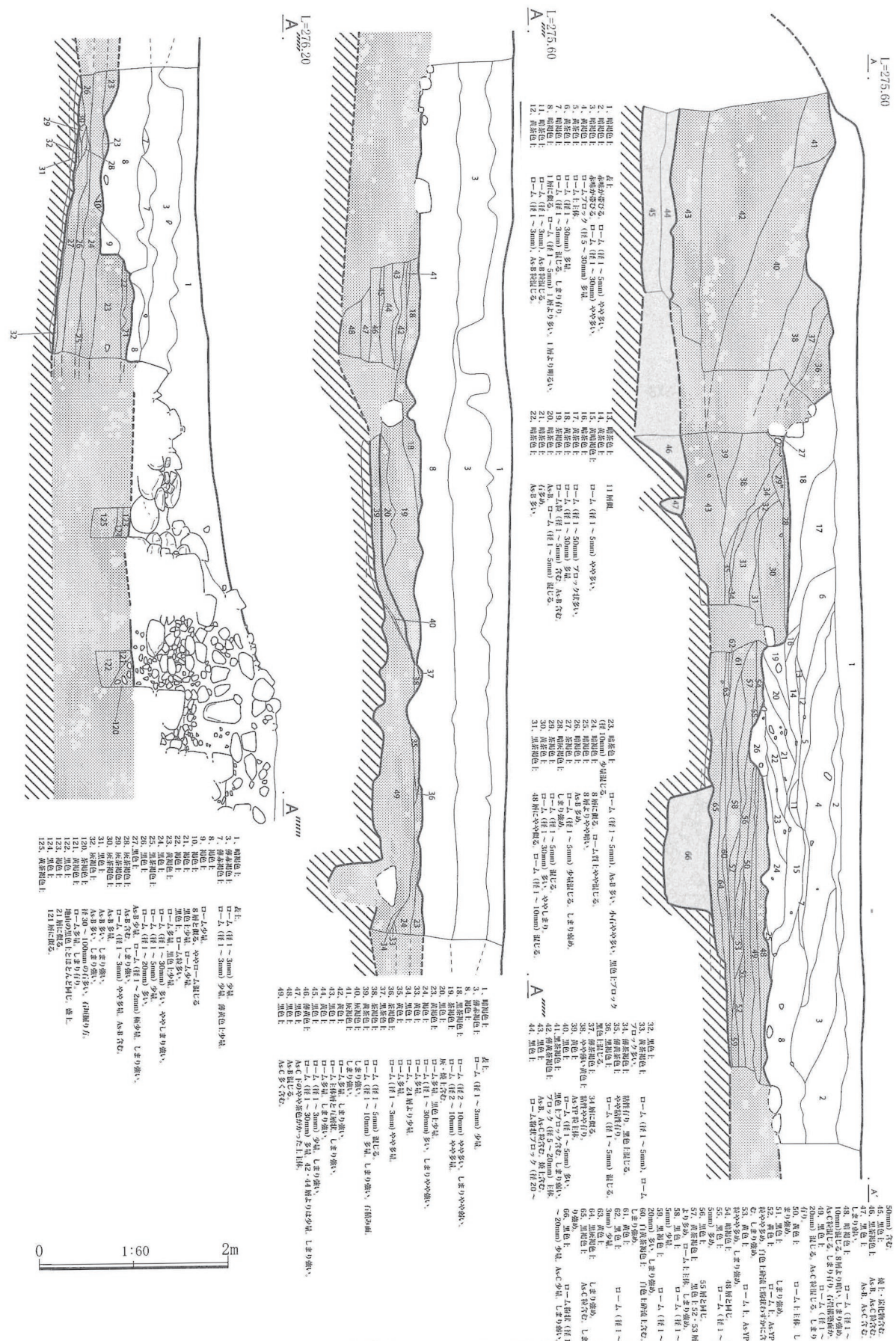
第 65 図 二の丸地区模式セクション図



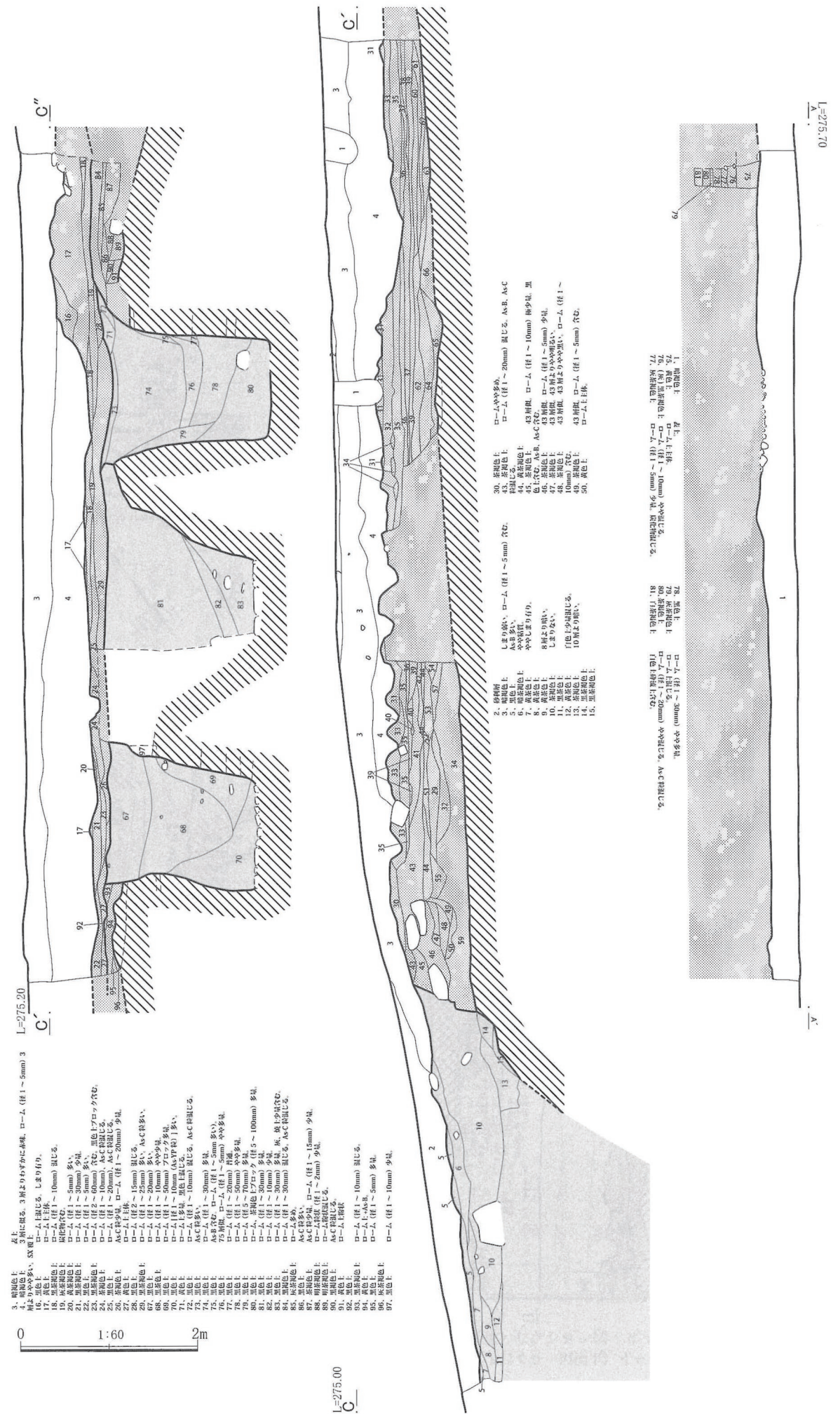
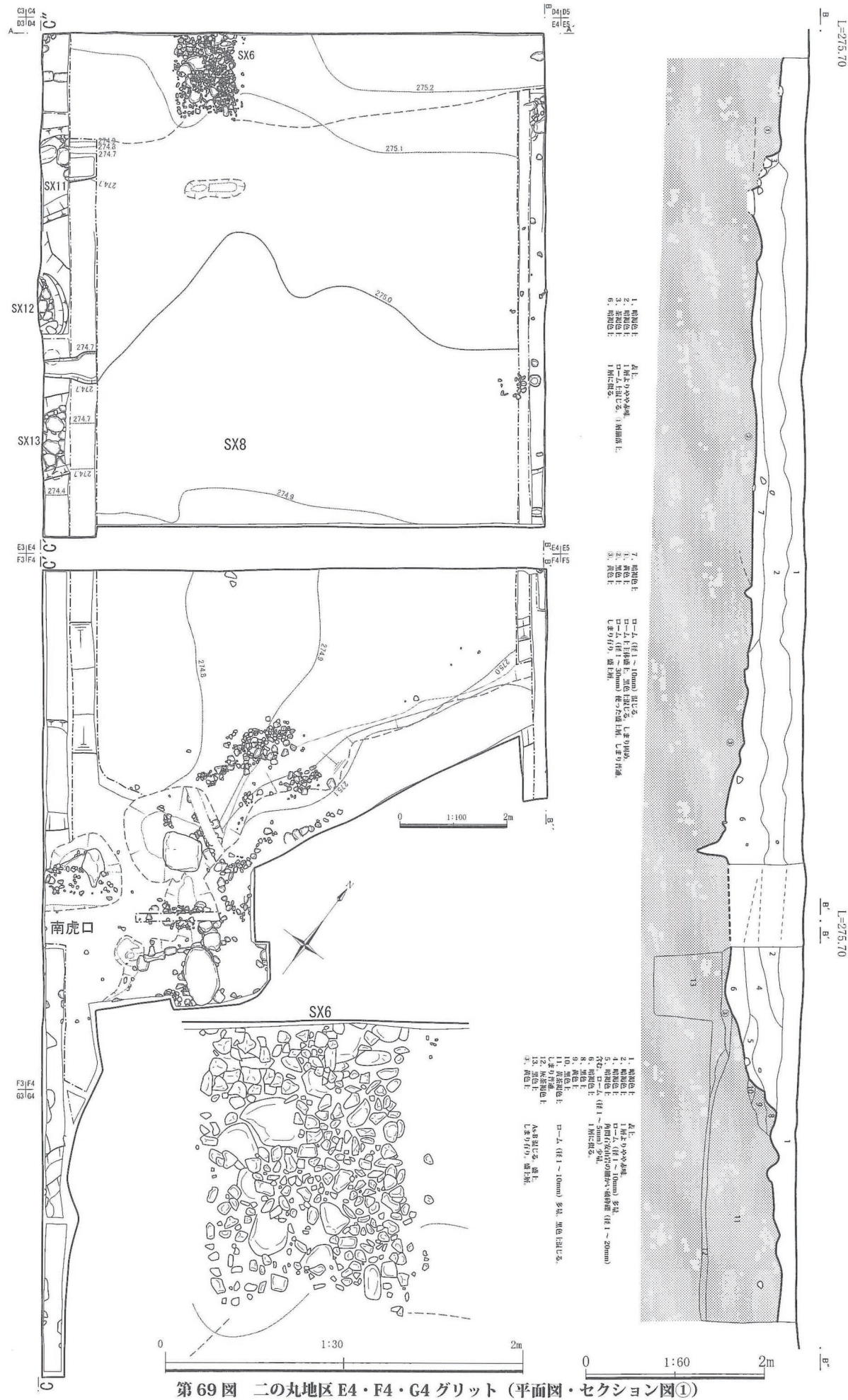
第 66 図 二の丸地区 SV2・SV3 (立面図)

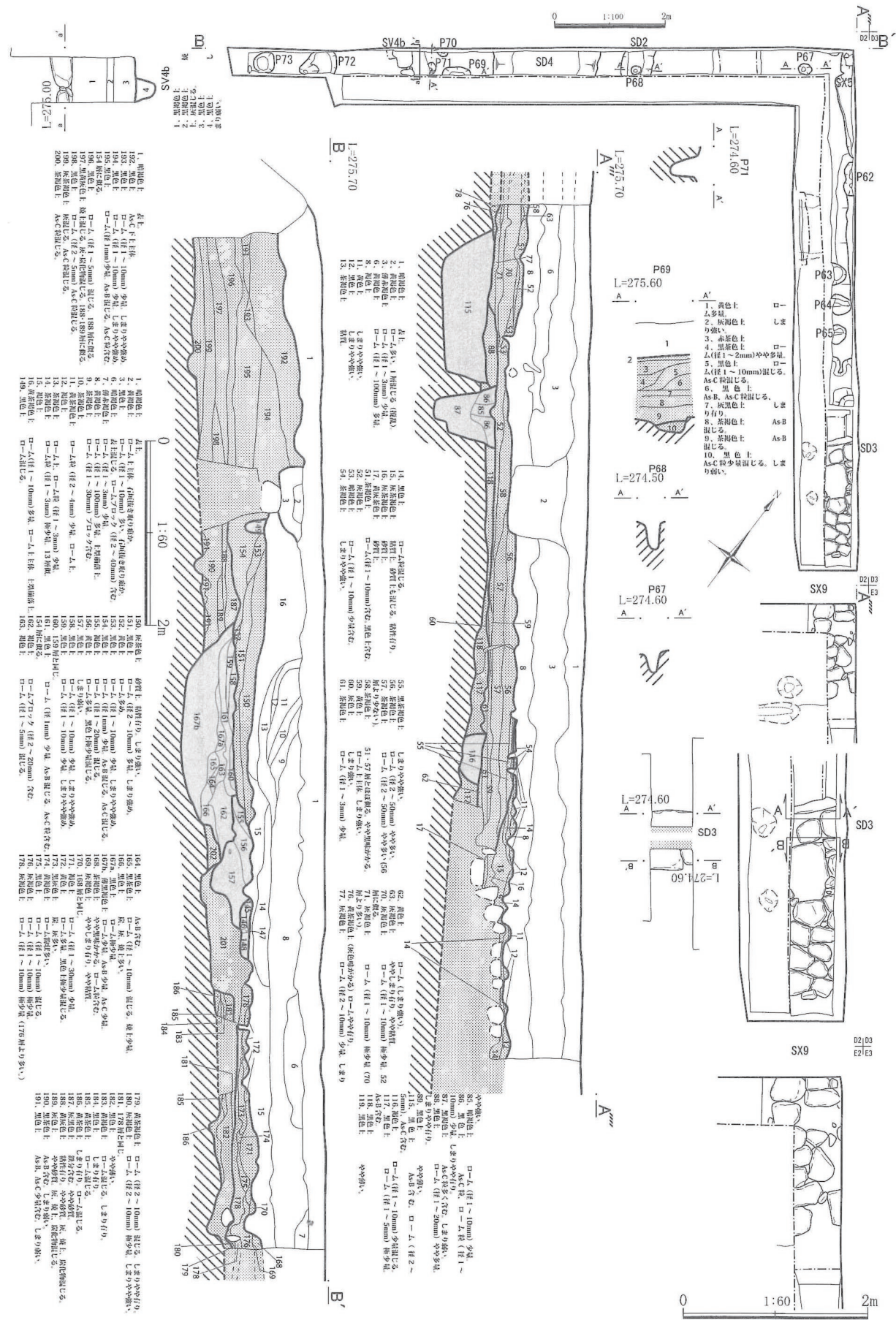


第 67 図 二の丸地区 E1・E2・F1・F2 グリット (平面図)、SV7・SV8 (立面図)

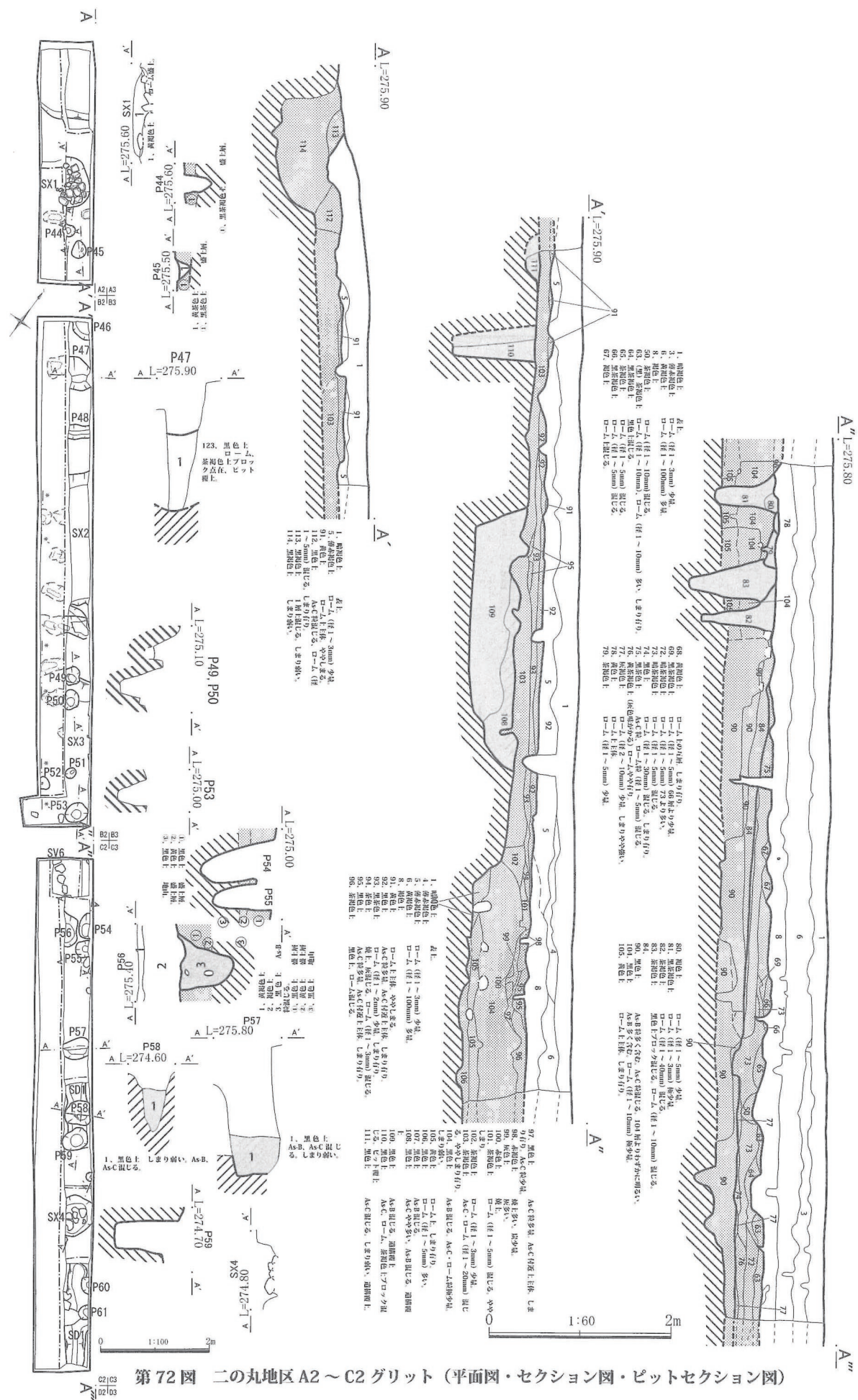


第 68 図 二の丸地区 E1・E2・F1・F2 グリット (セクション図)

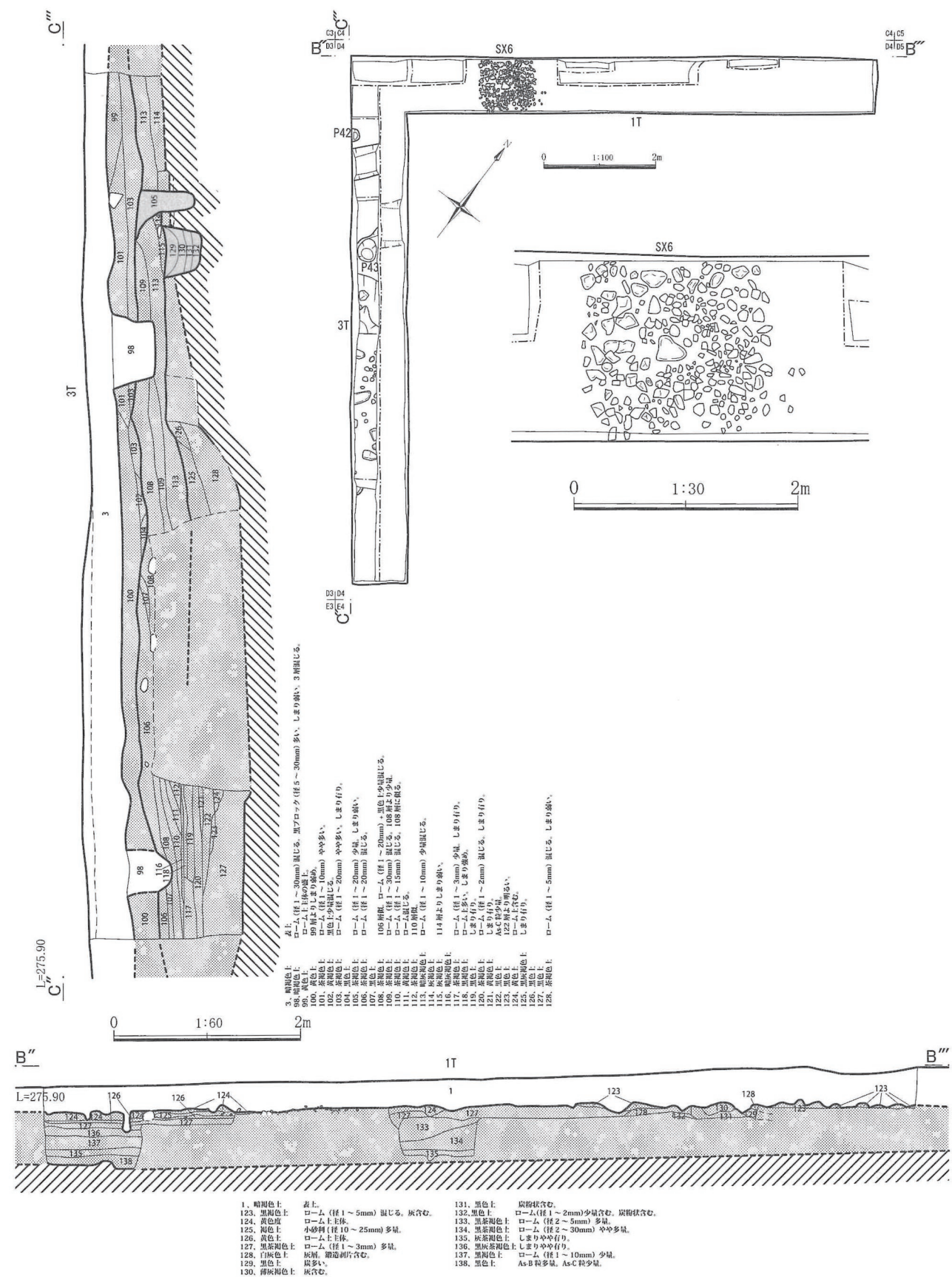
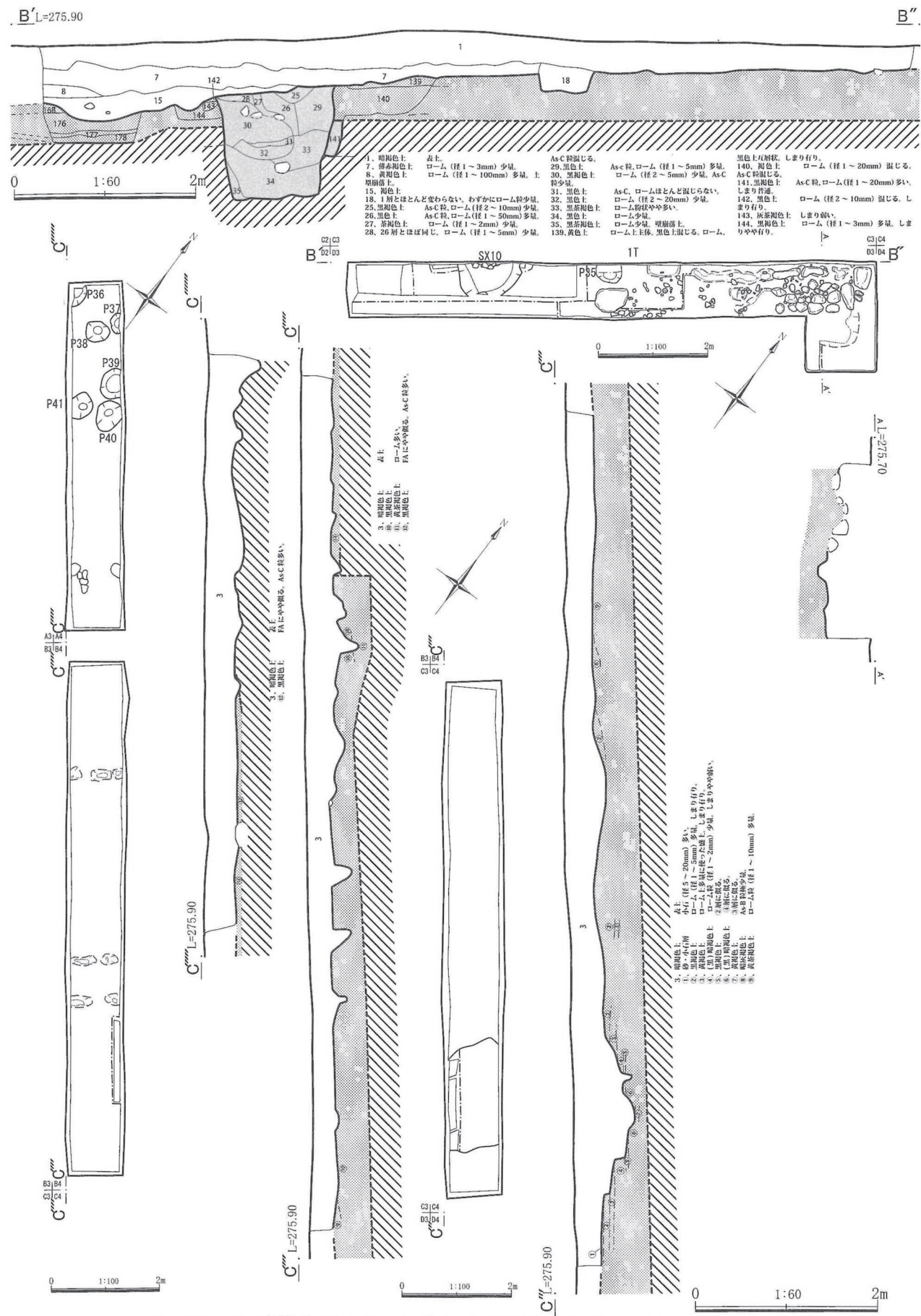


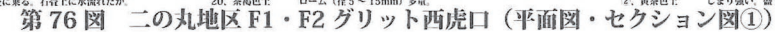
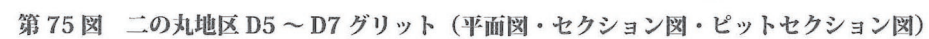


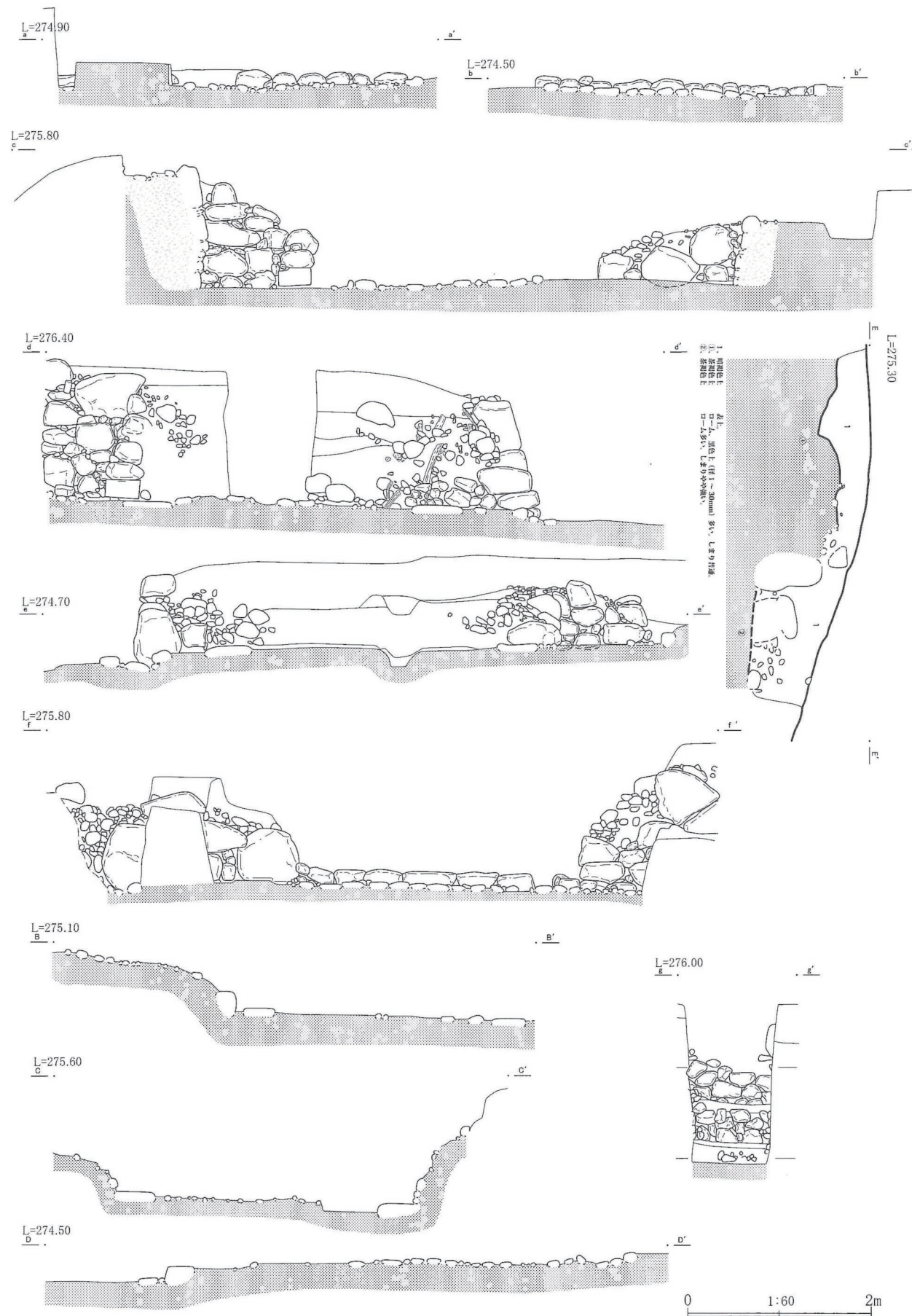
第71図 二の丸地区D2グリット（平面図・セクション図・ピットセクション図）、SV4（立面図）、SD3・SX9（平面図・立面図）



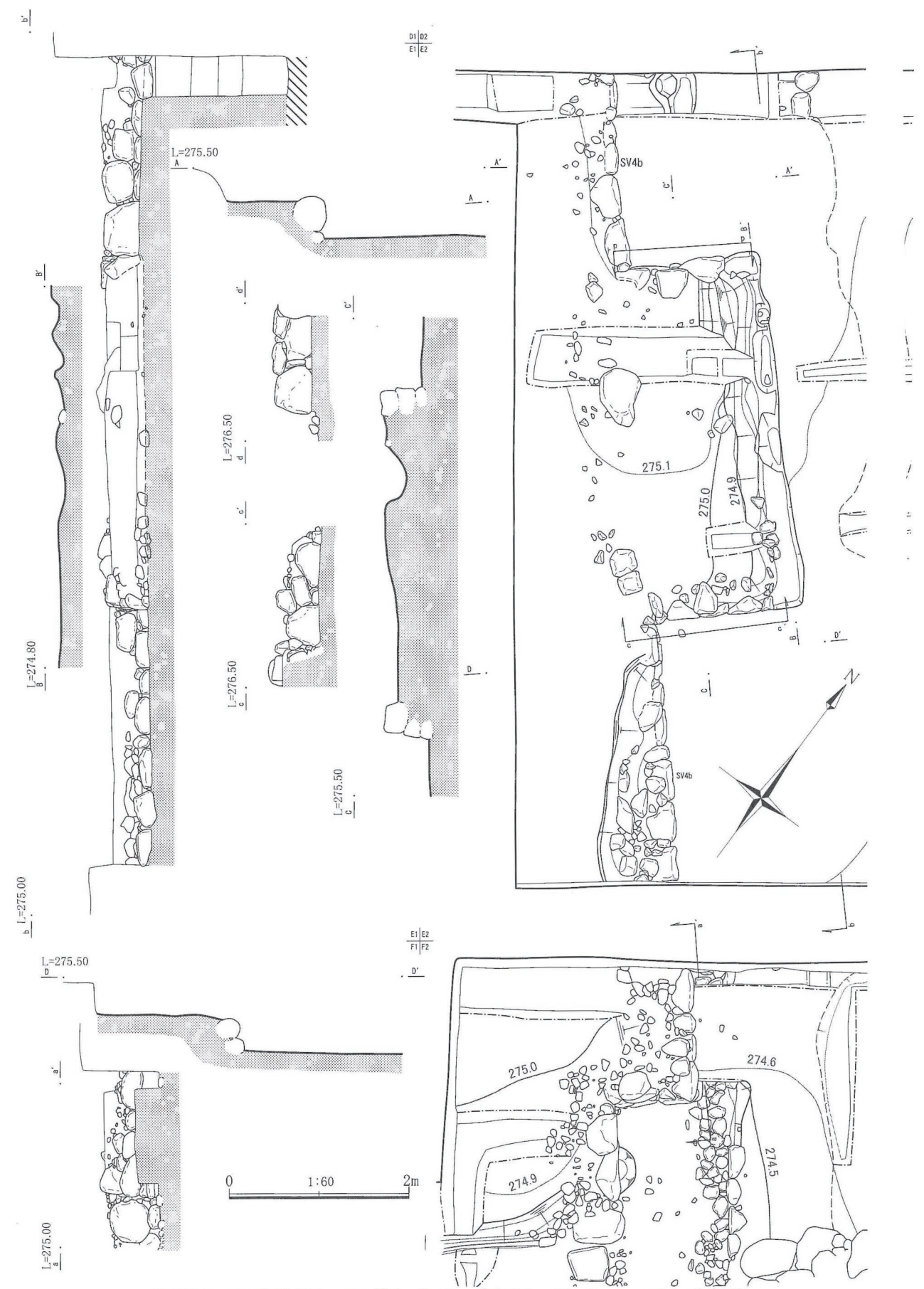
第72図 二の丸地区A2～C2グリット（平面図・セクション図・ピットセクション図）







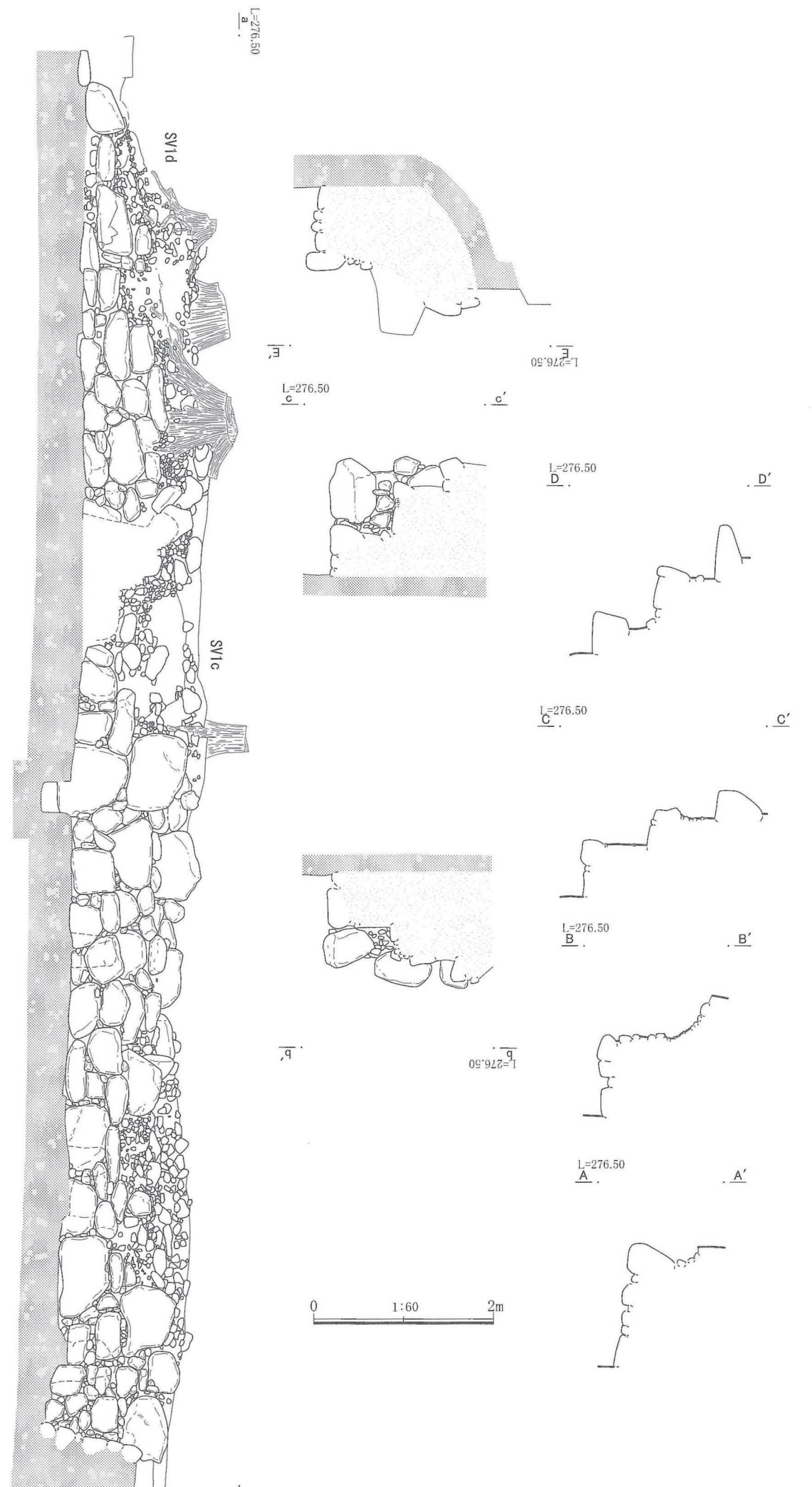
第77図 二の丸地区F1・F2グリット西虎口(セクション図②・エレベーション図・立面図)



第78図 二の丸地区E2・E3グリットSV4(平面図・エレベーション図・立面図)



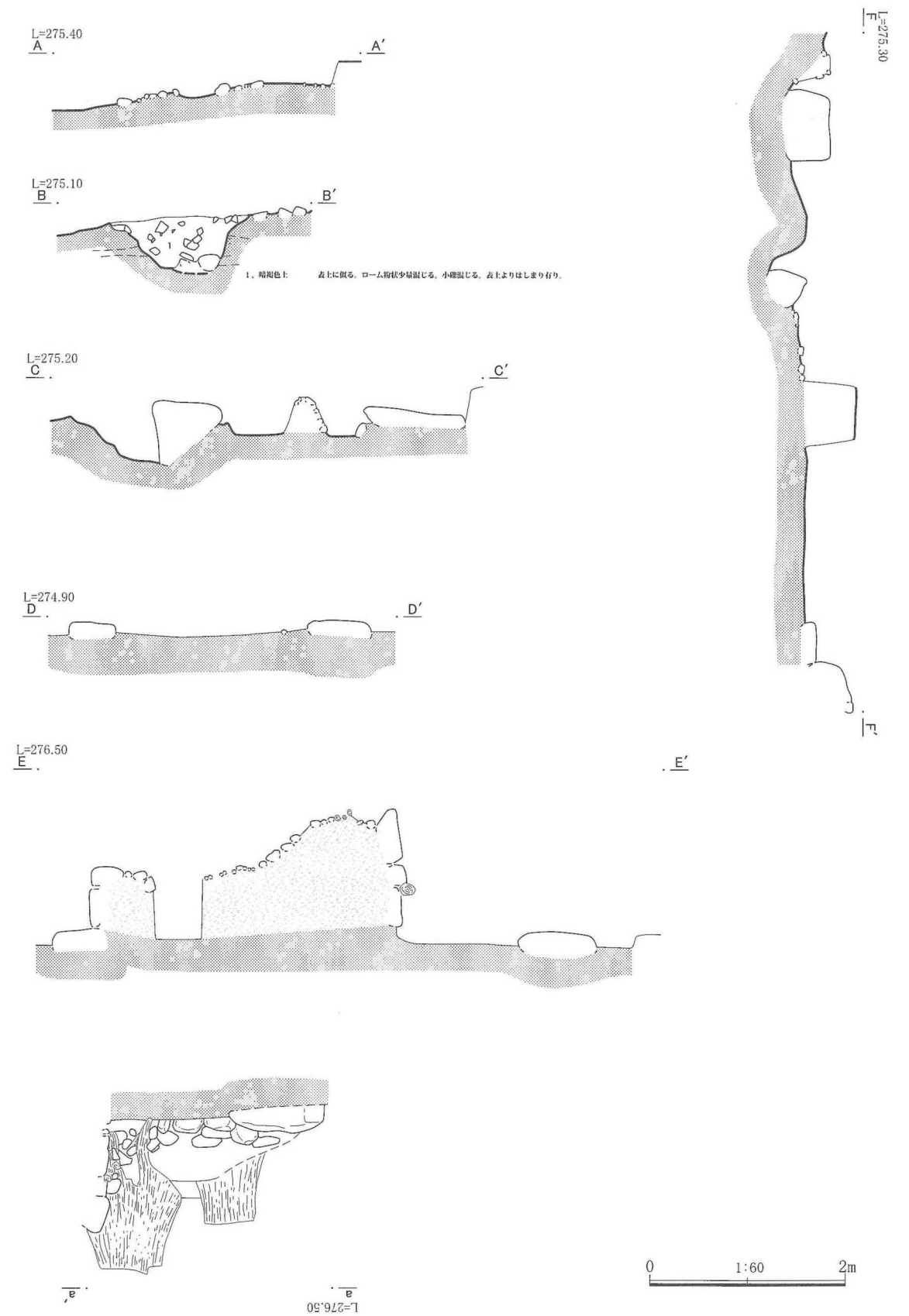
第79図 二の丸地区 F2・F3 グリット SV1 (平面図)



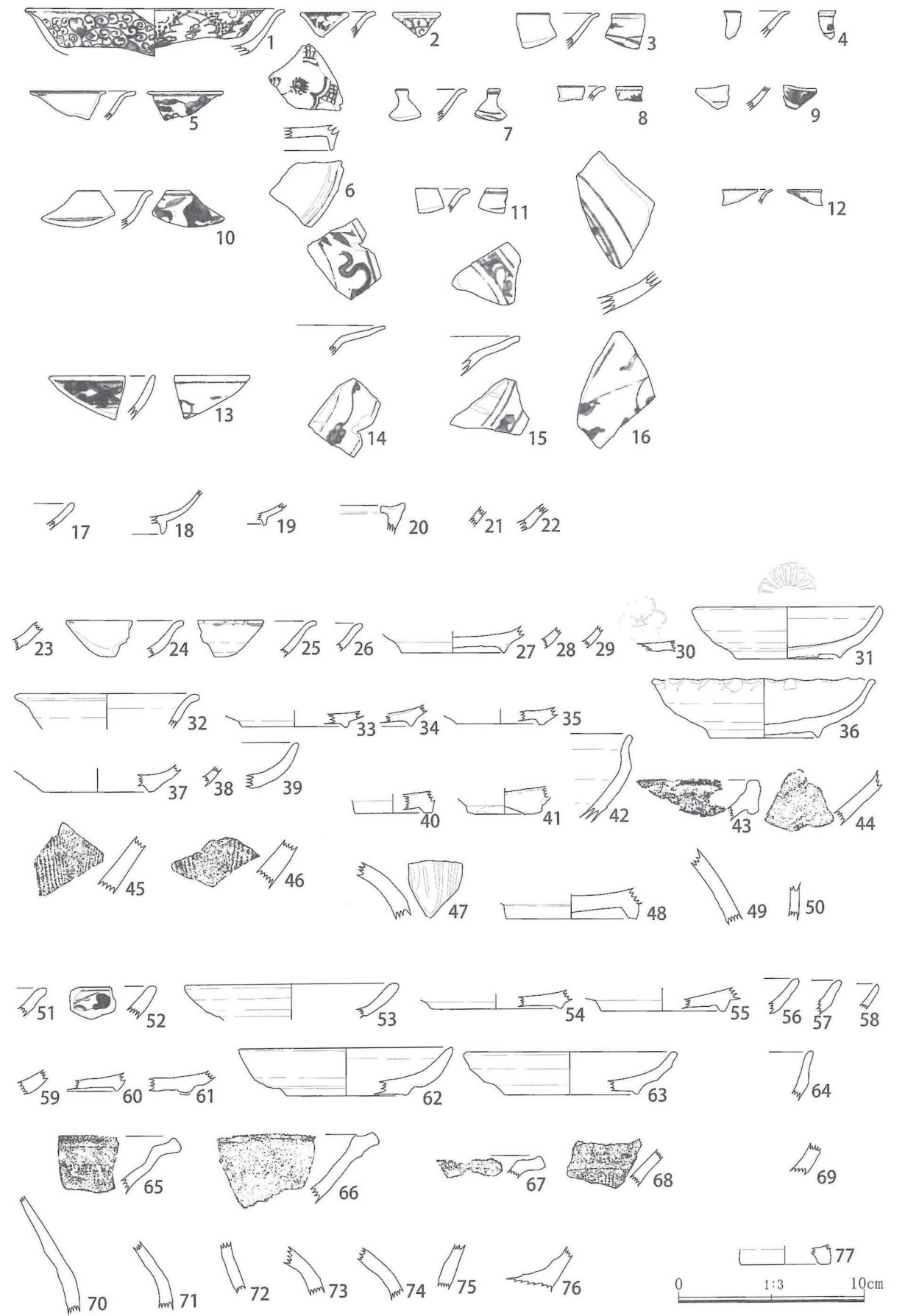
第80図 二の丸地区 F2・F3 グリット SV1 (エレベーション図・立面図)

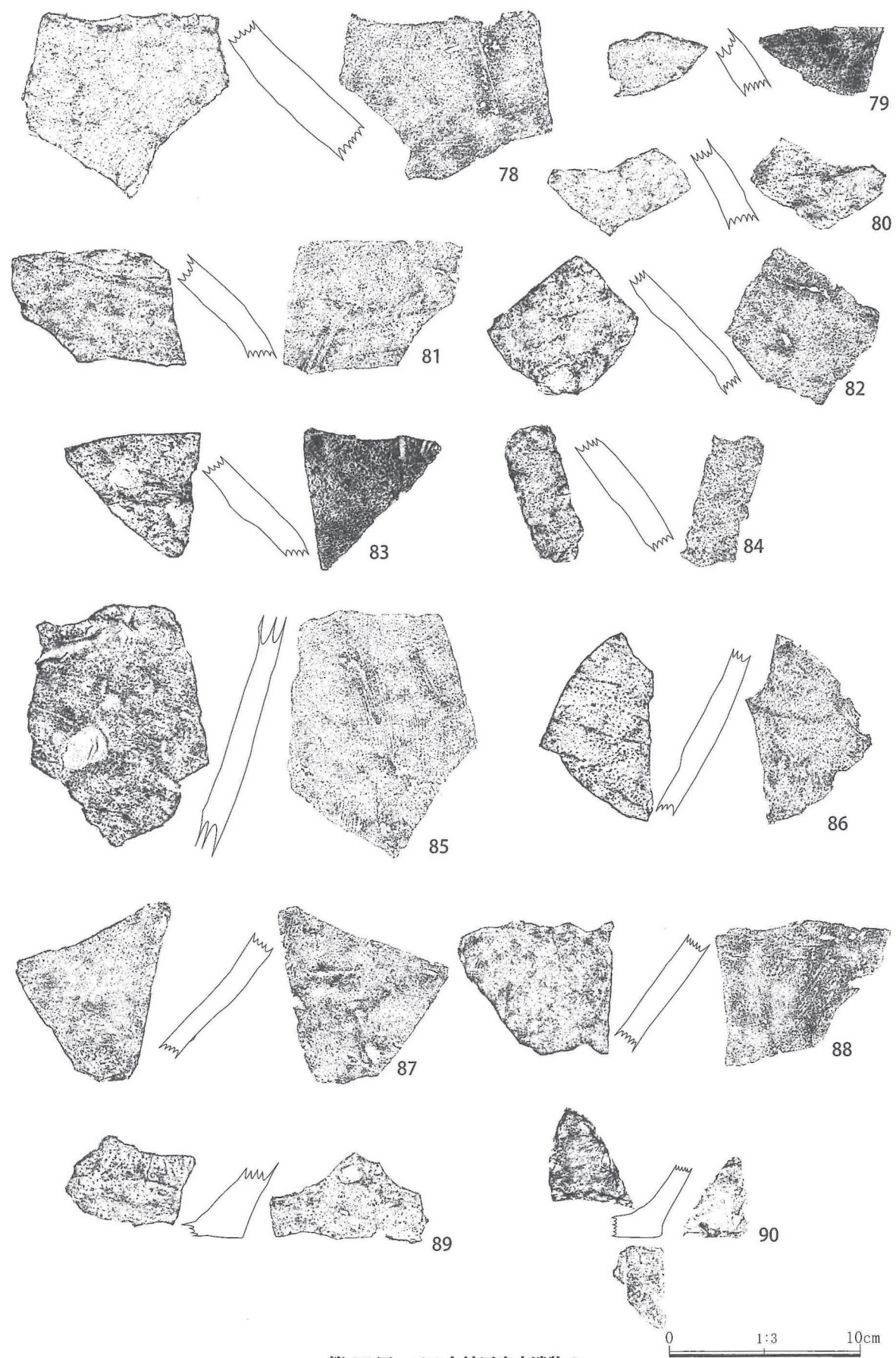


第 81 図 二の丸地区 F3・F4・G3・G4 グリット南虎口 (平面図)

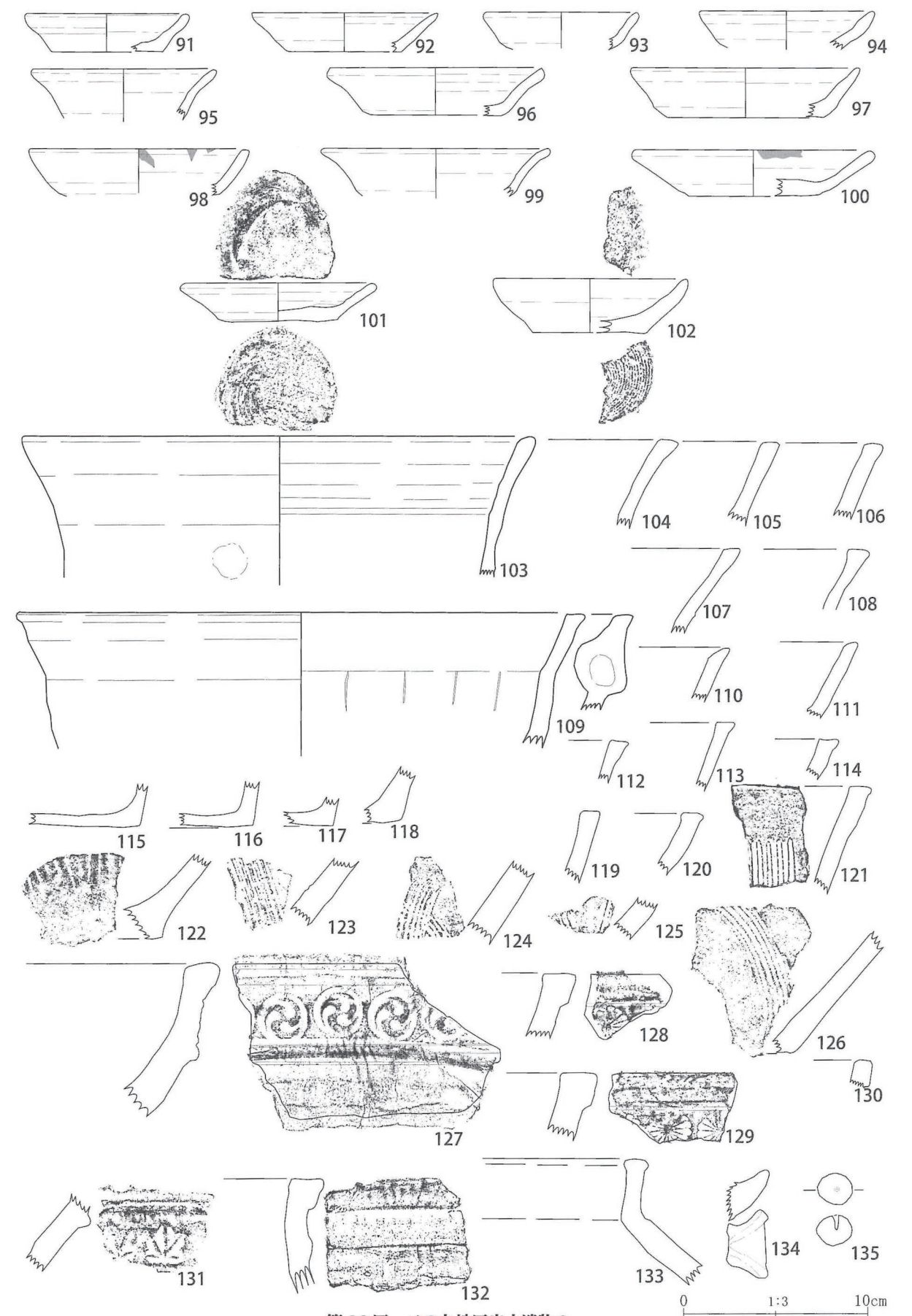


第 82 図 二の丸地区 F3・F4・G3・G4 グリット南虎口 (セクション図①・エレベーション図①・立面図①)

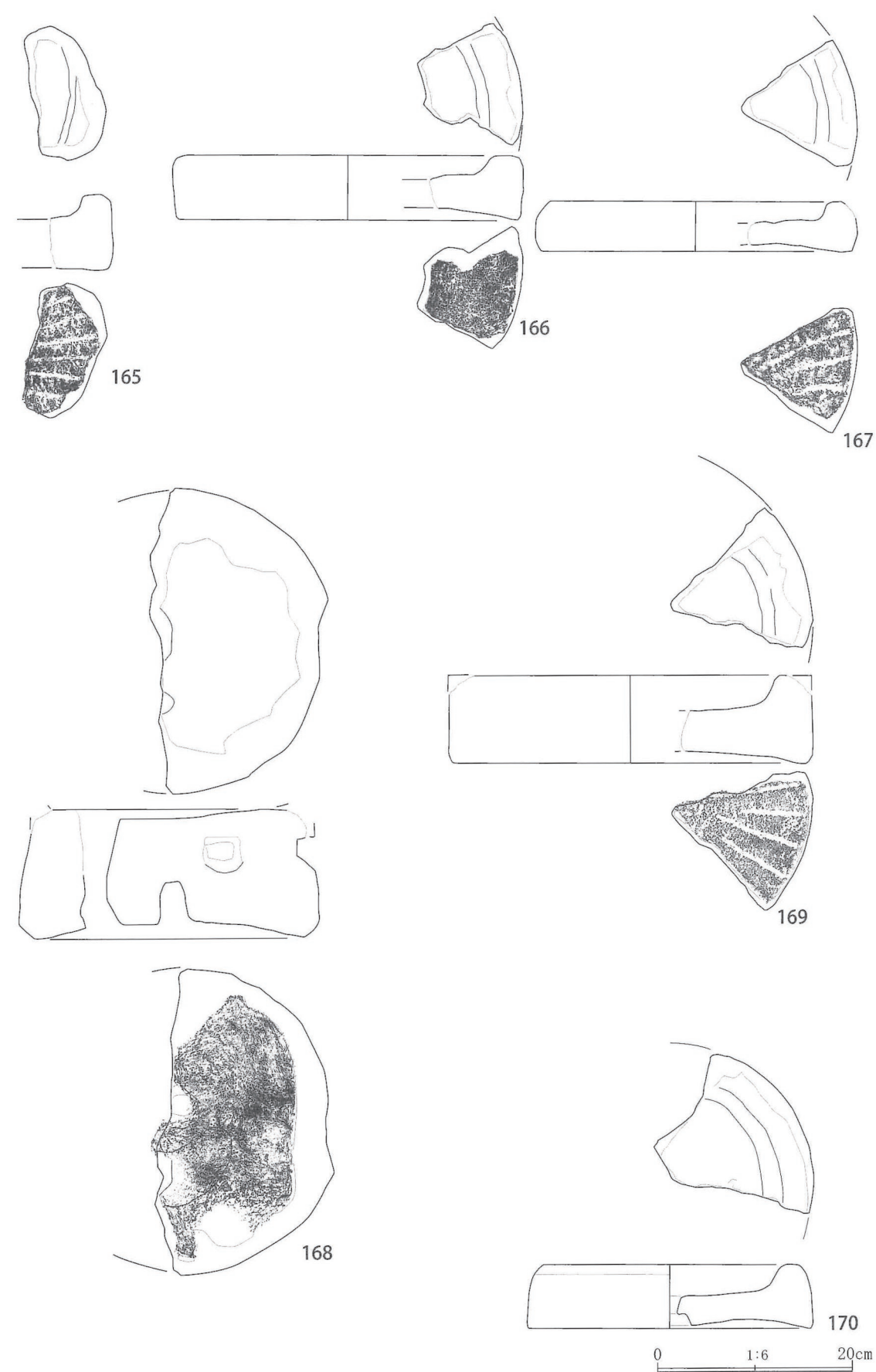
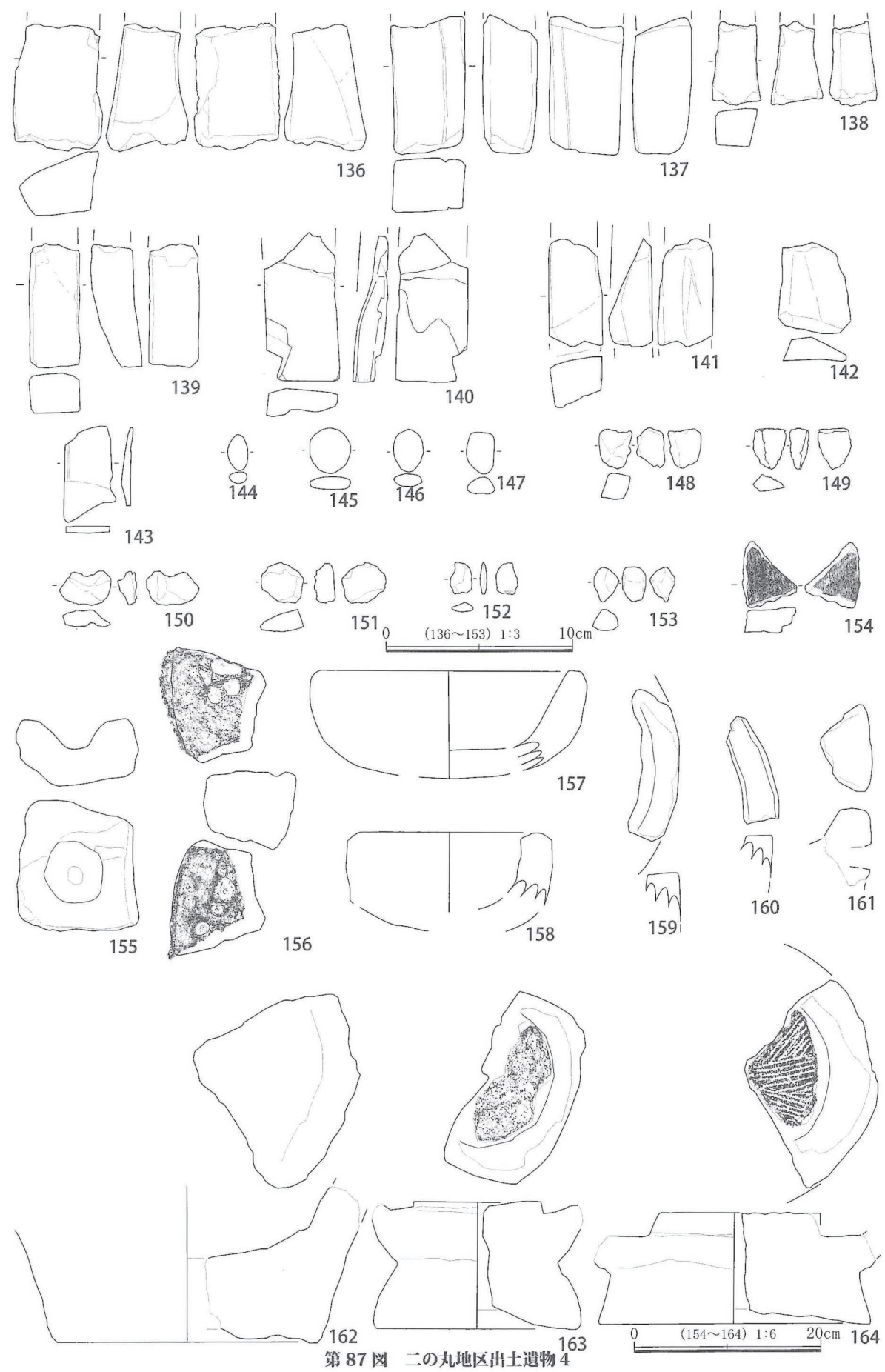


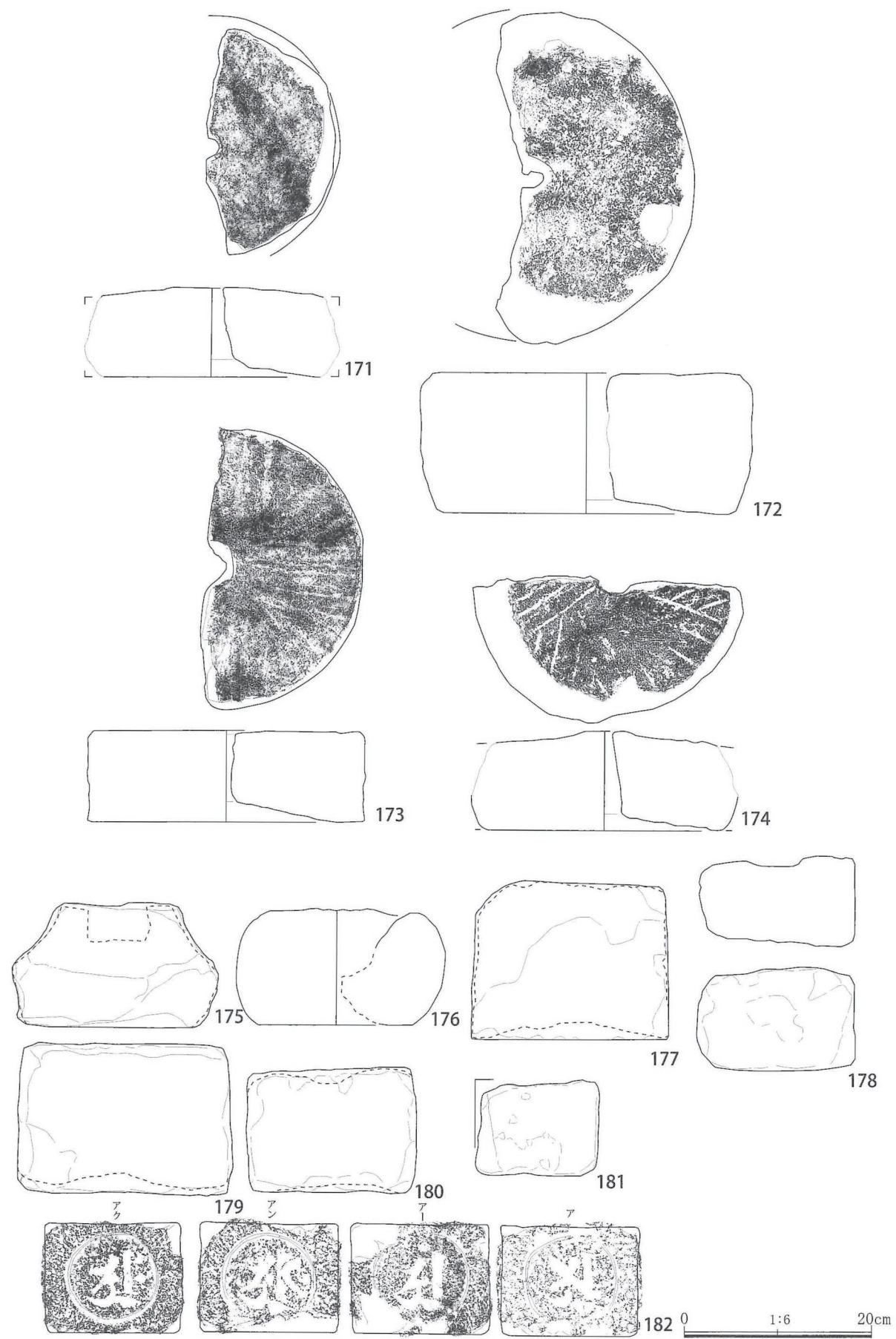


第 85 図 二の丸地区出土遺物 2

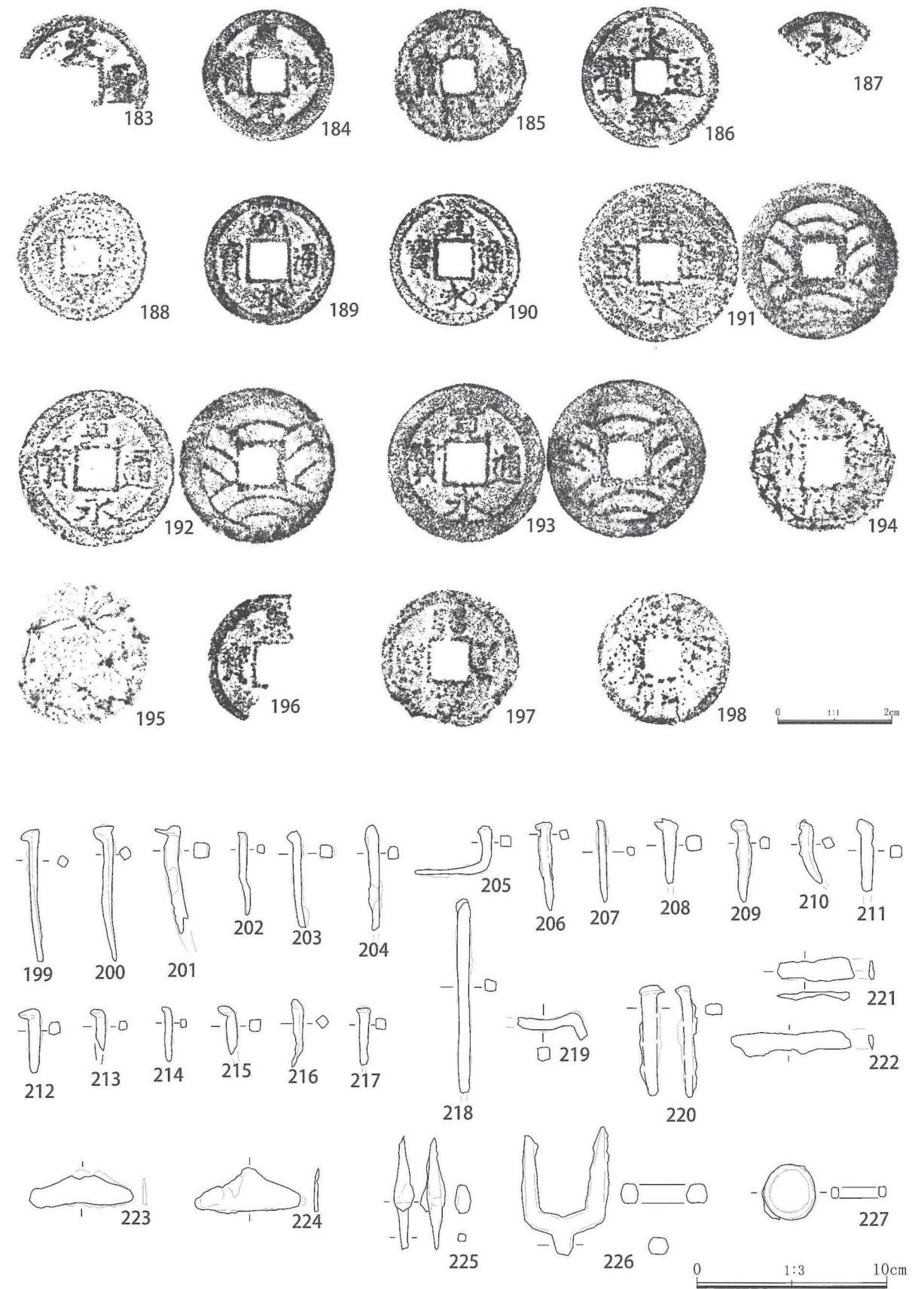


第 86 図 二の丸地区出土遺物 3

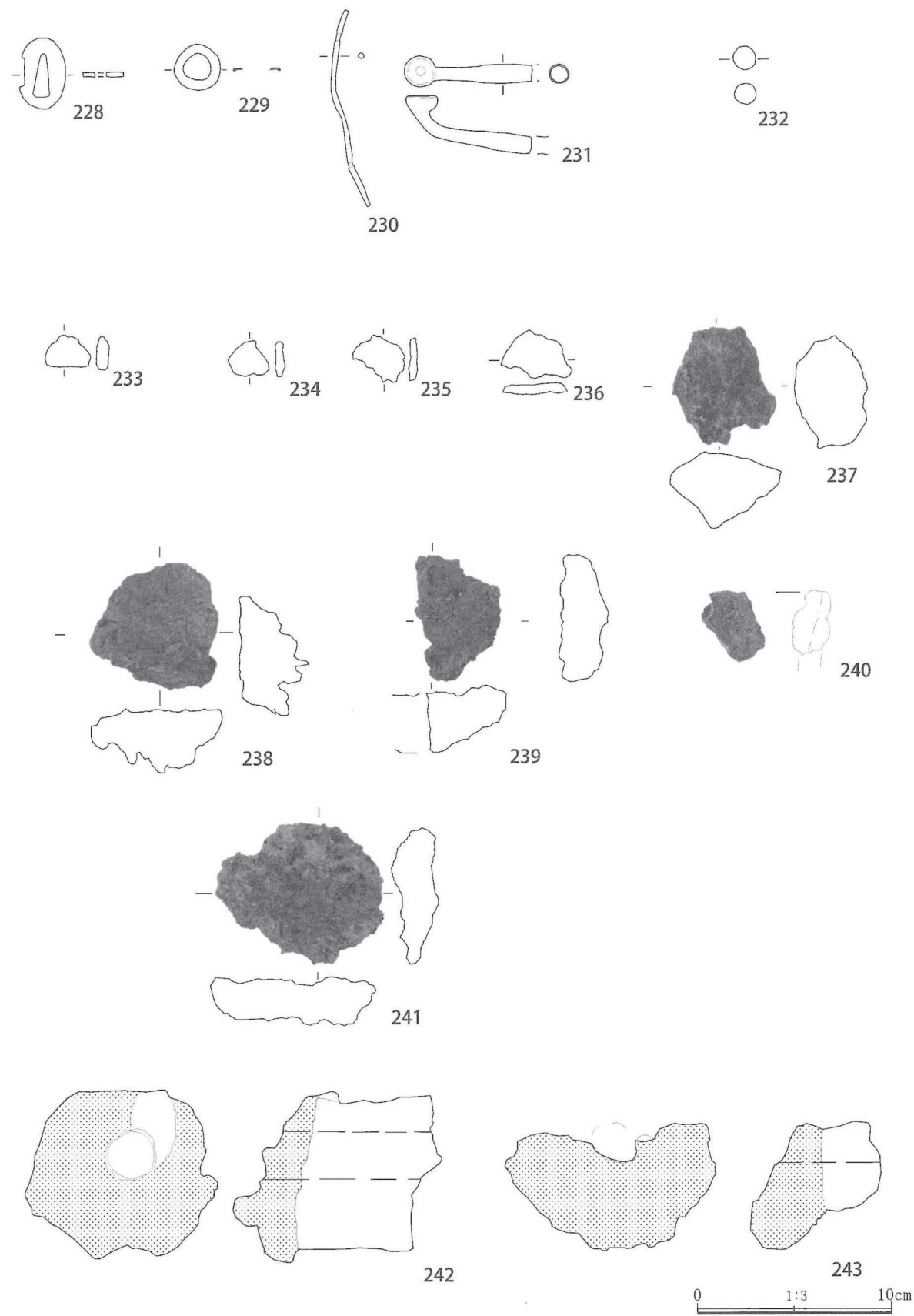




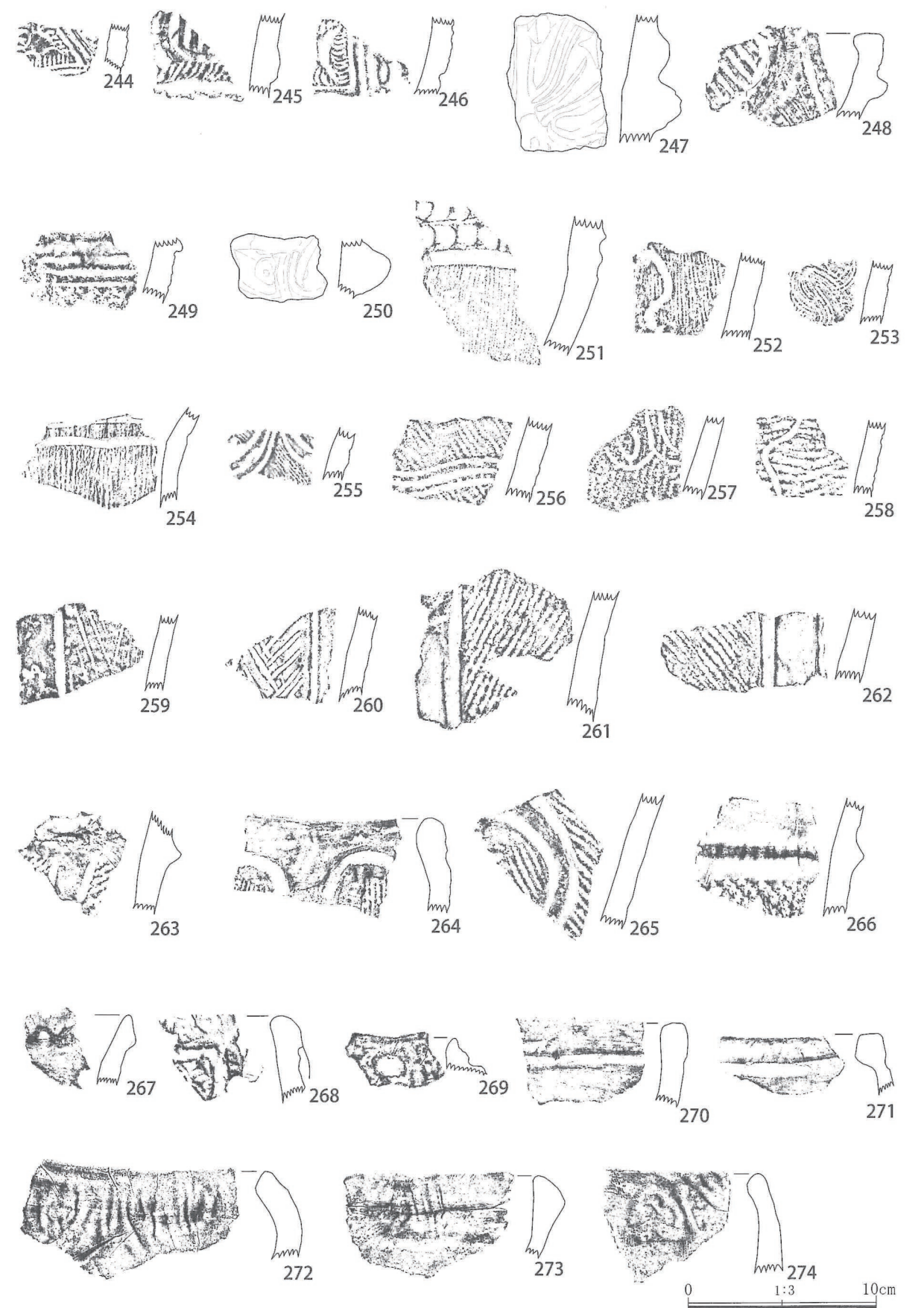
第 89 図 二の丸地区出土遺物 6



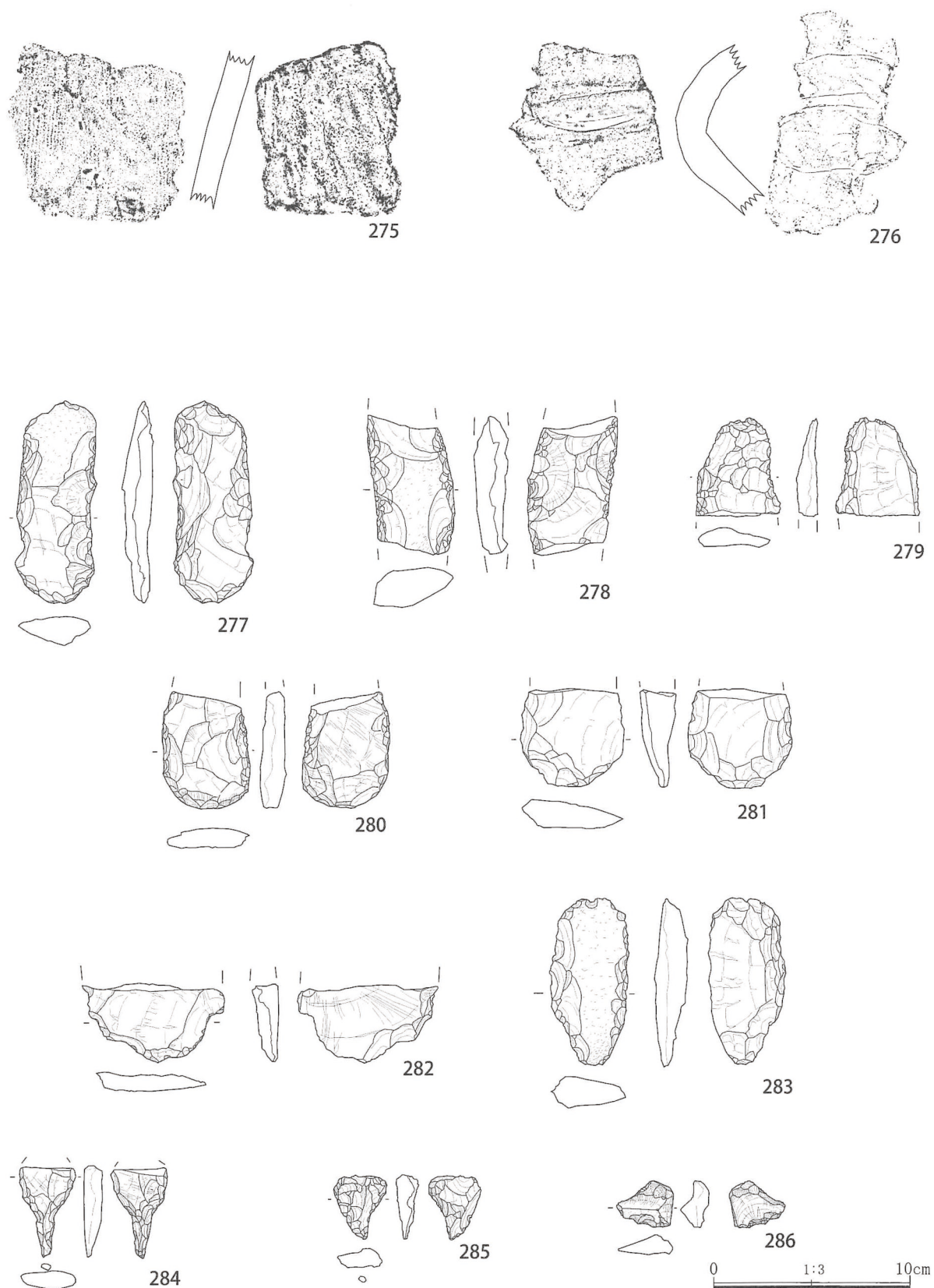
第 90 図 二の丸地区出土遺物 7



第 91 図 二の丸地区出土遺物 8



第 92 図 二の丸地区出土遺物 9



第 93 図 二の丸地区出土遺物 10